

宗 像

大 井 三 倉 遺 跡

宗像市文化財調査報告書

第 11 集

1 9 8 7

宗 像 市 教 育 委 員 会

序 文

大井三倉遺跡は昭和60年度に実施された農地構造改善事業に伴い、昭和59年度末から60年度にかけて発掘調査されました。出土した遺物が膨大な量に上ったため整理作業が遅れ、今回の発刊となりました。

大井三倉遺跡で発見された遺構と遺物は当市における稲作文化の開始を物語る貴重な歴史資料ですし、第5号古墳から発見された蛇行鉄器は全国7例目の出土品であり、九州では福岡町手光古墳群発見例に次ぐものです。古代宗像がいかに海峡をへだてた大陸と関係が深かったかを示す重要な資料となりました。

調査において出土したこれらの文化遺産を歴史的教材として現在そして将来に継承してゆく所存であります。

本書が広く文化財保護及び学術研究に貢献することをお願いいたしますとともに発掘調査全般にわたってご協力いただいた多くの方々に心から感謝の意を表する次第であります。

例 言

1. 本書は昭和60年度及び61年度に国・県の補助を受けて実施した大井三倉遺跡の埋蔵文化財調査報告書である。
2. 発掘調査は農地構造改善事業に伴って事前に宗像市教育委員会が実施した。
3. 出土した鉄器の保存処理は福岡県立九州歴史資料館に依頼した。
4. 本書使用の図は酒井仁夫・瀧本正志・古賀信幸・板橋皓世・田中鈴子が実測し、清家直子・徳永映子が浄書した。
5. 本書使用の写真は酒井・瀧本・清水が撮影した。
6. 本書は酒井が執筆・編集した。

本文目次

	本文頁
I 調査の経過	1
II 位置と環境	3
III I区の位置と環境	5
1 立地	5
2 古墳	5
3 その他の遺構と遺物	8
4 まとめ	9
IV II-A区の遺構と遺物	11
1 立地	11
2 袋状竪穴	11
3 弥生時代の住居跡	11
4 古墳時代の住居跡	11
V II-B区の遺構と遺物	12
1 立地	12
2 V字溝	12
3 出土遺物	12
4 まとめ	14

I 調査の経過

宗像市大字田熊の平野地区が農地構造改善事業対象地となり、地区内の文化財確認調査を昭和60年3月4日より同月29日にかけて実施した。当時の状況は中央の谷部水田を挟んで東西の丘陵地は段々に開墾された畠地であり、第1号墳と命名した頂部に祠を祭った凸起部を除いては、地表面で遺跡は確認されていなかった。

西側丘陵の各所に計12本のトレンチを設定した。その結果、南半では表土下約20cmで地山となり、遺構は検出されなかったが、丘陵先端に近い北半では古墳の石材が各所で確認された。

東側丘陵の各所には計20本のトレンチを設定した。その結果、丘陵北半の一部で土器包含層を、丘陵中央部で弥生式土器包含層を検出した。本調査の結果では前者がⅡ-A区とした古墳時代住居跡群に、後者がⅡ-B区とした弥生時代V字溝に該当する。他の地点のトレンチでは開墾による地山削平が著しく、遺構は検出されなかった。

4月24日からⅠ区の本調査を開始し、試掘で確認された第1～3号墳の表土剥ぎ及び盗掘坑内の排土を行った。一方、その他の地区の表土を剥いだところ、6基の古墳と石棺1基を検出した。第3～8号墳は円形周溝を残しており、第4・5号墳の周溝中からは多くの須恵器・土師器が出土した。第3～6号墳の墳丘下からは石棺や土壇墓が発見された他、弥生時代の土器や石器も僅かながら出土した。

8月2日にⅠ区の発掘調査を全て完了する。

伐採の遅れていたⅡ区の調査を10月1日から開始する。北側丘陵をⅡ-A区とし、重機を用いて表土を剥ぐが、その東半は畠地造成のためか地山が削平され、中央地区で袋状竪穴の底部のみが僅かに3口検出されたのみである。弥生時代中期前半の土器細片を含んでいた。斜面を西に下った西半では弥生時代住居跡2軒、古墳時代住居跡9軒が検出されたが遺存状況はすこぶる悪いものであった。また北側斜面の再堆積黒褐色土層中には多くの土師器が含まれていた。

10月19日からはⅡ区南半のⅡ-B区の調査を開始する。ほとんどの地区が畠地造成のために削平されていたが、尾根瘤部を取りまくような溝が1条発見された。溝の東端は畠地造成のために逆に旧地表上に1.5mも盛土されており、溝自体は旧谷に落込んでいたようである。

10月31日より11月5日にかけて調査対象地内最南端の古墳かと思われる地点を調査したが、自然地形による瘤部と判明する。

11月30日に全ての発掘作業を終了する。

発掘調査の組織は次のとおりである。

総括	宗像市教育委員会	教 育 長	竹 原 瑛
		教 育 部 長	白 木 国 明
		社会教育課長	乙 藤 重 松
		社会教育係長	井 上 弘
庶務会計		社会教育主事	安 部 芳 次
		主 事	城 月 かよ子
発掘調査		主 査	酒 井 仁 夫
		主 事	原 俊 一
		囑 託	瀧 本 正 志
			(現福岡市教育委員会)
	調査補助員	山口大学大学院	古 賀 信 幸

Ⅱ 位置と環境

北方の遠賀郡境を限る宗像四ツ塚（城山・金山・孔大寺山・湯川山）に、南方を戦国の武将許斐氏が城を築いた許斐山と磯部山を初めとする鞍手郡境をなす連山に、さらに西方を水落山から対馬見山・宮地嶽へと連なる山塊に囲まれた沃野は、釣川のもたらす宗像郡内最大の穀草地帯である。特に、西流してきた釣川が北方から朝町川・高瀬川・八並川といった支流を集めて西北方に向きを変える田熊から東郷・曲・南郷にかけてが最も広い沃野を見せ、その周辺に古代遺跡が集中するのも宜べなるかなである。

宗像地域は福岡地域や朝倉地域に比べて弥生時代の遺跡は希薄である。かつて田中幸夫氏によって紹介された田熊遺跡と日の里団地造成に伴って調査された田熊中尾遺跡、田熊上ノ畑遺跡からは弥生時代各期の遺物が出土しているが、遺構は明確でなかった。近年の激化する造成工事に伴って弥生時代遺跡は確実に増加しつつある。前期から中期にかけての袋状堅穴や溝を検出した遺跡としては釣川上流域で富地原小嶺遺跡・石丸遺跡があり、中流域に須恵ヒクノ浦遺跡・光岡長尾遺跡・曲香畑遺跡・久原瀧々下遺跡・久原遺跡と今時報告の大井三倉遺跡がある。一方、集落遺跡については明確な資料を得ていない。野坂一町間遺跡において中期の掘立柱建物を検出しているものの、住居跡については吉留京田遺跡と大井三倉遺跡で僅かに検出されているにすぎない。前期から中期にかけての墓跡については久原遺跡において良好な資料が検出されている。前期においては土壇墓あるいは木棺墓を成人用に、小児には甕棺を用い、墓域を異にしている。土壇墓のうち1基は壺を、また1基は朝鮮式磨製石鏃4本と石剣を副葬していた。中期になるとより高位な尾根に墓域を移し、成人も小児も土壇墓のみとなる。このうち最大規模の土壇墓中には朝鮮製の可能性の強い細形の銅剣と両耳の銅矛が副葬されていた。宗像地域では津屋崎町今川遺跡で日本最古の青銅製品が出土しているといっても、それは朝鮮半島出土品に直結する遺品であり日本の弥生時代青銅器の系譜とはまったく関係ない型態をしている。他に沖ノ島・玄海町・田熊で銅剣や銅矛が僅かに出土しているが、他地域と比較して青銅製品の発見例が少い。銅鏡に至っては皆無である。青銅製品が流布する中期中葉から後期中葉にかけての遺跡が宗像地域で明瞭でないのと関連がある。宗像市内の後期の遺跡としては吉留京田遺跡検出の小児甕棺群が確かめられただけである。遺跡が稀薄な上に福岡地域に見られる成人用甕棺が用いられず、時に出土する青銅器の型態が特異な点、宗像地域の弥生文化の特性を示していよう。

釣川中流域の古墳時代遺跡は弥生時代とは一転して特異な発展をとげるようである。かつて田中幸夫氏が釣川にまたがる東郷橋の下流約200mの地点の川床泥土中より発見した土器は前期の土器と考えられている。また日の里団地造成に際して発見された東郷高塚古墳は大きな後

円部に対し、しまったくびれ部から低く、あまり開かない細長い前方部を持つところから宗像郡内では最古の前方後円墳であると考えられている。なお、東郷高塚古墳については昭和61年度から3ヶ年計画で確認調査を実施しており、初年度の調査の結果、前方部は見かけより広がりそうである。昭和57年に東郷高塚の南東1.5kmの久原瀧ヶ下遺跡検出の住居跡からは畿内庄内式土器に伴って鉄鋌が出土している。釣川中流域の沃野をひかえ、なおかつ鉄素材を隣接した住居跡から出土するという歴史的背景が宗像最古の前方後円墳をこの地に造営せしめたと考えられる。この時期にはまだ津屋崎町奴山・勝浦地区に古墳は築かれていないのである。

また、4世紀後半からは沖ノ島で対大陸の祭祀が開始されるが、「3世紀から4世紀にかけての奴国の衰退は、関連する神々の衰退と同時に相対的に宗像族及び宗像神の発展となったと思われる。……このような動向は、筑紫君磐井の沿落によって更に拍車がかけられた。磐井生存の頃でも、筑紫君と胸形君は対等の存在であったかもしれぬ。大陸・朝鮮への渡航は、両者共々に行っていたであろうか。しかし乱後は、宗像君の独壇場^{註1}となったにちがいない」と渡辺氏は宗像古代勢力に言及している。

旧宗像郡内には約1300基の古墳が確認されている。この中に39基の前方後円墳を含むが「うち22基は西の海を望んで、南北に点々と群在する津屋崎古墳群は、胸形君の5・6世紀代の奥津城で一つの圧巻である。この南端にはなれて宮地嶽古墳^{註2}がある」。釣川中流域の5・6世紀代の古墳群のうち、本流北側で久戸古墳群・稲元古墳群・須恵ヒクノ浦前方後円墳・相原古墳群が、本流南の各支流域にスペットウ前方後円墳・久原古墳群が、各河川上流域に三郎丸古墳群・城ヶ谷古墳群・半田古墳群・稲元久保横穴群・城山古墳群・名残古墳群・浦谷古墳群・朝町百田古墳群・朝町妙見古墳群・朝町山ノ口古墳群・大徳町町口古墳群・大徳町原古墳群・村山田高江古墳群と大井三倉古墳群が密集して立地し、釣川流域をグルリと取り囲んでいる。これら古墳からの出土品中で注目されるのは朝町山ノ口第5・6号墳石室中出土の鍛冶工具で、鉄鉋2と鉄鋌4点を含んでいる。朝町山ノ口古墳群と同様に宗像郡の南を画する鞍手郡境の山塊北麓の集落遺跡（武丸高田遺跡・野坂一町間遺跡）では鍛冶炉が検出され、鉄滓も出土している。釣川流域の古墳時代勢力の背景を考える時、4世紀代の久原瀧ヶ下遺跡を初め、鉄生産が重要素となっていたと考えられる。同時に稲元地区で群在する6世紀後半から8世紀の須恵器窯跡群も往時の重要な産業であったろう。宗像郡内でこの地域ほど窯跡が集中する所はなく、沖ノ島の8世紀代露天祭祀遺跡で出土する有孔土器もこの地域で焼成されたのではないかと思われ、将来の発見が期待される。

註1 渡辺正気「古代の宗像」『歴史手帳』

13巻9号 1985

註2 註1に同じ

III I 区の遺構と遺物

1. 立地 (第1図)

釣川に向って北に派出する丘陵は標高27mを最高所とし、その先端は北北西に伸びて、狭い馬背状になった標高18~15m附近に9基の古墳が築造されている。一帯は畠作に際しての開墾のために甚しく削平され、かろうじて祠を祭った1号墳のみが墳丘を残していた。

2. 古墳

1) 1号墳 (第2図)

墳丘は頂部を残すのみで裾部は削られ、周溝も残っていなかった。石室は玄門部で天井を残し、1枚石を立てた閉塞石も遺存していたが、玄室は甚しい盗掘を受け、床面まで攪乱されていた。石室のプランはハゴ板状の玄室と貼石した短い羨道を持っている。墓道は短かく立ち上り、全体に堅穴系横口式石室の名残りを止めている。

墓道から須恵器蓋杯 (第17図-1・2) が出土した。また玄室内攪乱土中より玉類 (第29図・第3表) と小刀片・鉄鏃 (第32図) が出土した。刀基部は布によって繁巻きされ、柄の木質が上に遺存している。鉄鏃はやや短かい尖根式で、刃部は片丸造りである。

当古墳は墓道から出土した須恵器から判断して6世紀後半まで使用され、築造はそれ以前、おそらくは6世紀中頃と考えられる。

2) 第2号墳 (第3図)

墳丘は北側で比高差1.7mの盛り上りを残し、南側に周溝をめぐらしている。玄室の平面プランは長方形で西に開口する。各壁は持ち送って直線的に内傾し、奥壁は床面からの高さ1.6

第1表 各古墳出土遺物一覧表

	武器		馬具		工具		装身具								土師器		須恵器															
	刀	鏃	銚	辻金具	ハミ	蛇行鉄器	刀子	斧	鋸	耳環	勾玉	嘉玉	切子玉	小玉	土玉	管玉	白玉	変形玉	空玉	杯	高杯	椀	杯	高杯	碗	蓋	壺	甕	罎	提瓶	平瓶	
1号	1	9												6	8	1							2					1				
2号	1	13		1					1	3	2	1	1	32	108			2			1		1	1				1	1		1	
3号	1	4					4			1	1		1	2	29	21	4	6	4								1				1	
4号	3	9	1	2	1		3	2				1		1	7	6			1		1	3	2	10	1	1		3	1	4	5	6
5号	2	40				1		1	1			1		33	36	3			1		2		4	1			1		4	2	1	
6号	2	3													3													1				
7号										1											2		5	2			3	2		1		
8号	1	4							1						10						1		1				1			2		

m残している。床面は玄門側に高まり、両側に貼石された前庭部、そして墓道へと至っている。

玄室床面は盗掘によって攪乱され、鎌・刀・鏡板・刀子・鋸・鏝・釘といった鉄器（第32図）と多くの玉類（第29図・第3表）が散在していた。また墓道埋土中からは若干の玉類と共に須恵器（第17・18図）が遺棄されていた。12の大甕は墳丘上からの転落品かも知れない。

玉類は総数146点と多く、種類も多彩である。このうちには4のような方形ガラス玉、球体に多くの刺突孔をあけた土製丸玉（6・18）といった特異な例を含んでいる。

墓道から出土した須恵器により当古墳は6世紀末まで使用されていたと考えられる。

3) 第3号墳（第4図）

当古墳群中最北の丘陵先端部に位置する。墳丘径は約13mで、南から東にかけて周溝をめぐらしている。南側墳丘の一部は方形の中世墓によって切られている。

主体部は西に開口する単室の横穴式石室である。玄室は方形プランで、各壁の石積みは乱雑であり、持ち送りも不規則である。羨道は幅80cmと狭く、床面からの高さ80cmで天井石に至る。羨道外端には角礫を積み上げて天井までの間を閉塞していた。また羨道の床面中央には排水溝を掘り込んでいる。

玄室床面は盗掘によって攪乱されており、若干の鉄器と玉類が散乱していた。また墳丘中から須恵器が出土した。鉄器（第32図）は刀・鎌・刀子・鋸を含む。ほとんどが破片であるが、両刃の鋸は先端が丸く、刃部長10.7cmを残している。玉類（第30図・第3表）は総数67点と第2号・5号墳に次いで多く、扁平楕円形のガラス玉（3）、メノウ製の短長の切子玉（4）、ガラス製の六角柱の管玉（10）といった変形品を含んでいる。

墳丘中から出土した土師器及び須恵器（第17図）によって、6世紀末に築造された古墳と考えられる。

4) 第4号墳（第5図）

南北径15m、東西径11mの楕円形の墳丘を持つ。南側から東・北側に周溝がめぐり、石室が開口する西側は丘陵斜面へと落込んでいる。

石室は細狭な単室の横穴式石室である。玄室内に天井石が落込んでおり、奥壁は床面からの高さ約2mを残している。各壁は腰石を直立させ、その上部の小振りの用材を持ち送っている。玄門部には天井石が残り、床面からの高さは1.05mである。仕切石の外側には深さ15cmの埋土上に板状石を置き、その上に板石を立てて閉塞していた。羨道中央には排水溝が伸び、墓道へと続いている。

玄室床面の玄門側と奥壁側に鉄器と玉類が散乱していた。羨道床面からは須恵器横瓶（第19図-26）が出土した。墳丘中（13～25・29）及び周溝中（第20～22図）から多量の須恵器及び土師器が出土した。

玉類（第30図・第3表）中には碧玉製の管玉を多く含んでいる。馬具（第33図）は締具・兵

庫鎖・鏝・辻金具・雲珠と当古墳群中では最も多くのバラエティーを持っている。武器（第32図）は広根及び尖根の鏝と大刀で、工具では斧・刀子・鏝が出土した。

墳丘中から出土した須恵器により当古墳は6世紀後半に築造されたと思われる。また周溝中からの出土品中には7世紀後半の杯（35）を含んでいる。

5) 5号墳（第6図）

墳丘高約12mの円墳で、南北に周溝をめくらしている。盛土は僅かに残すのみであった。主体部は西に開口する単室の横穴式石室である。玄室の各壁は腰石を直立させ、上の用材を持ち送っており、奥壁では高さ2.05m残している。床面には玄門側で小礫による敷石を遺存させていた。玄門は横幅1m大の石材を横積みして築いており、その前面に小材を積んで羨道部としている。その境に板状石一枚を立て、外側を約40cm埋めてからさらに2枚の板状石を横に並べ立てて閉塞していた。

玄室の南西隅床面からは鏝・手斧・鋸・刀子と共に蛇行鉄器が出土した（第7図）。蛇行鉄器は袋部を石室側壁にもたせかけ、ハンドル状部分を床面に密着させていた。墳丘中からは須恵器と土師器が集中して出土した。

床面から散乱した状態で出土した玉類（第30・31図・第3表）は74点にのぼるが、それらのうちに碧玉類の異形の小形小持勾玉（3）を含んでいる。鉄器（第34・35図）は鏝・大刀・刀子・斧・鋸と蛇行鉄器が出土した。尖根鏝はほとんどが片丸造りであり、僅かに両刃のものと片刃のものを含んでいる。鋸は両刃で中央部が狭く、両端が広がっている。中央部を欠損しているが、推定刃部長17.5cm、全長25.1cmである。茎部には木質が残っている。蛇行鉄器はハンドル状部と軸部よりなり、別造りである。ハンドル状部は浅いU字形をなし、先端を丸めて環部を作っている。中央の長方形納穴に軸端部を通し、頭を叩きつぶしている。蛇行する軸部は3度くねらせており、ハンドル部に近い最後のくねりは急で、ほぼ180°曲げている。軸端の袋部は折り重ねて作られており、端部を折り曲げ、目釘穴をうがっている。軸部の断面は中央部が広く面取りした方形で、ハンドル部に接す部分は梯形である。ハンドル部の環幅は38.2cm。ハンドル部を垂直に立てた場合の高さは64.0cm、長さは55.6cmである。

墳丘中から出土した須恵器（第23図）により当古墳は6世紀末に築造されたものと考えられる。

6) 第6号墳（第8図）

削平が甚しく、北側に2号墳と共有する周溝を残すのみで、墳丘については不明である。石室は玄室の腰石を残すのみである。床面には角礫による若干の敷石が残っていた。

床面からは広根鏝・刀・刀子・辻金具片（第36図）と土玉が出土した。このうち刀1本は奥壁下に壁と平行して出土しており、埋葬時の原位置を保っていたものと思われる。

7) 第7号墳（第9図）

北半のみ墳丘を残し、南半は崖法面によって切られている。北側から東側にかけて周溝がめぐっている。主体部は単室の横穴式石室であるが、玄室の腰石を僅かに残すのみである。腰石は床面高20～30cmの小振りの石材を横長に用いている。玄門間と思える位置の床面に平石を用いて敷石している。

石室内からは金環（第31図）1点が出土したのみである。北側の墳丘中からは第26図68・69・72・73・75・79・80の須恵器と77・78の土師器が集中して出土した。70・71は墓道からの出土品で追葬時の埋納品と思われる。

出土品から当古墳は6世紀中頃に築かれ、6世紀末まで追葬されたものと考えられる。

8) 第8号墳（第10図）

調査区内南東端に位置し、西側から北側にかけて周溝がめぐっている。南側は谷部に落ち込む崖法面によって切られている。内部主体は竪穴系横口式石室で、玄室はハゴ板状プランを持つ。各壁は腰石に横長の石材を用い、上に小材を積んでおり、残存する限りでは各壁は直立している。玄門間の支切り右上に閉塞石を立てていた。床面には僅かながら敷石が残っていた。

石室内からは僅かな鉄器（第36図）と土玉（第31図・第3表）が出土した。広根の畿は両丸造りで長い逆棘を持つ。周溝中からは多くの須恵器（第27図）が出土した。これらは6世紀後半に属するものであるが、他に中世土師器（第28図）も出土している。

3. その他の遺構と遺物

1) 小石室（第11・12図）

第1号小石室は8号墳南の谷部斜面で検出された。南西方向に開く小石室で、小材による腰石を残すのみである。第2号小石室は4号墳と5号墳の中間斜面で検出された。方位及び規模は1号小石室と大差ない。時期は5号墳が築かれた以降である。

2) 石棺（第13図）

第1号石棺は2号墳の北西側墳丘裾から検出された。石材は南側の小口部と側壁の一部を残すのみであった。内法は40×150+2cmで、成人用である。第2号棺は3号墳東側墳丘下で発見された小児棺である。岩磐を二段掘りし、黄色砂質土を埋めて側板の高さを調節しているが南小口部は素掘り岩磐を利用し、石材を用いていない。床面には粘土を敷いて枕部を作り、上に酸化鉄の痕跡を残している。天井は板状石2枚よりなる。内法は長さ106cm、頭位幅25cm、足位幅13cmである。

3) 土壇墓（第14図）

6号墳墳丘下より第1～3号の3基の土壇墓が検出された。これらは平行及び90°の位置関係にあり、1号土壇墓の一部は6号墳掘り方によって切られている。4号土壇墓は2号墳の北側で発見された。壇底まで90～100cmと深く、底面は長方形である。4号土壇墓中からは馬具

(第36図)が出土した。締具・ハミ・鐙であると思うが、締具及び鐙に有環棒状具が取り付け点、疑問なところもある。

4) 石蓋土壇墓(第13図)

第1号石蓋土壇墓は3号墳東側墳丘下から発見された小児用である。岩磐を素掘りし、ほぼ垂直に壁を立てた墓壇を形成している。内法は長さ74cmで、幅は東側がやや広く18cmあり、こちらが頭位と思われる。第2号石蓋土壇墓は4号墳南側墳丘下から発見された。素掘りの墓壇は自然傾斜する上面と同様に床面も西側に下がっている。墓壇上面は一枚石で蓋をされ、西側小口に断面方柱の石を横に置いている。

5) 土壇(第15図)

2号墳の南西側で発見された。壇底までの深さは130cmと深く、壇底プランは楕円形である。壇中からは須恵器片が多く出土したが、性格は不明である。

6) 横穴(第16図)

2号墳の南側、4号墳南東側周溝に接して検出された。周溝との切り合い関係は不明瞭であった。南西に開く長さ130cmの墓道から斜めに45cm下って玄室床面となる。玄室床面は横長の楕円形を呈し、壁断面は上半が崖れているものの袋状である。床面からは鉄斧(第36図)が出土した。やや肩が張り、身側縁は反りを持っている。袋部中には木質が遺存している。

7) 中世墓

3号墳の南側墳丘を切って中世墓が検出された。床面は方形プランで、三方の壁下に周溝がめぐっている。また4隅と床面中央そして北壁中央に内傾する柱穴が計6本掘られている。床面からは龍泉窯青磁壇が出土した。

4. まとめ

I区で検出された多種の遺構と遺物は時期的もいろいろと変遷がみられる。

弥生時代前期の土器と石器が僅かながら発見されており、II-B区との関連が考えられる。

弥生時代の終末から古墳時代に入ってI区は墓域となり、石棺や石蓋土壇墓あるいは土壇墓が営まれるようになった。

6世紀中頃より古墳が築かれるようになった。第1・8号墳は調査区中尾根線上の最も高い位置にある。石室は竪穴系横口式の伝統を残し、玄室はハゴ板プランである。2・7号墳と恐らくは6号墳も含めて単室の横穴式石室を主体部とし、長方形プランの玄室と短い羨道部を持ち、下向する墓道へと続いている。これらが第2のグループである。次いで第3のグループは第3～5号墳で、長方形の玄室と長い羨道を持っている。腰石には前記グループのものよりも大形材を用いている。これらは6世紀後半以降に築かれたものであろう、つまり第1グループから第3グループにかけて立地条件の悪い丘陵先端部及び西側斜面部へと途々に古墳が築かれ

ていったといえそうである。7世紀初めには全ての古墳への追葬も行われなくなった。

古墳が築かれていた6世紀代に土壇や横穴も僅かに掘られているが、これは特種な例であろう。古墳築造後には小石室が2基造られ、これをもって古墳時代の終焉をむかえる。

中世になって墓が1基のみ営まれている。構造は柱を立て、恐らくは円錐形の屋根を葺いたものである。

各古墳からは多くの遺物が出土しているが、玄室出土品で床面から原位置を保っていたのは5号墳のみである。その中に蛇行鉄器を含んでいた。蛇行鉄器はハンドル部を床面に密着させ、袋部を側壁に持たせ掛けていた点は、使用に際しての方法を示しているのかもしれない。5号墳が他の古墳に比べて特に規模や副葬品に差異がある（鉄鏃が多かった事はあるが）とは思えず、全体的に当古墳群から馬具の発見が少ないのに、どのような理由でここに副葬されていた点不思議な感を受ける。

副葬品のうちで他に特徴的なのは鋸の出土例が多かった点と装身具のうちでガラス製あるいは石製の特異な形態をした玉類を含んでいた点である。

以上、当古墳群は6世紀中頃から7世紀初頭にかけて築造そして追葬され、その被葬者の生前の社会的性格にはかなりのバラエティーがあったと言えるだろう。

IV II-A区の遺構と遺物

1. 立地 (第37図)

I区に向って東から西に伸びる尾根の先端附近は畠作のために段々に開墾されて地山も著しく削平されていたが、標高17~17.5m附近と12m附近で遺構が検出された。

2. 袋状竪穴

底径2.2~2.5mの円形プランで断面袋状を呈するが、最も遺存度が高い部分でも壁高30cmにすぎない。

埋土中からは僅かな弥生時代中期土器片が出土している。

3. 弥生時代住居跡 (第38図)

第11・12号の円形住居跡は調査区内北西端で検出されたので北側の大半は崖法面で切られ、規模・構造については不明な点が多い。11号住居跡が10号住居跡を切り、両者共壁直下に周溝をめぐらしている。

床面からは弥生時代中期土器の細片が僅かに出土している。

4. 古墳時代住居跡 (第38図)

第1~9・12・13号の方形住居跡が古墳時代に属するものと考えられるが削平が著しく、規模・構造が判明するものは6・7・9号住居跡のみである。なお、すべての住居跡の壁際には周溝がめぐっている。6号住居跡は3.4×3.5mの方形で、部分的に周溝がめぐる。北東壁中央から外方へ排水溝が伸びている。柱穴と思われるピットは北東~南西に直列する壁際2口と床面中央の1口が該当すると思われる。

7号住居跡は4.2×4.5mの方形を呈し、周溝が全周する。北東壁際中央には断面スリ鉢状の半円形ピットが接しており、埋土中に焼土が混っていたが、底面が焼けておらず、この中で火を炊いたとは思えない。床面上に多くのピットがみられるが、このうち2.0×2.2mの間隔を持つ4本が主柱穴と思われる。

9号住居跡は南西壁が削平されているが、一辺4.5mの方形住居跡と思われる。壁際には周溝がめぐっている。床面で検出された4口のピットが全て主柱穴であろう。南東壁際中央に接して断面スリ鉢状の円形ピットが掘られており、周囲から小形丸底壺3点が集中出土した。

出土遺物は土師器のみである。3号住居跡の覆土中からは碗・甕・飯・高杯・小形壺等が集中出土した。各住居跡出土の土器は2・6・7・9号が5世紀後半に、3号が6世紀中頃に属すると思われる。

V II-B区の遺構と遺物

1. 立地

II-B区は標高22.5mを最高所とする南北に長く狭い馬背状の尾根を持つ丘陵で、その西半が調査対象地である。全域が畠地のために段々に開墾され、近時にも地山の削平や盛土が機械力を用いて行われており、自然地形を残していない。但し、II-A区との間に西側から東側へそして南東側へと方向を曲げて入り込む谷の状況は残しており、その谷頭に尾根瘤部が雑木地として遺存していた。この瘤部上には古墳が1基存在する。

2. V字溝 (第40図)

上記の瘤部を取りまくようにしてV字溝が検出された。V字溝は北東—南西方向へ伸び、直角に曲って北西—南東へと伸びるし字形の平面形をしている。曲り部には陸橋を設け、北東端と南東端は丘陵斜面に抜け切ってしまう。

溝の最大幅は5.0m、最も深い所で上面より1.9mを測る。底面は幅10cmで平坦である。土層断面を観察すると、このV字溝は一度自然堆積によって埋った後、さらに深く掘削しなおした事が理解される。V字溝内堆積土は下層が砂礫による水性堆積土、中層が固い粘質土、上層が炭化物を含む黒褐色土となっており、出土遺物は上層に多い。

3. 出土遺物

埋土中からは完形品を含む多量の土器と共に石器・土製品・獣骨角が出土した。

1) 土器 (第41～48図・第4表)

壺 (1～15) のうち1は「く」字に屈曲する胴部を持ち、ほぼ全面にヘラ研磨している。底部は平坦である。4は頸部が口縁部にかけて有段で境に2孔1対の孔が2対穿たれている。肩部には2条の沈線をめぐらせている。器壁を研磨し、淡赤褐色を呈した特異な土器である。壺の大半は大中小型の球型胴部を持つもので、肩部に沈線・羽状紋・重弧紋をめぐらしたものも含んでいる。底部は僅かな上げ底である。外面はヘラ研磨され、丹塗されたもの (図示できなかったが大型のものは全て) も多い。12～15は無頸壺とその蓋である。12・14は2孔、15は2孔1対の4孔を口縁部に穿っている。全て外面を丁寧に研磨しており、特に13の蓋は内外面を研磨し、外面の重弧紋間に丹彩している。

蓋 (16) は頂部をツマミ出し、端部は平坦である。裾部は2段を接合し、接合部内面を指頭で圧えている。

高杯 (17・18) は杯部と脚柱部との境に凸帯を1条めぐらし、裾部は肥厚させ段部を設けている。外面は丁寧に各種方向にヘラ研磨している。図示したもの他、直立する短い柱部と裾部

との境に断面三角の凹帯をめぐらしたのも出土している。

鉢 (19・22) 19は口縁部を僅かに外反させ、球形胴部を持つ。22と共に内外面をヘラ研磨している。

鉢 (20・21・23~39) は口縁を外反させ、端部に刻目を有するものを含む。20・21・23は頸胴部境が「く」字状に屈折し、21はその部位に1条沈線をめぐらしている。

壺 (40~60) には口縁端部に刻目を施したものと無紋のものがあるが、前者が大半を占める。41は僅かに外反する口縁部下と胴部中位に刻目三角凸帯をめぐらし、瀬戸内系の特徴を備えている。40は直立する口縁部外端と口縁部下に刻目凸帯を貼付し、底部は浅く、平坦である。口縁部下に1条あるいは2条の沈線をめぐらすものも僅かに含まれ、42は2条沈線間に刻目を配している。

2) 石器 (第49~51図)

打製及び磨製の石鏃・石鏃・石剣・紡錘車・石庖丁・扁平片刃石斧・柱状片刃石斧・磨製石斧・砥石が含まれる。

打製石鏃 (第49図1~6) は黒輝石製が多く、3と5はサヌカイト製である。全て無茎であり1と5は刃部と基部のみをリタッチした剥片鏃である。

石鏃 (7) は黒輝石製で平坦な基部を持つ。押圧剥離法により両面を均整化させている。全長は8cm程度であろう。

磨製石鏃 (8) は狭長で、断面は肉厚な菱形である。

石剣 (9) の基部は短かく、端部は僅かに「ハ」字状に開く。

紡錘車 (第50図7~11) は全て滑石製で、表裏両面に研磨痕が認められる。7は片面が平滑に仕上げられているが、他面は凸面をなす。両面共に短かい刻線が連続して環状をなし、孔部を取りまいている。11の孔部周辺には放射状の細沈線が認められるが、これは使用によって生じた痕跡であろう。

石庖丁 (第51図1~4) は凝灰岩あるいは頁岩製で、全て平面形が三角形状をなす。3の両孔間には使用による磨耗痕が認められる。

扁平片刃石斧 (5・6) は粘板岩製で、刃部は鋭く研ぎ出されている。

柱状片刃石斧 (7・8) は粘板岩製で、柱部の側面は平坦である。

磨製石斧 (9~15) は硬砂岩・凝灰岩・花崗岩あるいは玄武岩と素材は雑多であり、いわゆる今山系のものはない。体部には自然面や敲打痕を広く残しており、刃部のみを研磨した半磨製品である。10や15の側縁中央部には使用痕が認められる。

砥石 (16) は砂岩製で、4面全て使用されている。中砥である。

3) 土製品 (第50図-1~6)

土鏃 (1・2) は大小2種ある。小形品の側面には1条の沈線が縦に刻まれている。大形品の

体面は指でナデ仕上げしている。

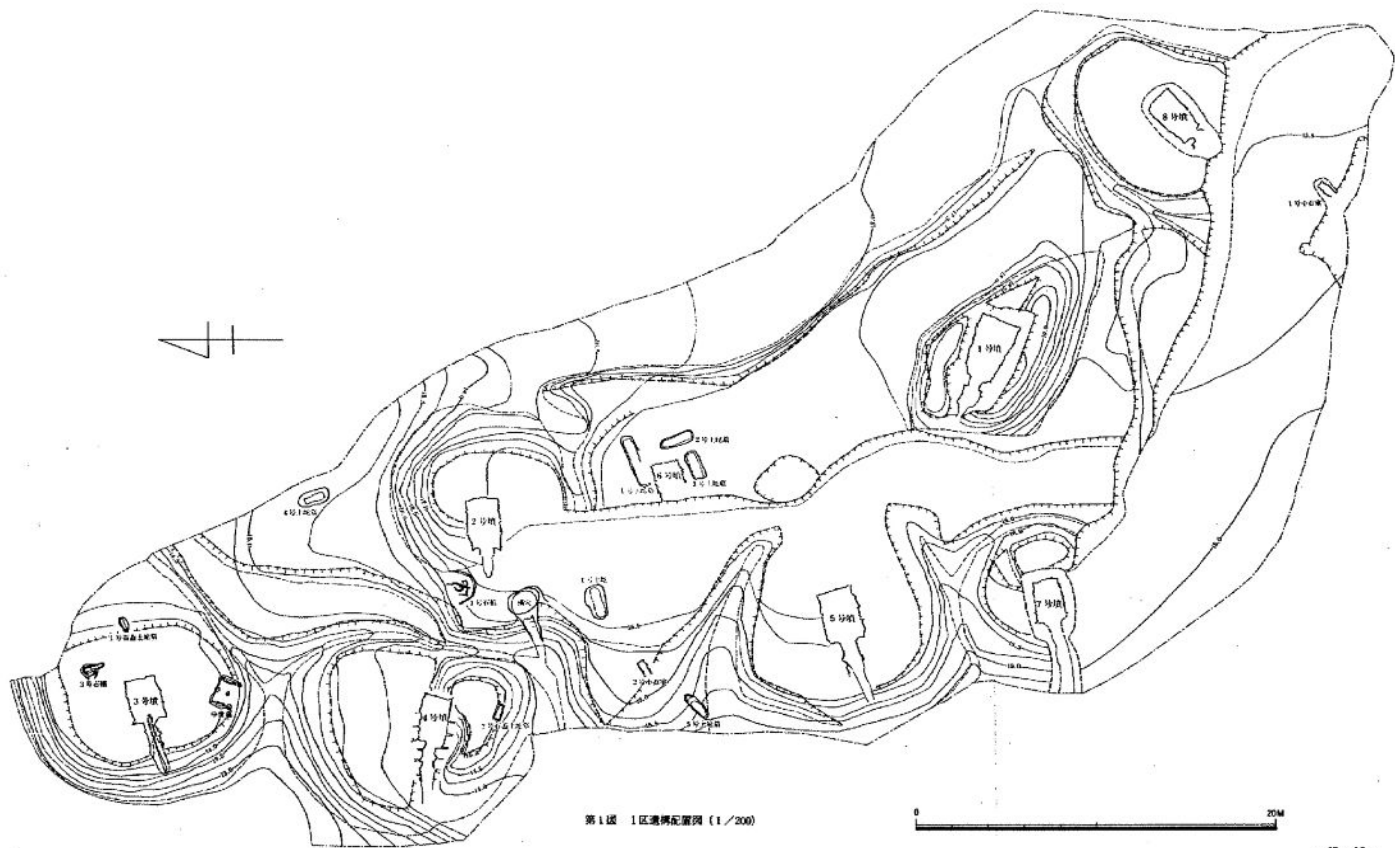
紡錘車（4～6）は体部両面を肥厚させ、穿孔による残胎土をナデ込んでいる。

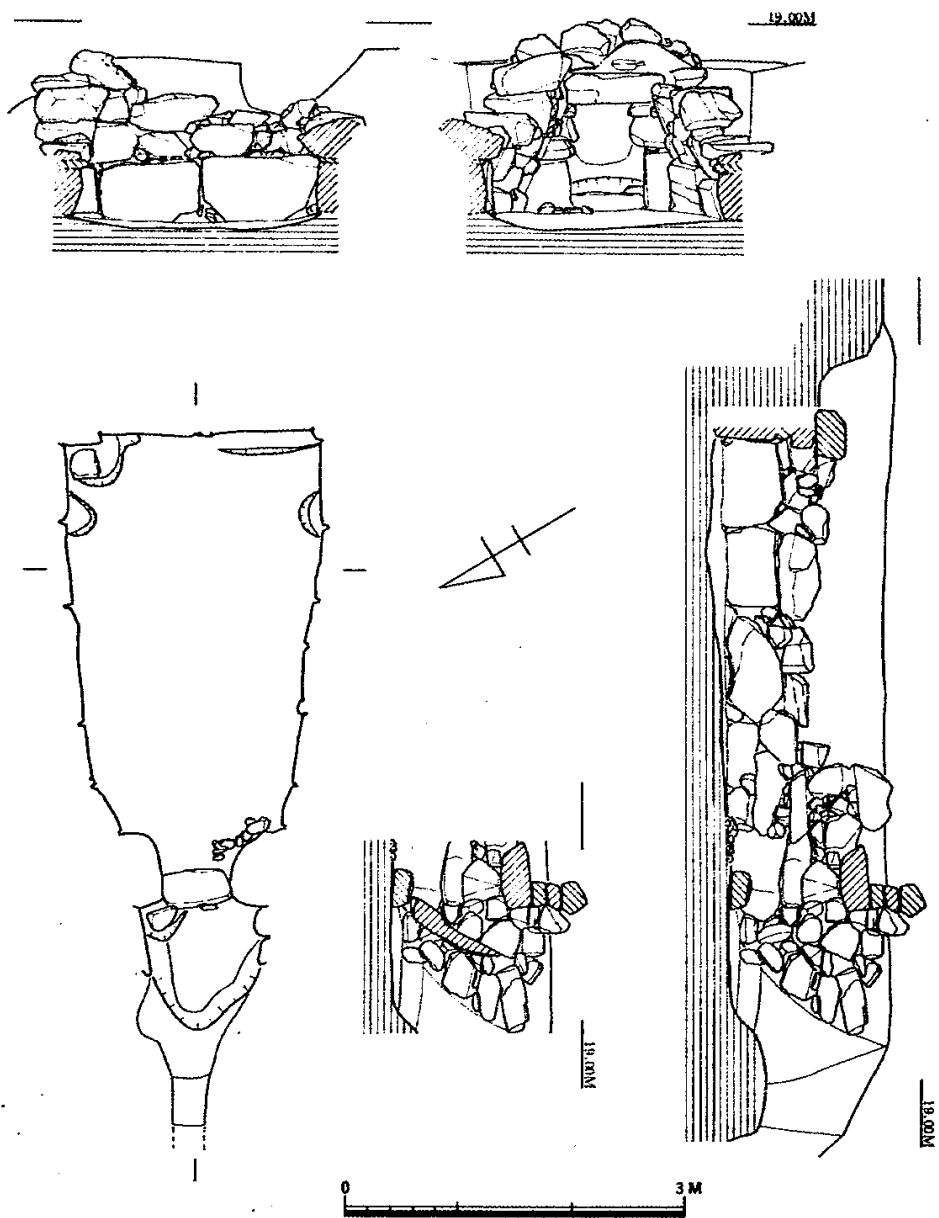
4. まとめ

中央に陸橋を持ちし字型に屈接した溝はその規模が堂々としているに係わらず、その内側からは何らの遺構も検出されなかった。中央の自然瘤部の表面が耕作によって削平されていたにしても袋状堅穴のように深い遺構が存在したとは考えられない。

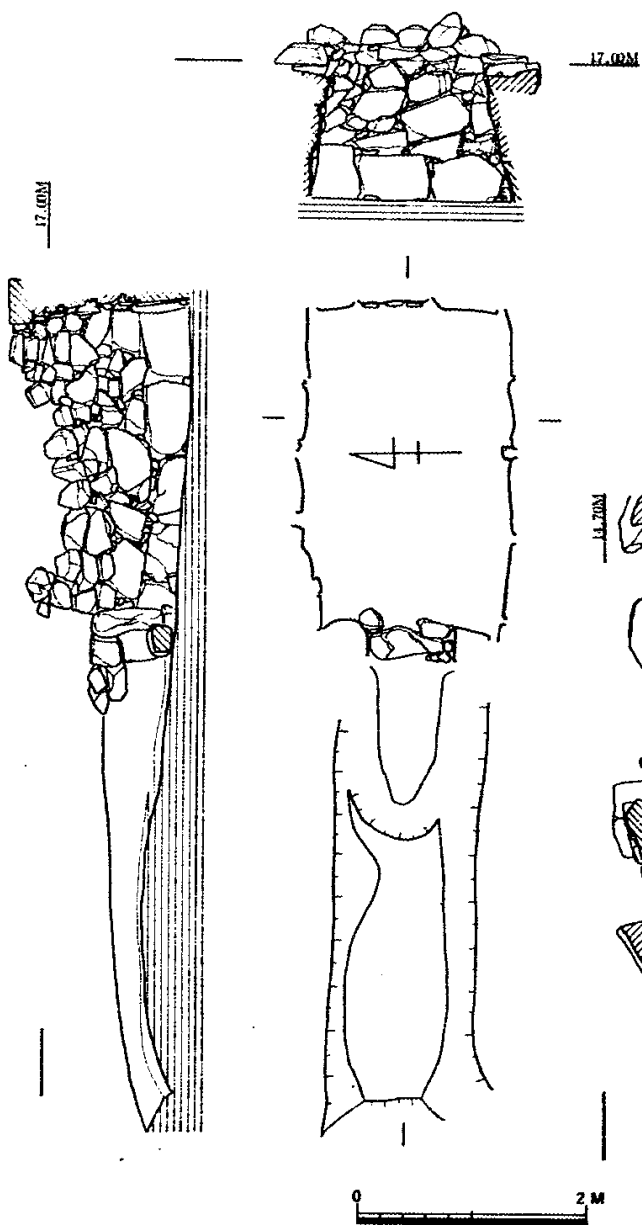
出土した遺物は津屋崎町今川遺跡からの出土例に近似し、遠賀川流域から東にみられる西瀬戸内系の土器に共通する点が多い。獣骨角はいづれも大形で、シカ・イノシシであろう。

表
・
図
版

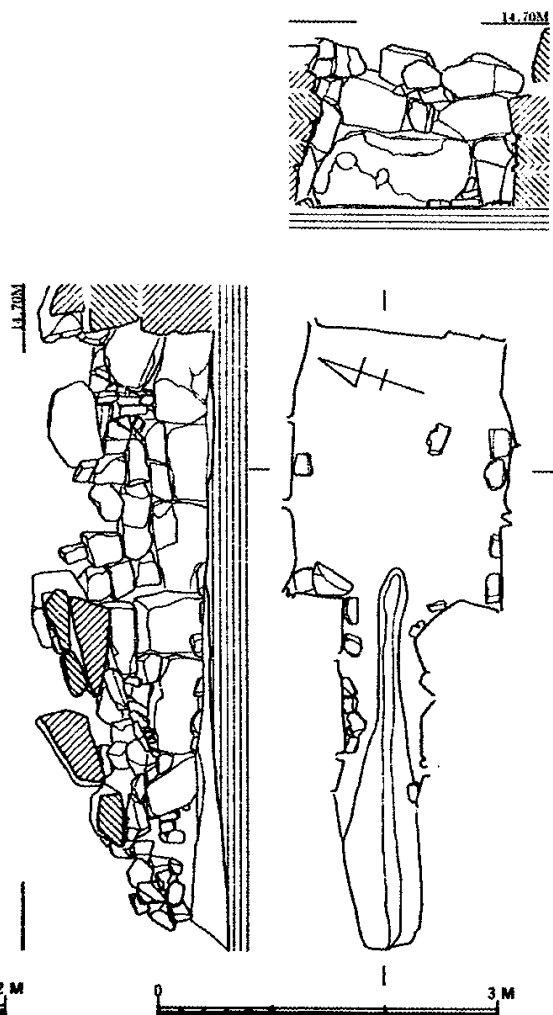




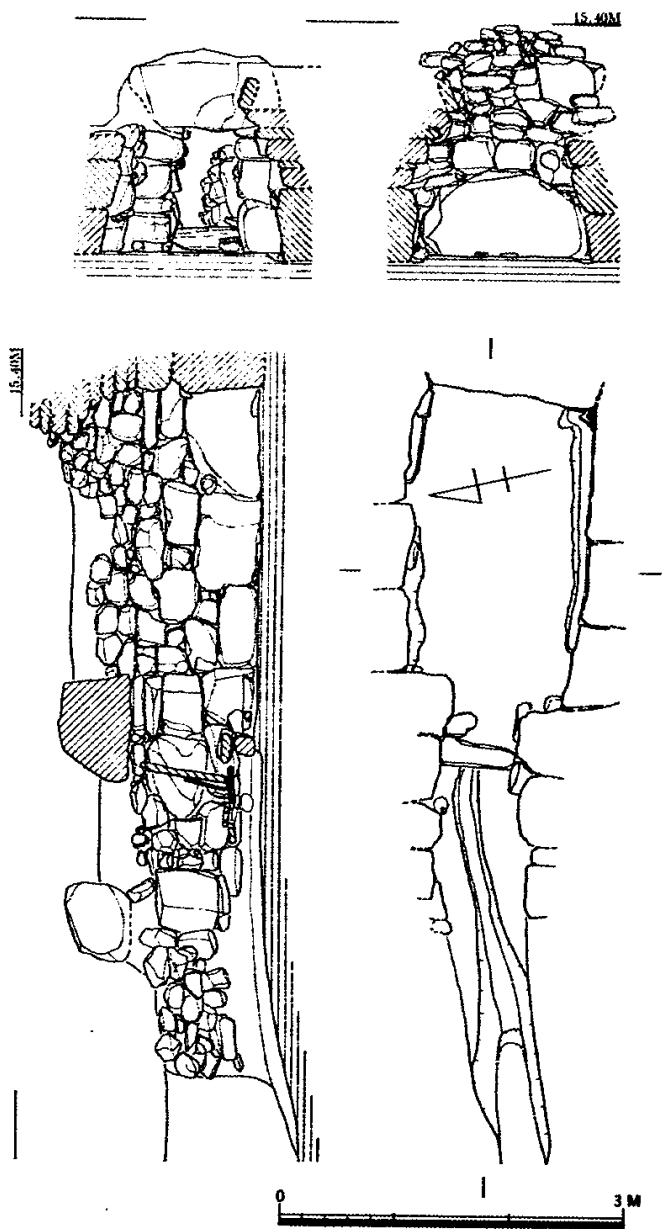
第2図 第1号墳主体部実測図 (1/60)



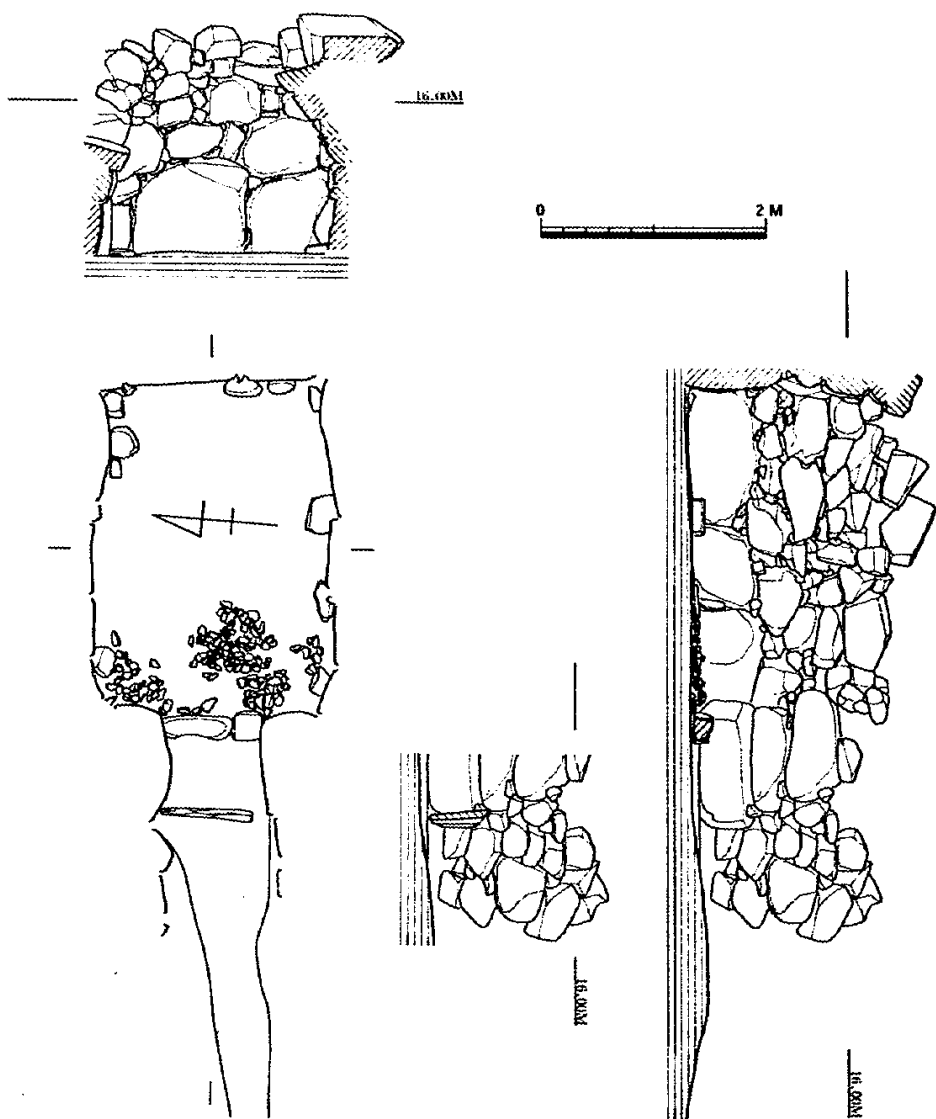
第3図 第2号墳主体部実測図 (1/60)



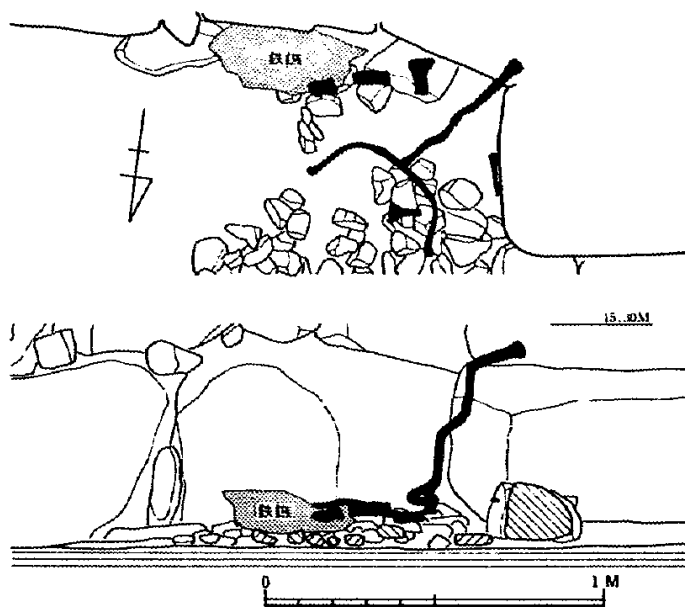
第4図 第3号墳主体部実測図 (1/60)



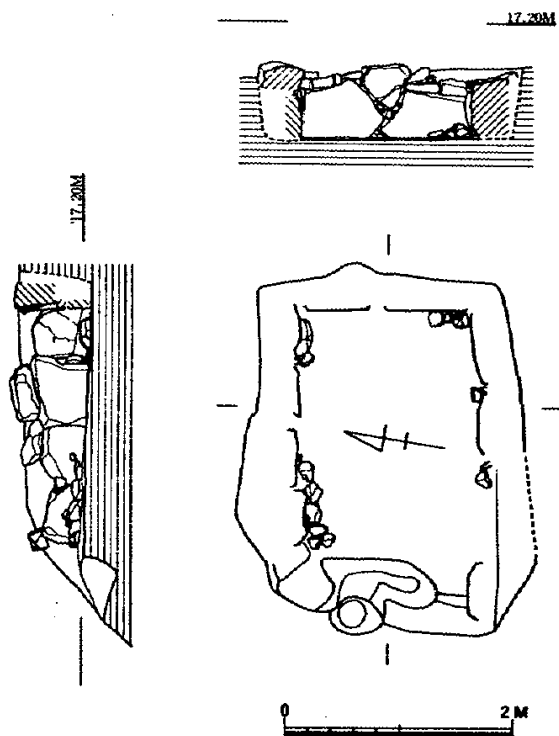
第5图 第4号填石室实测图 (1/60)



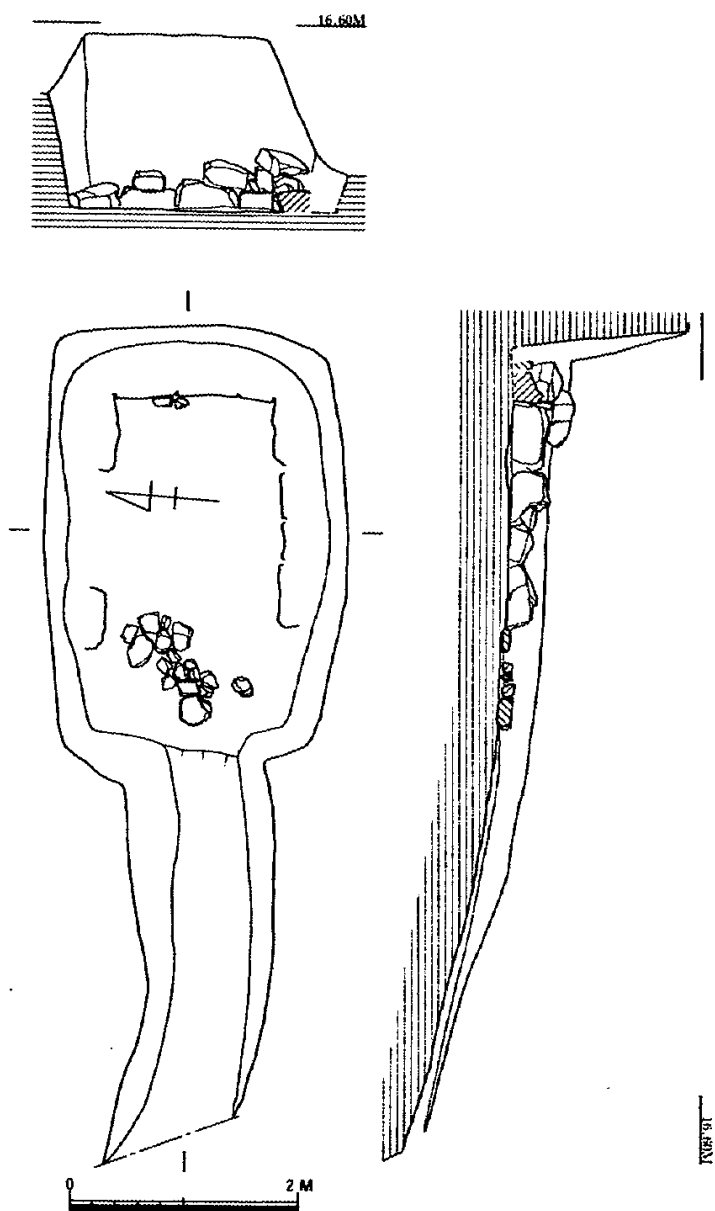
第6図 第5号墳主体部実測図 (1/60)



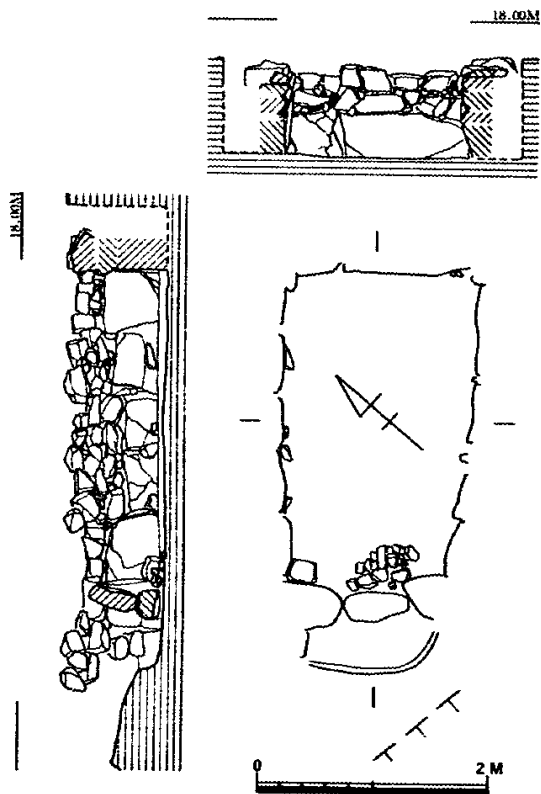
第7図 第5号墳蛇行鉄器出土状況 (1/20)



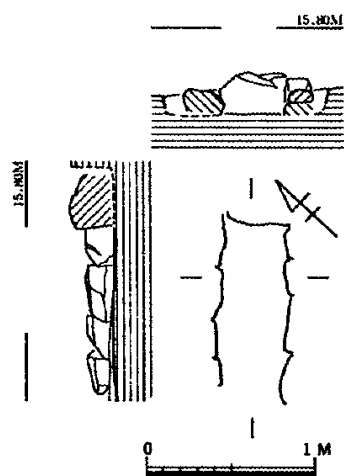
第8図 第6号墳主体部実測図 (1/60)



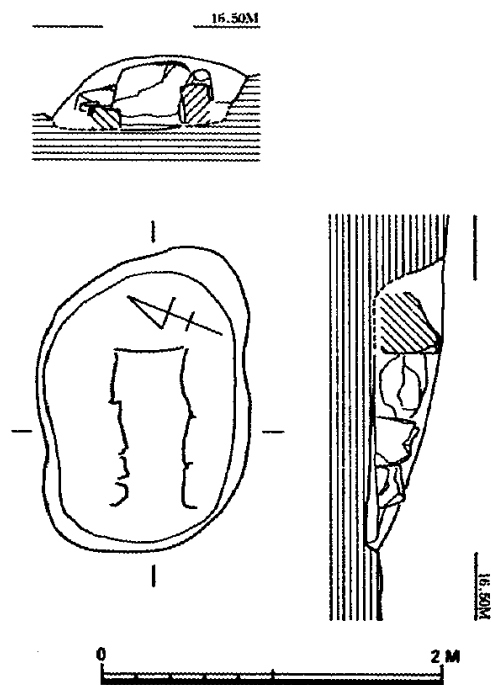
第9図 第7号墳主体部実測図 (1/60)



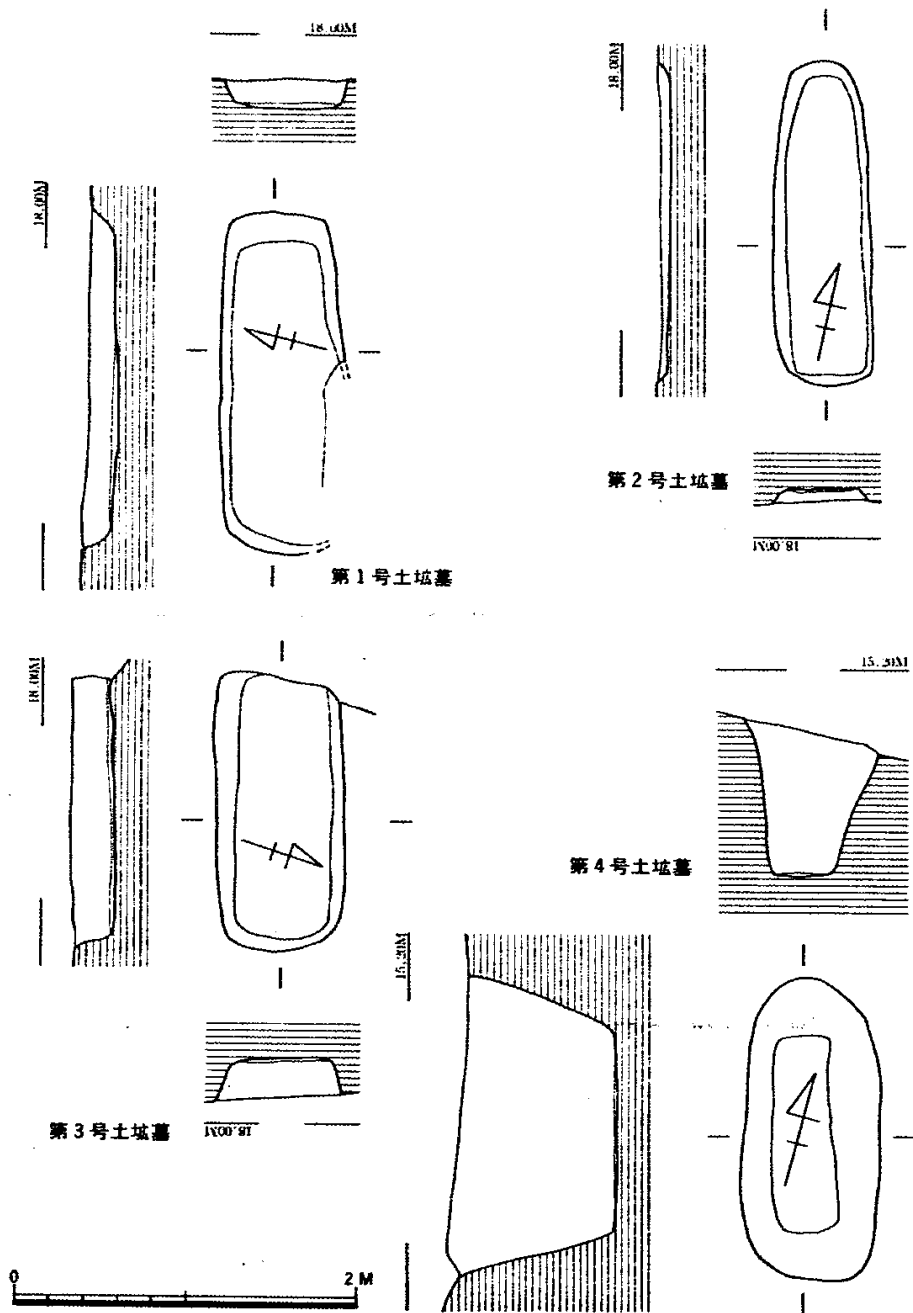
第10图 第8号墳主体部実測図 (1/60)



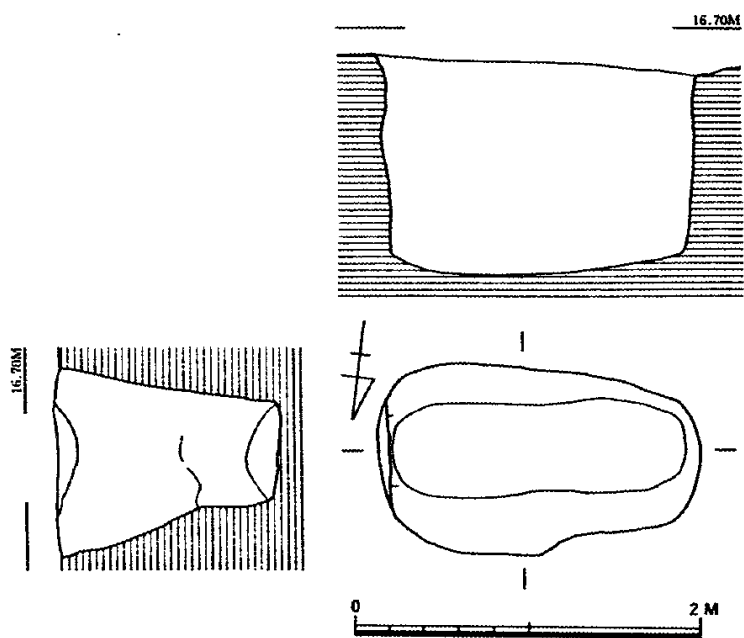
第11图 第1号小石室実測図 (1/40)



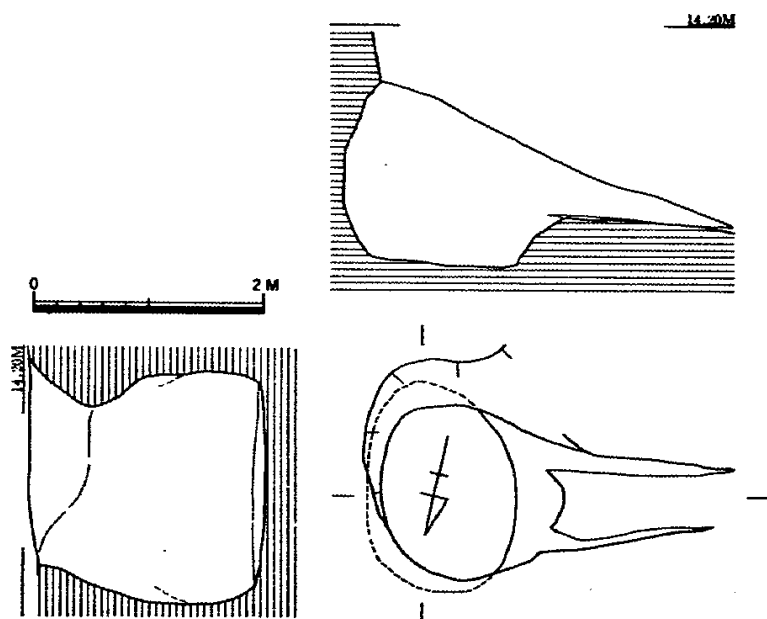
第12图 第2号小石室実測図 (1/40)



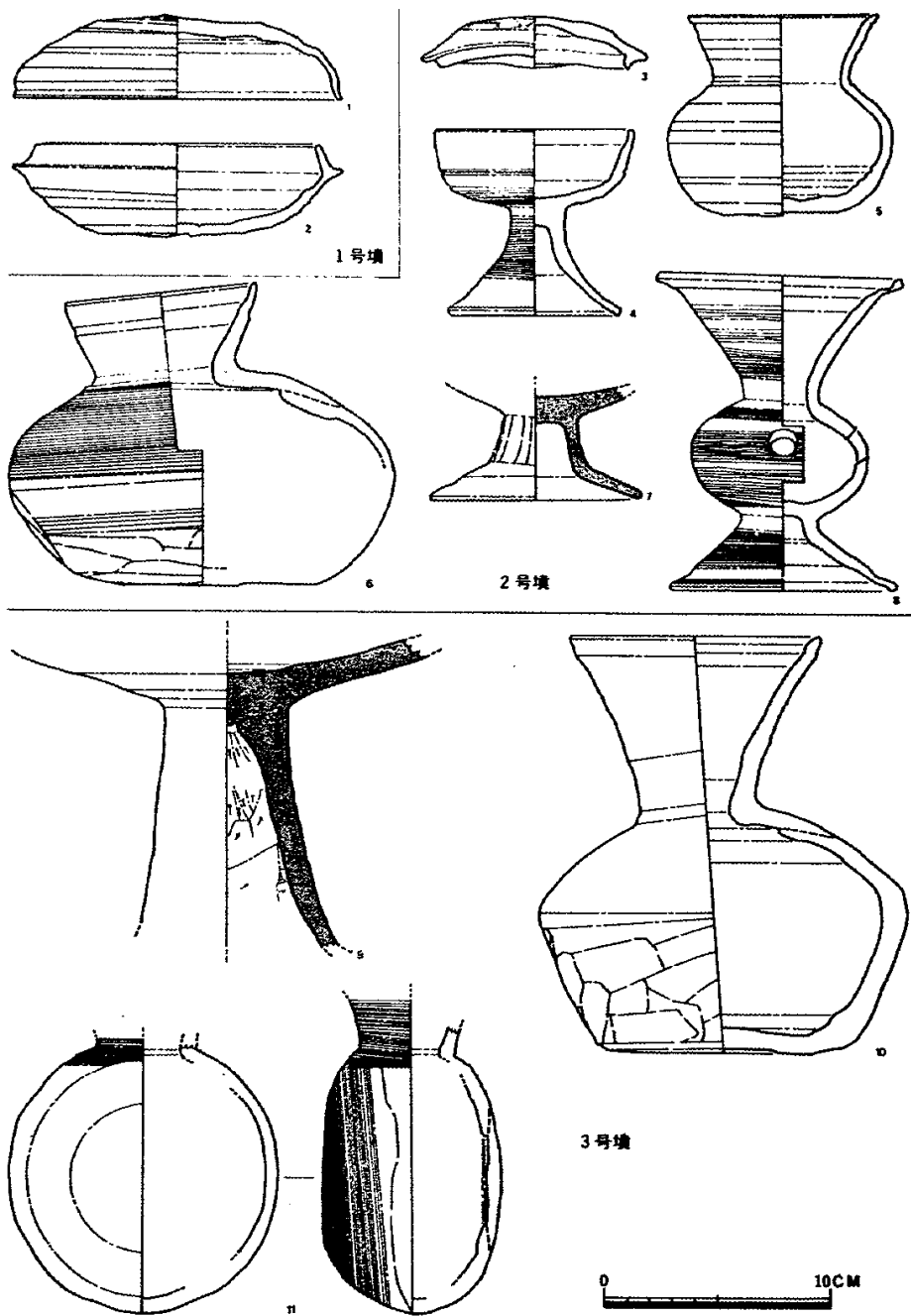
第14图 土坑墓实测图 (1/40)



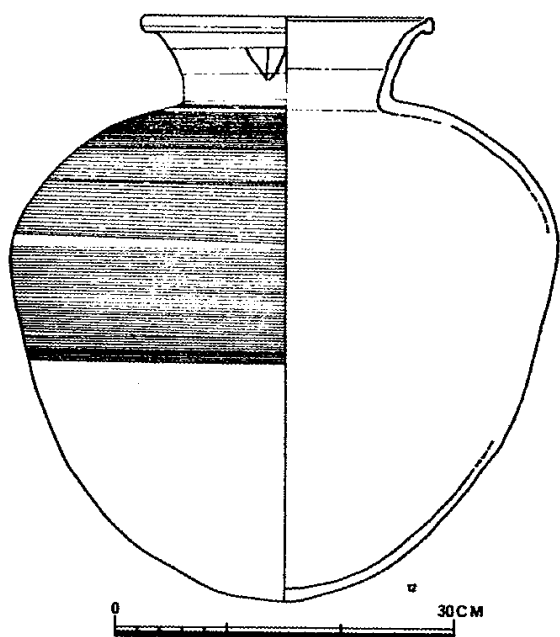
第15図 第1号土坑実測図 (1/40)



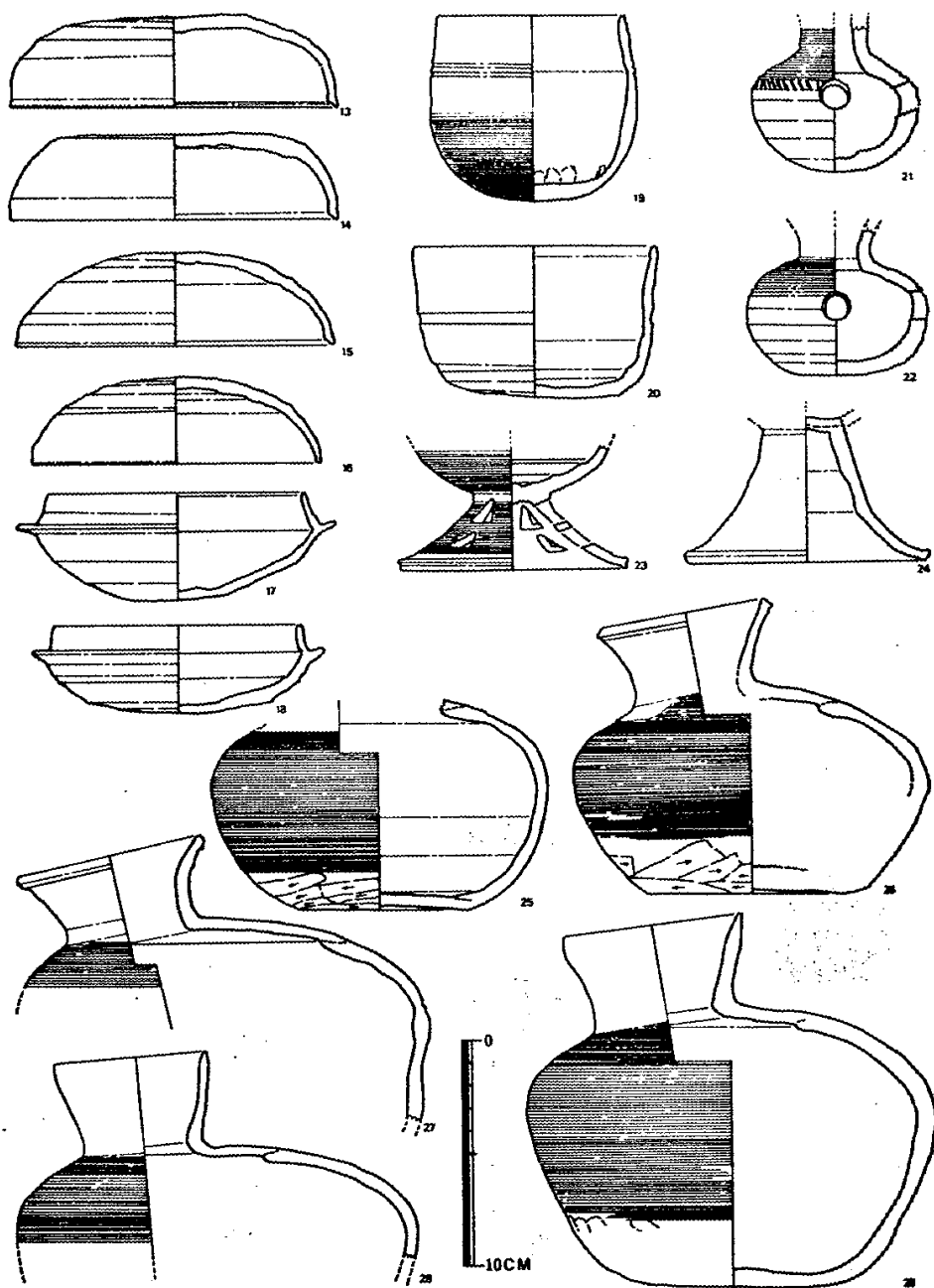
第16図 横穴実測図 (1/60)



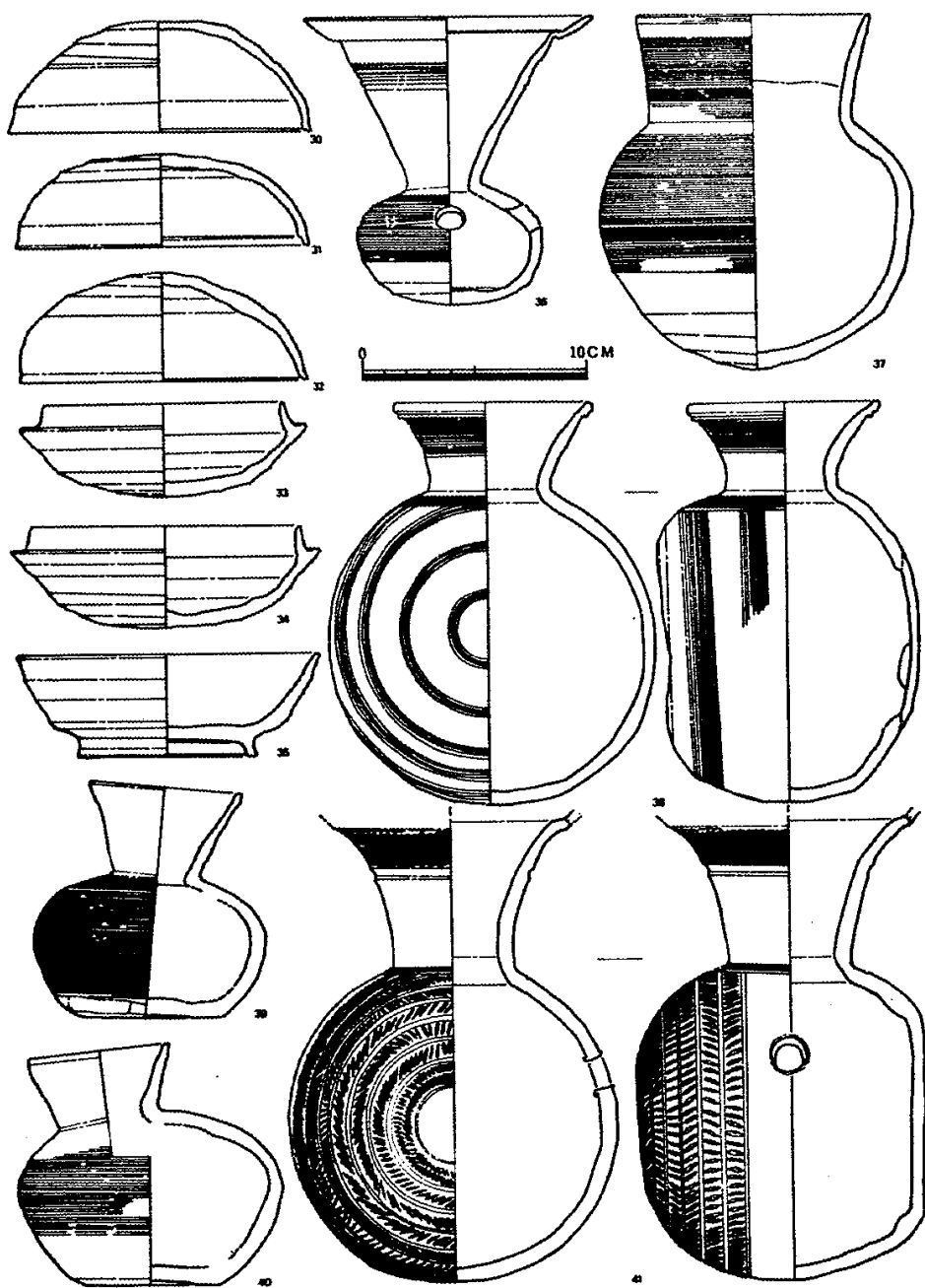
第17図 第1～3号墳出土須恵器・土師器実測図 (1/3)



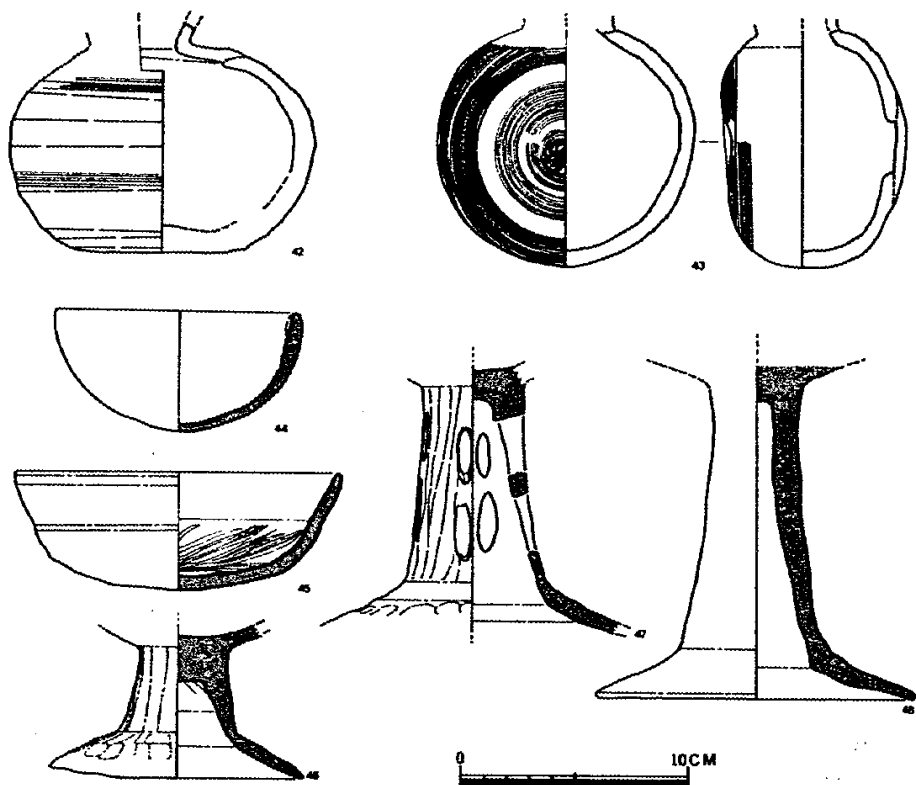
第18図 第2号墳出土須恵器実測図（1／6）



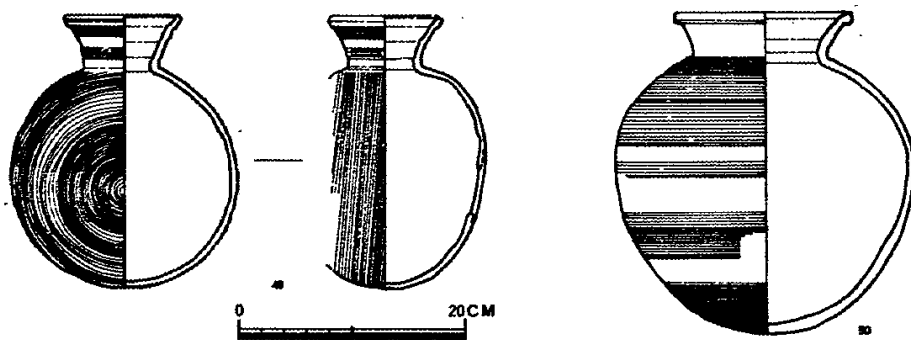
第19図 第4号墳出土須恵器実測図(1/3)



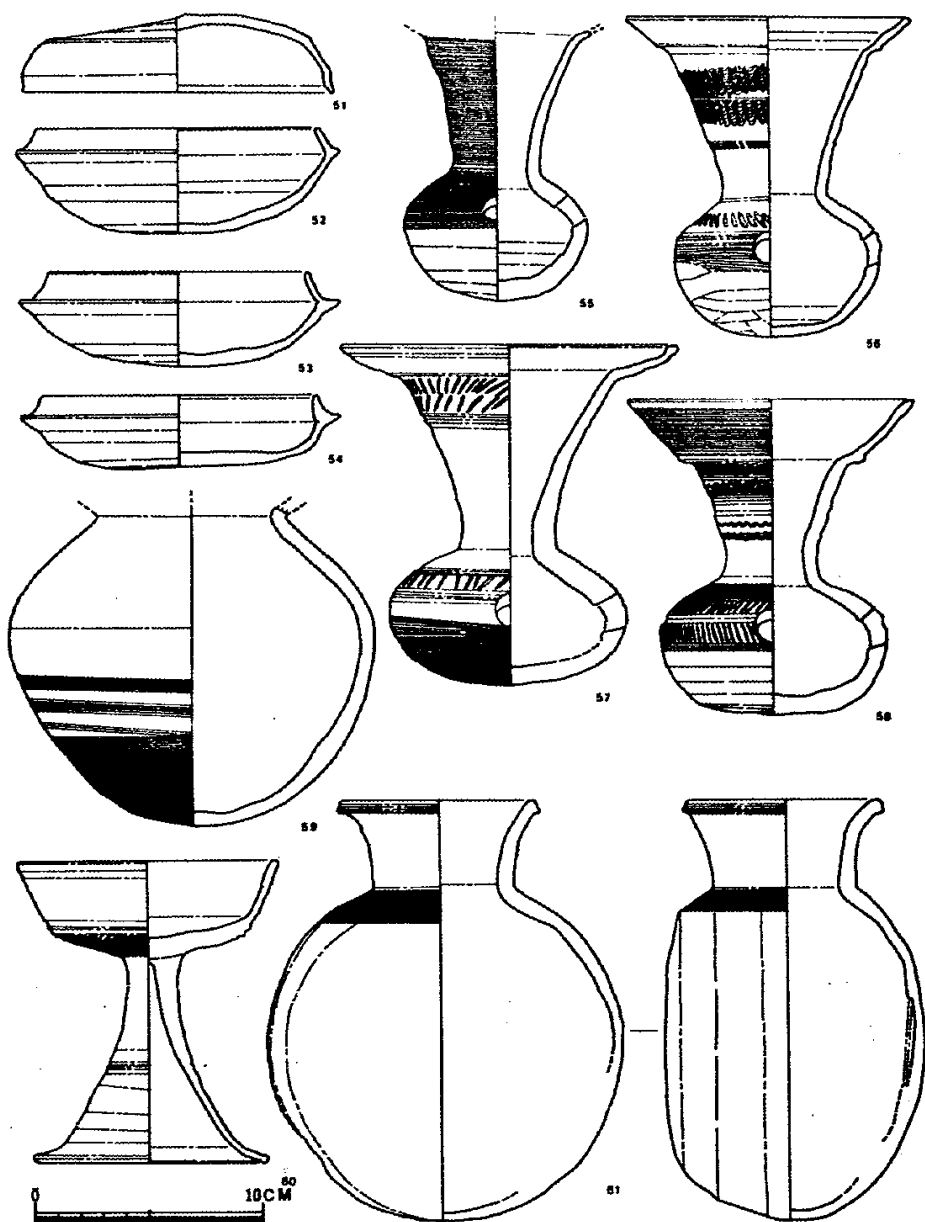
第20图 第4号填周溝中出土須恵器実測図 (1/3)



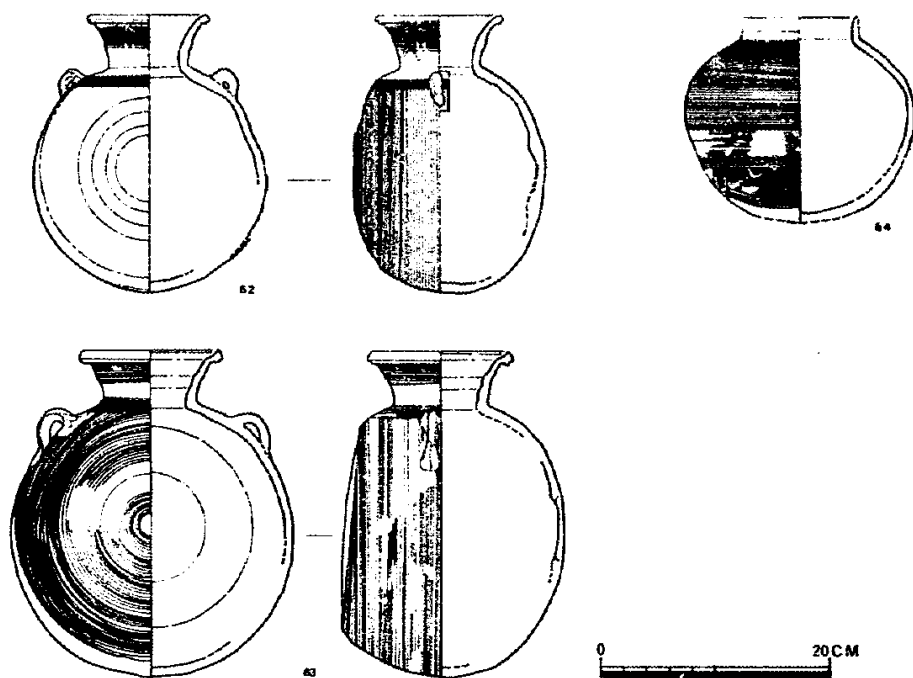
第21図 第4号墳周溝中出土須恵器・土師器実測図（1／3）



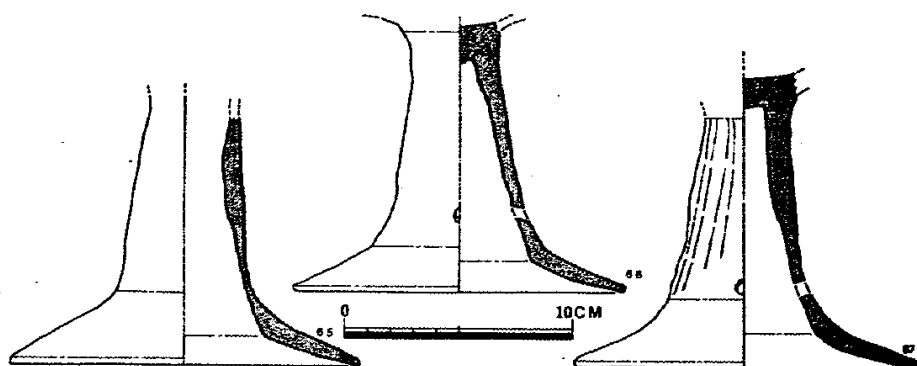
第22図 第4号墳出土須恵器実測図（1／6）



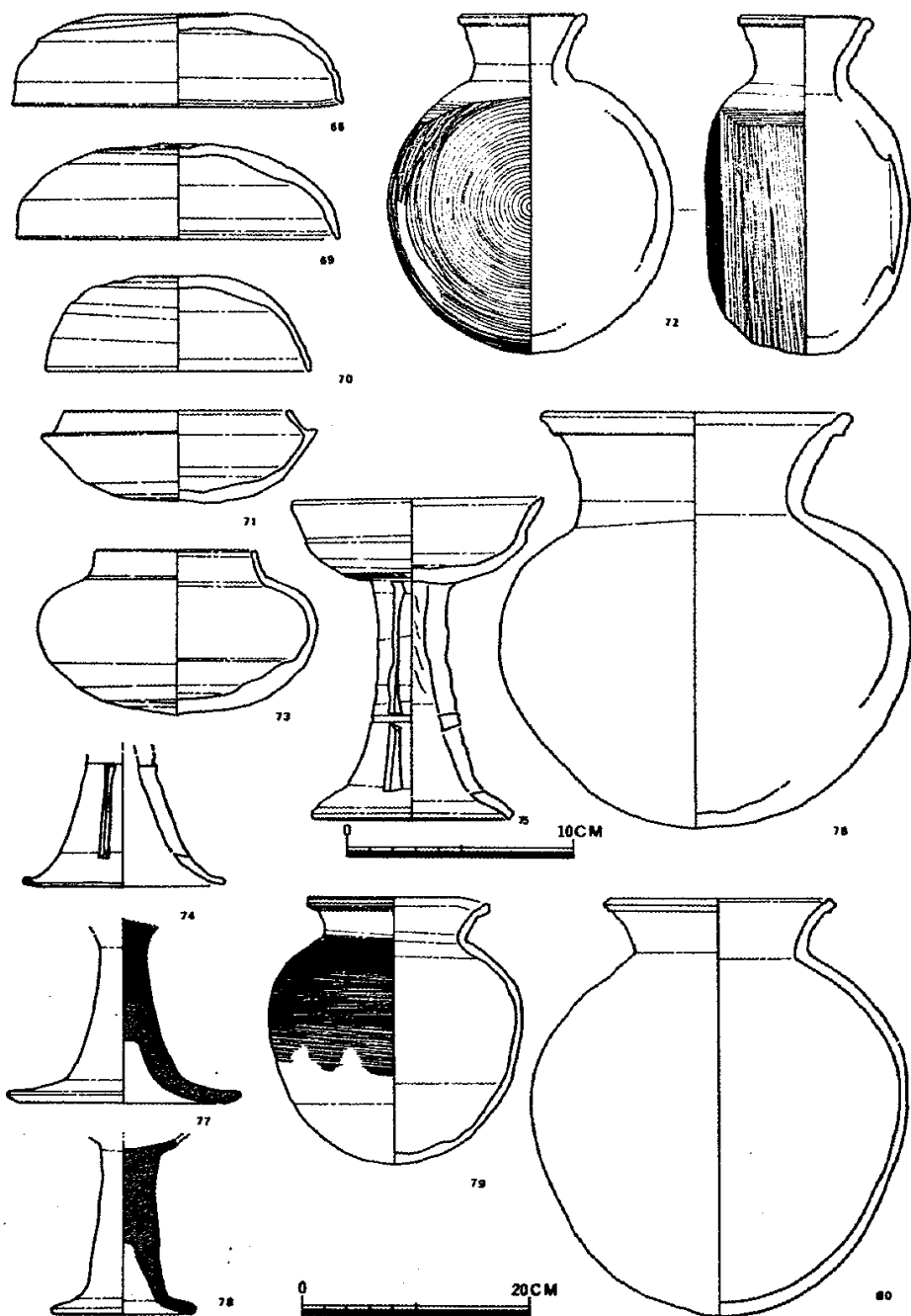
第23図 第5号墳出土須恵器実測図(1/3)



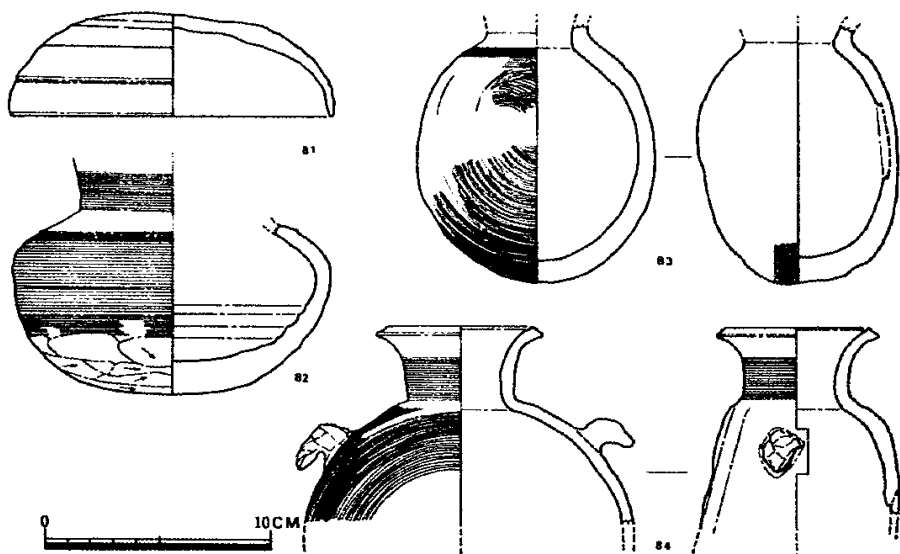
第24図 第5号墳出土須恵器実測図(1/6)



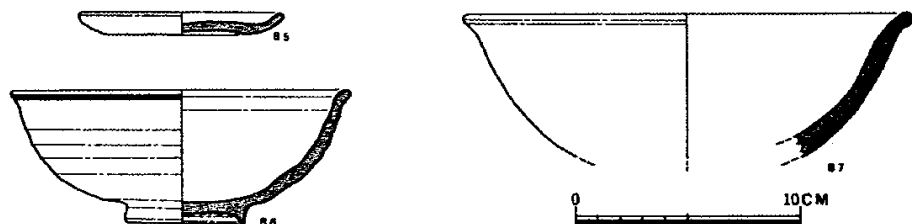
第25図 第5号墳出土土師器実測図(1/3)



第26図 第7号墳出土須恵器・土師器実測図 (1/3, 79・80, 1/6)



第27図 第8号墳出土須恵器実測図(1/3)



第28図 第8号墳周溝出土土師器実測図(1/3)

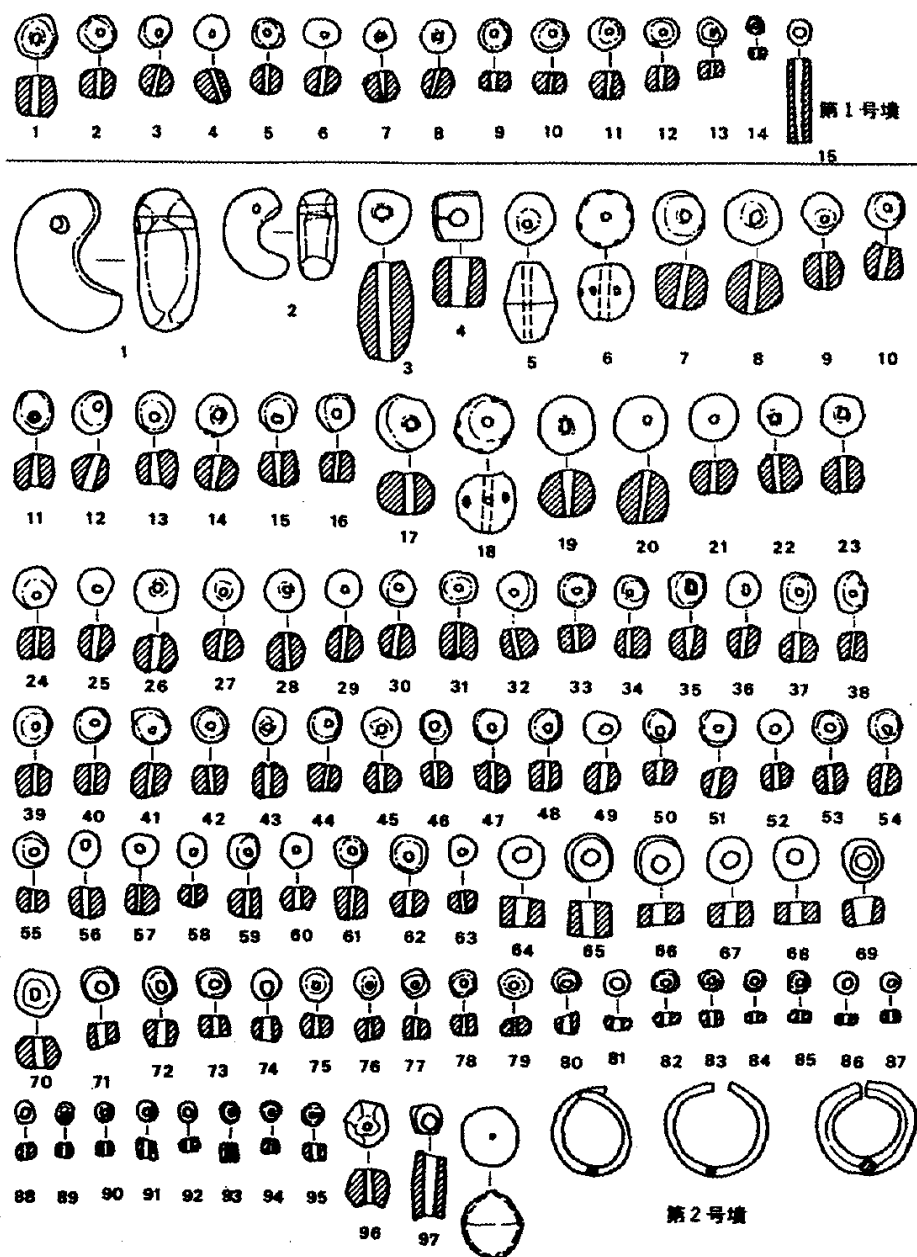
第2表 須恵器・土師器計測表

No	出土地点	器種	分類	口径	器高	受胎径	かえり径	つまみ高	つまみ径	立ち上り高	胴径底径	胴径高	体最大径	体最大高	口クロ	へう記号	新装色	土成調	押図採取
1	1号墳墓	須恵器	杯	14.7	3.8										右	1本 内	細砂粒混入 良好 灰黄灰色		押図17 図版9
2	1号墳墓	杯	身	12.8	4.2	14.8				1.2					右	1本 内	1mm程度の砂粒混入 良好 灰黄灰色		押図17 図版9
3	2号墳墓	須恵器	高杯		2.3	10	8.3			0.3					-	-	細砂粒混入 良好 灰黄灰色		押図17 図版9
4	2号墳墓	土師器	高杯	8.8	8.4						7.3	4.9			-	-	細砂粒混入 良好 暗緑灰色		押図17 図版9
5	2号墳墓	土師器	壺	8.3	9								9.9		-	-	細砂粒混入 あまり 灰黄灰色		押図17 図版9

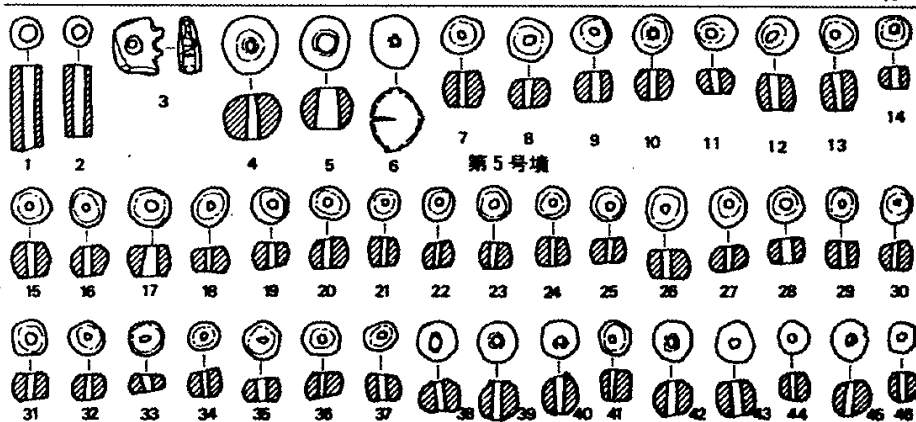
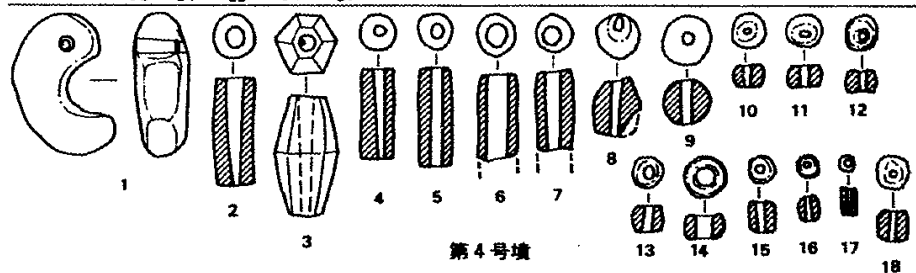
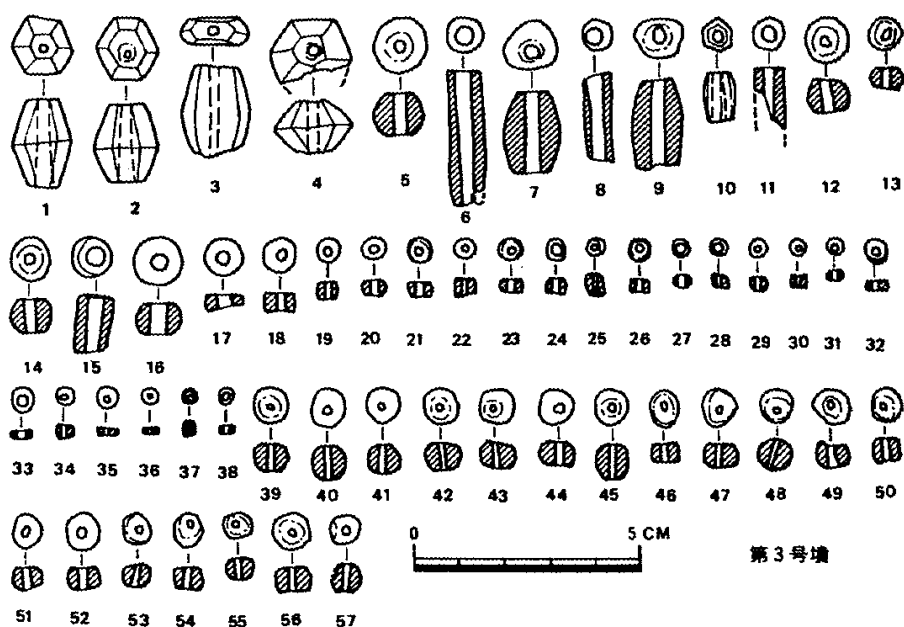
No.	出土地点	器種	分類	口径	高さ	発露深	かぶり 深	つまみ 深	立ち上 り高	胴径 深径	胴径 高	底径 最大	底径 最小	口部 径	へう記号	胎 色	土 成 層	採 取 層
6	2号墳 墓道上部	横 瓶		8.6	13.5					8.4		17.3		左	—	1~2mm程度の黒色む やのあまじい 成灰青褐色		採1417 図版9
7	2号墳 墓道下部	土師器 高 杯			4.9a					9.3	3.6					やや粗良 あまじい 黄褐色		採1417 図版9
8	2号墳 墓道上部	白付罐		10.9	14.3					10	3.2				—	細砂粒混入 良好 成灰白色		採1417 図版9
9	3号墳 墳丘中	土師器 高 杯		—	13a					—	—					やや粗良 ややあまじい 黄灰青褐色		採1417
10	3号墳 墳丘	須恵器 平 盤		10.8	18.6					7.8		16.2		—	作 形 部	細砂粒混入 良好 成灰白色		採1417 図版9
11	3号墳 墳丘	横 瓶		—	14a							12		右	—	1~2mm程度の黒色む やのあまじい 成灰青褐色		採1417 図版9
12	2号墳 大 甕			25.8	53.6							46.5				粗良 良好 黄灰色及び灰褐色		採1418 図版9
13	4号墳 墳丘	須恵器 平 盤		(14.6)	4.2									右	—	粗良 良好 黄灰色		採1419 図版9
14	4号墳 墳丘	須恵器 平 盤		(14.6)	3.9									左	1 本 部	砂粒混入多く、粗 良好 黄灰色・成灰色		採1419 図版9
15	4号墳 墳丘	須恵器 平 盤		(14.2)	4.2									右	—	砂粒混入 良好 灰褐色・黄灰褐色		採1419
16	4号墳 墳丘	須恵器 平 盤		(12.8)	3.9									右	—	粗良 良好 赤褐色		採1419 図版9
17	4号墳 墳丘	埴 耳		11.5	4.8	13.8			1.4					左	内 面	わずかに砂粒混入 良好 黄灰色		採1419 図版9
18	4号墳 墳丘	須恵器 平 盤		(11.0)	3.9	13.0			1.2					左	—	わずかに砂粒混入 良好 赤灰色		採1419 図版9
19	4号墳 墳丘下	横 瓶		(8.2)	8.3							9.2		—	—	粗良 良好 黄灰色		採1419 図版10
20	4号墳 墳丘	横 瓶		(10.8)	6.8									左	—	砂粒混入少ない 良好 赤灰色		採1419 図版10
21	4号墳 墳丘	横 瓶		—	6.5a							7.4		右	—	砂粒混入 良好 黄灰色		採1419 図版10
22	4号墳 墓道	横 瓶		—	6.5a							8		右	—	砂粒混入少ない 良好 赤灰色		採1419 図版10
23	4号墳 墓道	御付罐		—	5.4a					10.3	3.4			—	—	砂粒わずかに混入 良好 黄灰色		採1419 図版10
24	4号墳 墓道	御付罐		—	6.5a					10.4	6.5			—	—	細砂粒混入 良好 成灰褐色・黄灰色		採1419 図版10
25	4号墳 墳丘	平 瓶		—	9.4a					7.4		15.8		—	—	砂粒混入多くやや粗 良好 黄褐色		採1419
26	4号墳 墓室	平 瓶		(7.8)	11.9					8.8		15.6		—	—	砂粒混入多し 良好 灰褐色		採1419 図版10
27	4号墳 墓室	平 瓶		8.4	12.7a							—		—	—	粗良 良好 白色・一部黄灰色		採1419 図版10
28	4号墳 墓道	平 瓶		(6.8)	9a							17.8		—	—	砂粒混入多し 良好 灰褐色		採1419 図版10
29	4号墳 墳丘	須恵器 平 盤		(7.9)	16.6							18.0		—	—	砂粒混入多し 良好 成灰色		採1419 図版10

No	出土地点	層	分層	口径	層高	受動	かえり 径	つみ 高	つみ 径	立ち上 り高	層厚 径	層厚 高	体積 最大高	体積 最大高	φ	へり記号	地質 色	土 成	地質 記号
54	5号墳	杯	青	12.1	3.3	14.1				0.9						石	2~5mm程度の砂を含む 良好 灰褐色	堆積23 [4]版11	
55	5号墳	杯	青	-	13.0				透孔1ヶあり				8.1		-	-	1mm程度の砂を含む 良好 灰褐色・灰色	堆積23 [4]版11	
56	5号墳	杯	青	(12.5)	14.3				透孔1ヶあり				8.9		-	-	1mm程度の砂を含む 良好 灰褐色	堆積23 [4]版11	
57	5号墳	杯	青	(14.8)	15.1				透孔1ヶあり				10.4		-	-	1mm程度の砂を含む 良好 灰褐色	堆積23 [4]版11	
58	5号墳	杯	青	(12.5)	14.0				透孔1ヶあり		4.5		9.9		-	-	細砂粒混入 良好 灰褐色系	堆積23 [4]版11	
59	5号墳	杯	青	-	13.70								16.1		-	-	細砂粒混入 良好・硬 青灰色・灰色	堆積23 [4]版11	
60	5号墳	杯	青	11.5	13.4						10.1	10.2			-	-	1mm程度の砂を含む 良好 灰褐色	堆積23 [4]版11	
61	5号墳	杯	青	8.1	18.6								15.6		-	-	1mm程度の砂粒混入 良好・硬 灰色・灰褐色	堆積23 [4]版12	
62	5号墳	杯	青	(10.7)	24.8			肥土村					30.8		-	-	1mm程度の砂粒混入 良好・硬 灰褐色系	堆積24 [4]版12	
63	5号墳	杯	青	(12.8)	29.0			肥土村					25.0		-	-	精良 良好 暗灰色系	堆積24 [4]版12	
64	5号墳	杯	青	10.0	18.4								20.2		-	-	1mm程度の砂を含む 良好・硬 灰褐色	堆積24 [4]版12	
65	5号墳	杯	青	-	11.80						15.4	-			-	-	精良 良好 赤褐色	堆積25 [4]版12	
66	5号墳	杯	青	-	13.10			透孔1ヶあり			14.6	11.8			-	-	精良 良好 赤褐色	堆積25 [4]版12	
67	5号墳	杯	青	-	13.0			透孔1ヶあり			14.9	12			-	-	1mm程度の砂を含む 良好 赤褐色	堆積25 [4]版12	
68	7号墳	杯	青	14.8	4.2										左	-	1~2mm程度の砂を含む あまひ 乳灰白色	堆積26 [4]版12	
69	7号墳	杯	青	14.5	4.3										右	-	細砂粒混入 ややあまひ 黄灰色	堆積26 [4]版12	
70	7号墳	杯	青	11.9	4.3										左	-	細砂粒混入 良好 灰褐色	堆積26 [4]版12	
71	7号墳	杯	青	10	4.1	12.3				0.9					左	-	細砂粒混入 良好 灰褐色系	堆積26 [4]版12	
72	7号墳 北側墳丘中	杯	青	6	15.3								12.6		-	-	1~2.5mm程度の砂を含む 良好 灰褐色系	堆積26 [4]版12	
73	7号墳 北側墳丘中	杯	青	7	7.4								12.5		左	-	1~5mm程度の砂を含む 良好 灰褐色	堆積26 [4]版12	
74	7号墳	杯	青	-	6.0						9	3方向の透しあり			-	-	細砂粒混入 良好 灰褐色	堆積26 [4]版12	
75	7号墳	杯	青	11.1	14.5						8.9	10.6	2段3方向の透しあり		右	-	細砂粒混入 良好 灰褐色	堆積26 [4]版12	
76	7号墳	杯	青	13.3	18.7								18.4		-	-	1~2mm程度の砂を含む あまひ 乳灰黄褐色	堆積26 [4]版12	
77	7号墳	杯	青	-	7.50						10.3	-			-	-	1~3mm程度の砂を含む 良好 黄褐色	堆積26 [4]版12	

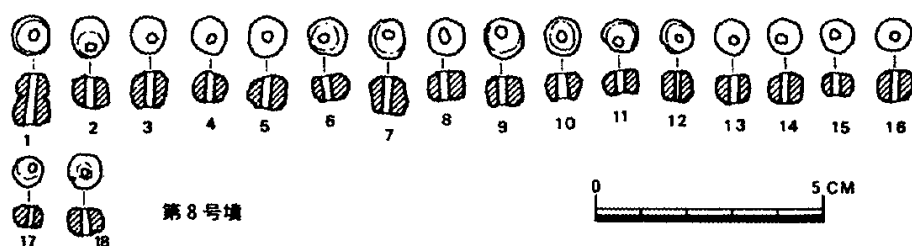
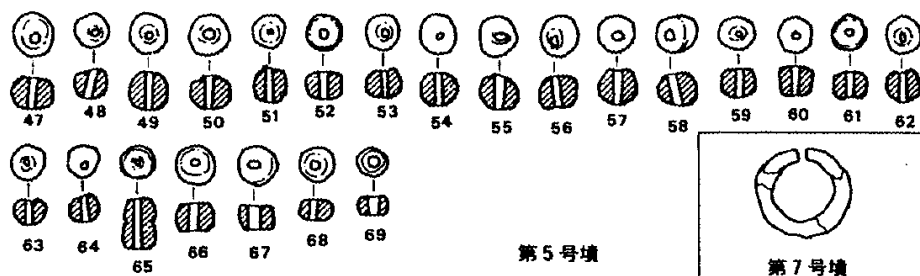
No.	出土地点	器種	分類	口徑	胴高	受胎径	全口径	つまみ周長	つまみ高さ	立ち上り高さ	胴底形状	総高さ	指差大径	本器最大径	a/b	へり記号	釉地色	土曜面	海陸調査
78	7号墳 北側墳丘中	甕	杯	-	7.6a						6.4	7.1					褐色 ややあまい 黄褐色		神奈川 国東13
79	7号墳 北側墳丘中	甕		16.1	23.9								22.4		-	-	1~6mm程度の砂を含む 良好な黄褐色		神奈川 国東13
80	7号墳 北側墳丘中	甕		30.6	37.3								33.5		-	-	やや粗良 良好な 黄褐色		神奈川 国東13
81	8号墳 周溝	須恵器 杯		14.4	4.6											右	1~3mm程度の砂を含む 良好な赤色		神奈川 国東13
82	8号墳 周溝	甕		-	10.5a								14.1		-	-	1mm程度の砂状灰入 良好な増量灰色		神奈川 国東13
83	8号墳	甕	甕	-	11.5a								10.7		-	-	1~3mm程度の砂状灰入 黄褐色		神奈川 国東13
84	8号墳 周溝	甕	甕	6.4	9a					肥手村			14.6		-	-	1~4mm程度の砂を含む 良好な黄褐色		神奈川 国東13
85	8号墳 周溝	土師器 点切取		9	1												黄 ややあまい 黄褐色		神奈川 国東13
86	8号墳 周溝	瓦	器 蓋付筒	15	5.9						5.1						やや粗良 ややあまい 黄褐色		神奈川 国東13
87	8号墳 周溝	土師器 高杯	(20)		6.4a												褐色 良好な 茶褐色		神奈川 国東13
1	2号住居跡	土師器 つば		12.2	6.3a								11				褐色 不良な 黄褐色		神奈川 国東13
2	B-A-2号 住居跡	土師器 高杯		19.2	7.3a												良好な 赤褐色		神奈川 国東13
3	B-A-3号 住居跡	陶		(12.3)	4.7												やや粗良 あま 黄褐色		神奈川 国東13
4	B-A-3号 住居跡	陶		(13.2)	5.8												褐色 良好な 茶褐色		神奈川 国東13
5	B-A-3号 住居跡	陶		13.8	8.2												白色の砂状灰入、褐色 良好な赤褐色		神奈川 国東13
6	B-A-3号 住居跡	土師器 陶		15.2	5.9												1~2mm程度の砂状含む ややあまい 黄褐色		神奈川 国東13
7	B-A-3号 住居跡	こしき		25.2	23.8a					肥手村							褐色 ざい 赤褐色		神奈川 国東13
8	B-A-6号 住居跡	C=PaY		4	2.4												褐色 不良な、もうい 赤褐色		神奈川 国東13
9	B-A-6号 住居跡	土師器 陶		19	11.4a								19				2~3mm程度の砂状含む あま 黄褐色		神奈川 国東13
10	7号住居跡	土師器 細土器		9.6	10.5								9.0				褐色 不良な 増量灰色或は赤褐色		神奈川 国東13
11	B-A-9号 住居跡	甕		5.6	6.1								8.6				粉粒層入、褐色 良好な赤褐色		神奈川 国東13
12	B-A-9号 住居跡	土師器 甕		7.2	7.9								6.6				褐色 ややあまい 赤褐色		神奈川 国東13
13	B-A-10号 住居跡	土師器 高杯			9.5a							11.5	7.3				褐色 良好な 赤褐色		神奈川 国東13



第29図 各古墳出土装身具実測図(1) (2/3)



第30図 各古墳出土装身具実測図(2) (2/3)



第31図 各古墳出土装身具実測図(3) (2/3)

第 3 表 装身具計測表

遺跡	坑	種別	材質	色調	測定 径・高	(g) 重量	備考	遺跡	坑	種別	材質	色調	測定 径・高	(g) 重量	備考
第 一 号 墳	1	丸玉	土製	黒褐色	0.9×0.9	1.0		第 七 号 墳	9	白玉	ガラス	黒褐色	0.7×0.4	0.4	ガラス質に気泡なし
	2	"	"	"	0.8×0.6	0.5			10	"	"	"	0.7×0.5	0.5	"
	3	"	"	黒色	0.7×0.7	0.4			11	"	"	"	0.8×0.6	0.6	縦溝状に磨痕あり
	4	"	"	黒褐色	0.7×0.8	0.6			12	"	"	"	0.6×0.5	0.4	
	5	"	"	"	0.7×0.6	0.4			13	"	"	"	0.6×0.4	0.3	気泡あり
	6	"	"	黒色	0.8×0.7	0.5			14	小玉	"	"	0.3×0.2	0.1	気泡なし
	7	"	"	"	0.8×0.7	0.5			15	管玉	碧玉	暗緑石	0.6×1.9	1.2	両面穿孔
	8	"	"	"	0.8×0.6	0.4			1	勾玉	碧玉 (ヒスイ)	淡白緑色	1.6×3.3	15.7	片面穿孔

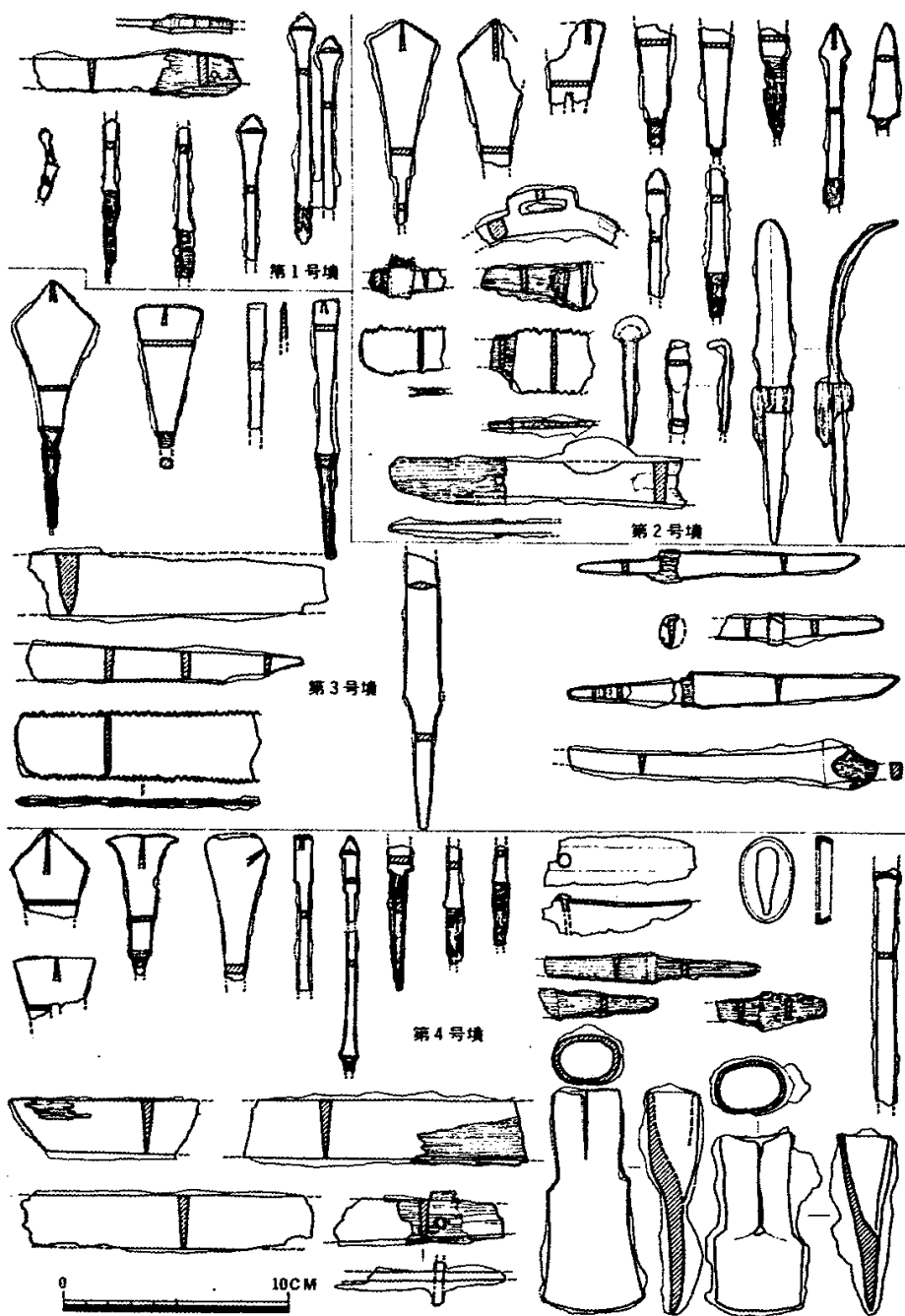
遺跡	No.	種別	材質	色調	寸法 径・高	重量	備考	遺跡	No.	種別	材質	色調	寸法 径・高	重量	備考
二 号 墳	2	勾玉	琥珀 (ヒスイ)	琥珀色	1.3×2.0	3.9	片面磨孔	二 号 墳	28	丸玉	土製	黒色	0.9×0.8	0.5	出土No12
	3	筒玉	琥珀	茶褐色	1.2×2.2	2.4			29	〃	〃	〃	0.8×0.8	0.3	
	4	サイコロ玉	水晶	黒色 (透明)	1.1×1.1	2.3	両面磨孔		30	〃	〃	〃	0.8×0.7	0.5	
	5	黄銅管玉	土製	黄褐色	1.1×1.8	2.2			31	〃	〃	〃	0.8×0.3	0.6	
	6	丸玉	〃	黒色	1.3×1.2	2.1	出土No13 銅板周縁に6ヶ の刺突文あり		32	〃	〃	〃	0.9×0.7	0.5	
	7	〃	〃	〃	1.2×1.0	1.8			33	〃	〃	〃	0.8×0.6	0.5	
	8	〃	〃	〃	1.2×1.2	1.9			34	〃	〃	〃	0.7×0.7	0.5	
	9	〃	〃	黒褐色	0.9×0.8	0.8			35	〃	〃	〃	0.8×0.7	0.6	
	10	〃	〃	黒色	0.8×0.8	0.6			36	〃	〃	〃	0.8×0.7	0.5	
	11	〃	〃	黒褐色	1.0×0.8	0.7			37	〃	〃	黒褐色	0.9×0.7	0.6	
	12	〃	〃	黒色	0.9×0.8	0.8			38	〃	〃	〃	0.9×0.7	0.6	
	13	〃	〃	黒褐色	0.9×0.9	0.7			39	〃	〃	黒色	0.8×0.7	0.6	
	14	〃	〃	黒色	0.9×0.8	0.7			40	〃	〃	〃	0.8×0.7	0.6	出土No8
	15	〃	〃	〃	0.8×0.8	0.6	一部破損		41	〃	〃	黒褐色	0.8×0.8	0.6	
	16	〃	〃	〃	0.9×0.7	0.6			42	〃	〃	〃	0.8×0.6	0.6	
	17	〃	〃	〃	1.2×1.0	1.7			43	〃	〃	〃	0.8×0.8	0.5	
	18	〃	〃	〃	1.3×1.3	2.2	銅板周縁に6ヶ の刺突文あり		44	〃	〃	茶褐色	0.8×0.6	0.5	
	19	〃	〃	茶褐色	1.3×1.0	1.7			45	〃	〃	〃	0.8×0.6	0.5	
	20	〃	〃	黒色	1.3×1.2	2.1	出土No14		46	〃	〃	〃	0.8×0.6	0.4	
	21	〃	〃	黒褐色	1.0×0.7	1.0	出土No17		47	〃	〃	黒色	0.7×0.6	0.4	
	22	〃	〃	黒色	0.9×0.9	0.8			48	〃	〃	茶褐色	0.8×0.7	0.4	
	23	〃	〃	〃	1.0×0.8	0.8			49	〃	〃	黒色	0.7×0.6	0.5	
	24	〃	〃	〃	0.9×0.7	0.7			50	〃	〃	〃	0.7×0.6	0.4	
	25	〃	〃	黒褐色	0.8×0.8	0.5			51	〃	〃	〃	0.8×0.6	0.6	出土No4
	26	〃	〃	茶褐色	1.0×0.8	0.9			52	〃	〃	〃	0.7×0.6	0.4	
	27	〃	〃	黒色	1.0×0.7	0.6			53	〃	〃	黒褐色	0.7×0.7	0.4	

図番	種別	材質	色調	径・高 mm	(a) 重量	備考	図番	種別	材質	色調	径・高 mm	(a) 重量	備考
54	丸玉	土製	黒色	0.7×0.7	0.5		80	白玉	ガラス	透明	0.5×0.5	0.2	
55	"	"	"	0.8×0.6	0.4		81	"	"	"	0.6×0.3	0.2	
56	"	"	"	0.8×0.7	0.5		82	"	"	"	0.6×0.3	0.1	
57	"	"	黒褐色	0.7×0.7	0.4		83	小玉	"	黄緑	0.4×0.3	0.2	
58	"	"	黒色	0.7×0.5	0.3		84	"	"	"	0.4×0.2	0.1 以下	気泡あり
59	"	"	茶褐色	0.8×0.7	0.5		85	"	"	"	0.4×0.2	0.1 以下	"
60	"	"	黒色	0.7×0.5	0.4		86	"	"	"	0.5×0.2	0.1	"
61	"	"	黒褐色	0.7×0.7	0.5		87	"	"	"	0.4×0.2	0.1	
62	"	"	"	0.8×0.6	0.5		88	"	"	"	0.5×0.3	0.2	気泡あり
63	"	"	"	0.7×0.4	0.3		89	"	"	"	0.5×0.3	0.1	
64	白玉	滑石製	灰色	1.0×0.6	1.2	出土地6	90	"	"	"	0.4×0.3	0.1 以下	気泡あり
65	"	"	"	1.0×0.8	1.6		91	"	"	"	0.4×0.4	0.1	
66	"	"	"	1.0×0.6	1.1		92	"	"	"	0.4×0.3	0.1	
67	"	"	"	1.0×0.6	1.0		93	"	"	若草色	0.4×0.4	0.2	透明感なし
68	"	"	"	1.0×0.5	0.9		94	"	"	黄青色	0.4×0.3	0.1	"
69	"	ガラス	白色	1.0×0.7	1.0	摩擦して暗く 白色を呈す	95	"	"	"	0.5×0.3	0.2	"
70	"	"	黒色	1.0×0.7	1.1		96	丸玉	メノウ	朱色	1.0×0.8	1.4	輪メノウ(?)
71	"	"	"	0.6×0.6	0.5		97	管玉	碧玉	暗緑色	0.7×1.5	1.7	両面穿孔
72	"	"	"	0.8×0.5	0.5		98	空玉	鉛(?)	黄灰色	1.2×1.5	1.5	
73	"	"	"	0.5×0.5	0.3		1	切子玉	水晶	白色透明	1.4×2.0	4.5	
74	"	"	"	0.7×0.5	0.3		2	"	"	"	1.4×1.8	4.5	
75	"	"	"	0.7×0.5	0.4		3	管玉	"	"	1.5×2.1	3.2	扁平・表面に 凹状文様あり
76	"	"	"	0.7×0.5	0.4		4	切子玉	メノウ	朱色	1.8×1.1	3.1	
77	"	"	"	0.6×0.5	0.4		5	丸玉	碧玉	黄灰色	1.2×1.0	2.8	
78	"	"	"	0.6×0.5	0.3		6	管玉	碧玉	黄緑	0.8×3.0	3.1	両面穿孔
79	"	"	"	0.6×0.5	0.3		7	管玉	琥珀	暗褐色	1.2×1.8	1.6	"

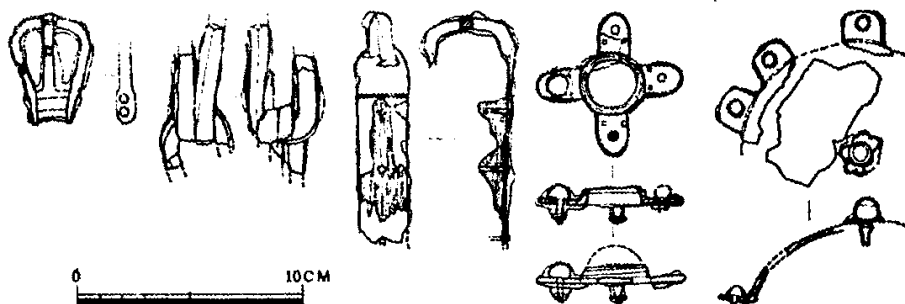
通称	No.	鑑別	材質	色調	mm 面 径・高	(g) 重量	備 考	通称	No.	鑑別	材質	色調	mm 面 径・高	(g) 重量	備 考
三 号 墳	8	管玉	管玉	黄青灰色	0.6×2.0	1.6	片面穿孔	三 号 墳	34	小玉	ガラス	青	0.4×0.4	0.1	
	9	管玉	琥珀	暗褐色	1.1×2.1	1.4			35	"	滑石	暗灰色	0.5×0.2	0.1	
	10	六角管玉	ガラス	黄青色	0.6×1.2	1.2	側面に磨らみあり。穿孔は両面中央部		36	"	"	黄灰色	0.4×0.2	0.1	
	11	管玉	碧玉	暗褐色	0.7×1.4	0.8			37	"	ガラス	青	0.3×0.4	0.1	
	12	丸玉	ガラス	黄	0.9×0.7	1.1			38	"	"		0.3×0.2	0.05	
	13	白玉	"	"	0.7×0.5	0.4			39	丸玉	土製	黒色	0.8×0.7	0.5	
	14	"	"	"	0.9×0.8	1.1			40	"	"	"	0.7×0.7	0.5	
	15	"	"	灰白	0.8×1.3	1.4	風化(酸化)により変質		41	"	"	"	0.7×0.7	0.5	
	16	丸玉	"	"	1.1×0.7	0.6	地く。実例後述		42	"	"	"	0.8×0.6	0.5	
	17	白玉	滑石	暗灰	0.8×0.3	0.4			43	"	"	"	0.8×0.6	0.4	
	18	"	"	"	0.8×0.4	0.5			44	"	"	黒灰色	0.8×0.5	0.4	
	19	小玉	ガラス	黄青色	0.5×0.4	0.2			45	"	"	黒褐色	0.7×0.4	0.7	
	20	"	"	黄	0.5×0.4	0.2			46	"	"	黒灰色	0.8×0.5	0.4	
	21	"	"	"	0.5×0.4	0.2			47	"	"	黒色	0.7×0.7	0.4	
	22	"	"	青緑	0.4×0.4	0.1			48	"	"	黒灰色	0.8×0.5	0.3	
	23	"	"	暗緑	0.5×0.3	0.2			49	"	"	黒灰色	0.7×0.5	0.5	
	24	"	"	黄	0.4×0.3	0.1			50	"	"	"	0.7×0.5	0.3	
	25	"	"	青緑	0.3×0.4	0.1			51	"	"	"	0.6×0.6	0.3	一部破壊
	26	"	"	黄	0.5×0.3	0.1			52	"	"	"	0.6×0.5	0.3	
	27	"	"	黄青色	0.4×0.3	0.1			53	"	"	"	0.6×0.5	0.3	
	28	"	"	"	0.4×0.3	0.1			54	"	"	"	0.6×0.5	0.3	
	29	"	"	黄褐色	0.4×0.3	0.1			55	小玉	"	黒褐色	0.8×0.6	0.5	通玉の一部?
	30	"	"	黄青色	0.4×0.3	0.1			56	"	"	"	0.7×0.6	0.3	
	31	"	"	"	0.4×0.2	0.1									
	32	"	滑石	黄灰色	0.4×0.2	0.05		第四号墳	1	勾玉	硬玉(ヒスイ)	黄白色(緑色)	1.2×3.2	14.4	片面穿孔
	33	"	"	"	0.5×0.2	0.1			2	管玉	碧玉	暗褐色	1.0×0.8	4.1	片面穿孔 面
									3	切子玉	水晶	透明	1.3×2.8	7.0	出土No34 片面穿孔

遺跡	No.	種別	材質	色調	寸法 (縦×横×高)	(g) 重量	備考	遺跡	No.	種別	材質	色調	寸法 (縦×横×高)	(g) 重量	備考
第4号墳	4	管玉	碧玉	暗緑色	0.8×2.1	2.4	片面穿孔	第5号墳	12	白玉	ガラス	濃緑	0.9×0.8	0.9	
	5	"	ガラス	青緑	0.8×2.2	2.4	出土No14		13	"	"	"	0.8×0.9	0.9	
	6	"	"	"	0.9×2.0	2.2	一部折損 (出土No6)		14	"	"	"	0.7×0.5	0.5	
	7	"	"	灰白	0.8×1.9	2.7	風化により白色化している		15	"	"	"	0.8×0.8	0.9	
	8	高玉	琥珀玉	茶褐色	1.0×1.3	0.8	(出土No31) 嵌合痕跡		16	"	"	"	0.8×0.7	0.8	
	9	丸玉	ガラス	濃緑色	1.1×1.0	1.5	数箇所よりの出土 気泡あり		17	"	"	"	0.9×0.7	0.8	出土No45
	10	白玉	"	濃緑	0.7×0.5	0.5			18	"	"	"	0.8×0.6	0.7	
	11	"	"	"	0.8×0.5	0.5	出土No20		19	"	"	"	0.8×0.6	0.6	
	12	"	"	"	0.7×0.5	0.5	出土No9		20	"	"	"	0.8×0.7	0.8	出土No35
	13	"	"	濃緑	0.7×0.6	0.4			21	"	"	"	0.7×0.6	0.6	
	14	"	"	白色	0.9×0.5	0.8	風化により黄色 出土No15		22	"	"	"	0.7×0.6	0.5	
	15	"	"	(コバルト) ブルー 青	0.6×0.7	0.4			23	"	"	"	0.8×0.6	0.6	
	16	小玉	"	"	0.5×0.6	0.2			24	"	"	"	0.6×0.6	0.6	
	17	管玉	碧玉	青灰色	0.3×0.6	0.1	片面穿孔		25	"	"	"	0.7×0.6	0.7	
	18	丸玉	土製	黒色	0.7×0.7	0.5			26	"	"	"	0.9×0.6	1.1	
	1	管玉	ガラス	青緑色	0.7×1.9	1.5	出土No16		27	"	"	"	0.8×0.6	0.7	
	2	"	"	"	0.6×1.6	0.9	出土No26		28	"	"	"	0.8×0.6	0.6	
第5号墳	3	子持勾玉	碧玉	灰緑色	1.1×1.3	1.2	出土No18 片面穿孔	第6号墳	29	"	"	"	0.7×0.6	0.6	
	4	丸玉	ガラス	濃緑	1.3×1.0	2.5			30	"	"	"	0.7×0.6	0.7	
	5	"	"	"	1.2×0.9	1.6			31	"	"	"	0.8×0.7	0.7	
	6	空玉	銅(?)	黒灰	1.1×1.3	1.6			32	"	"	"	0.7×0.5	0.5	
	7	白玉	ガラス	濃緑	0.8×0.8	1.1	出土No21		33	"	"	"	0.7×0.4	0.5	
	8	"	"	"	0.9×0.7	1.0			34	"	"	"	0.7×0.7	0.56	
	9	"	"	"	0.8×0.8	0.8			35	"	"	"	0.8×0.5	0.7	出土No11
	10	"	"	"	0.8×0.6	0.9	出土No48		36	"	"	"	0.8×0.7	0.6	
	11	"	"	"	0.9×0.5	0.7	出土No36		37	"	"	"	0.7×0.6	0.6	出土No39

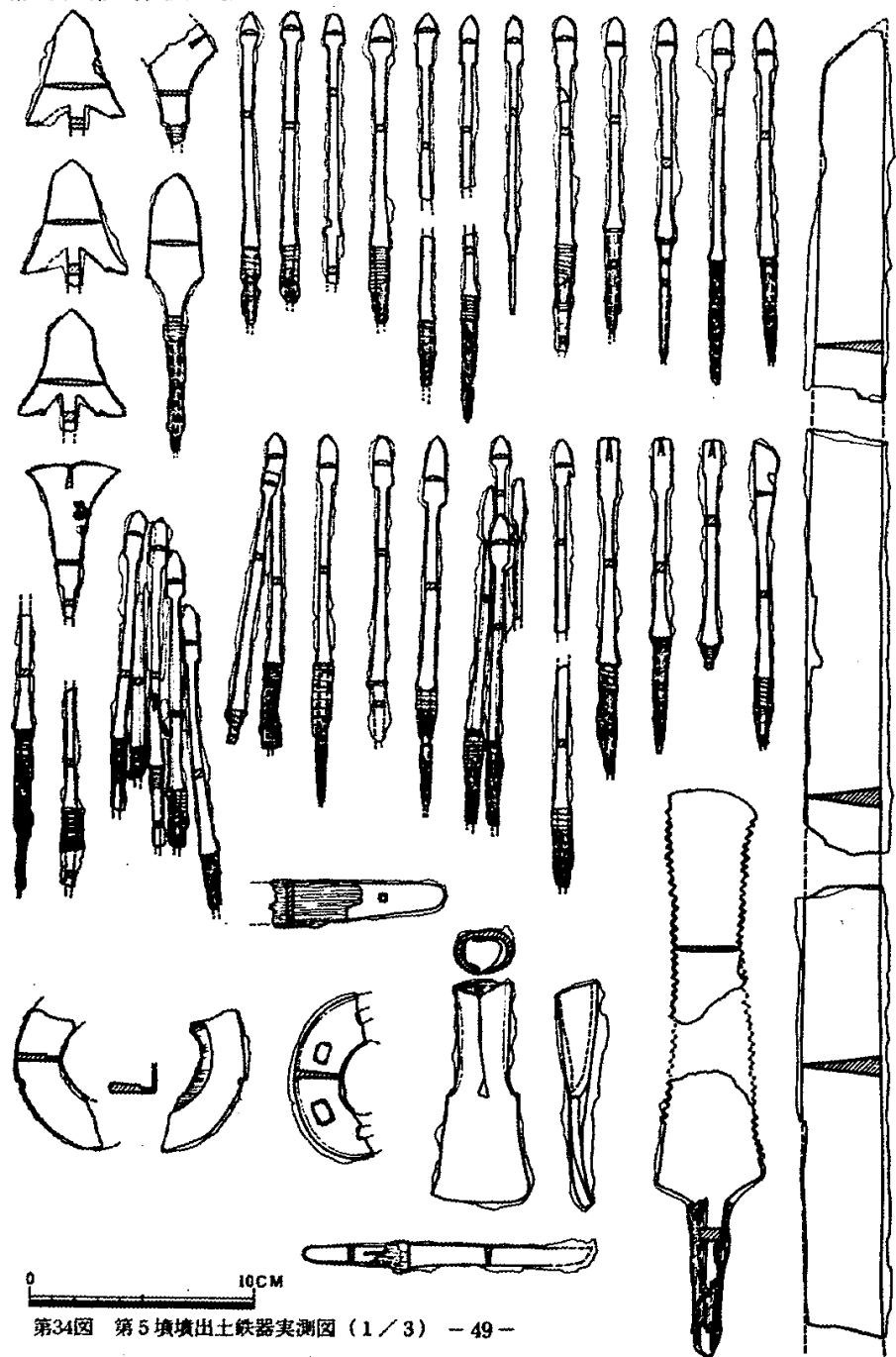
遺跡	No.	類別	材質	色調	幅・高	(g)重量	備考	遺跡	No.	類別	材質	色調	幅・高	(g)重量	備考
五	38	丸玉	土製	黒色	0.9×0.7	0.7		五	64	丸玉	土製	黒色	0.7×0.6	0.4	出土No44
	39	"	"	"	1.0×0.8	0.8			65	蓮玉	"	"	0.7×1.1	0.8	出土No25
	40	"	"	"	0.8×0.9	0.6			66	白玉	ガラス	黄褐色	0.9×0.6	0.8	
	41	"	"	"	0.7×0.6	0.55			67	"	"	"	0.8×0.6	0.7	出土No7
	42	"	"	黄褐色	0.9×0.8	0.6			68	"	"	"	0.8×0.5	0.5	出土No10
	43	"	"	黒色	0.9×0.8	0.7			69	"	"	"	0.7×0.4	0.3	
	44	"	"	黄褐色	0.7×0.6	0.7	出土No47		1	蓮玉	土製	黒色	0.8×1.1	1.0	
	45	"	"	黒色	0.9×0.8	0.8			2	白玉	"	"	0.8×0.7	0.4	
	46	"	"	"	0.7×0.7	0.4			3	"	"	"	0.8×0.8	0.6	
	47	"	"	"	0.9×0.7	0.8			4	"	"	"	0.8×0.7	0.5	
五	48	"	"	"	0.7×0.6	0.5		五	5	"	"	"	0.9×0.7	0.6	
	49	"	"	"	0.8×0.9	0.8			6	"	"	"	0.9×0.6	0.5	
	50	"	"	灰黒色	0.9×0.7	0.6			7	"	"	"	0.7×0.8	0.7	
	51	"	"	黄褐色	0.7×0.8	0.5	出土No33		8	"	"	"	0.7×0.6	0.5	
	52	"	"	黒色	0.8×0.6	0.5	出土No38		9	"	"	"	0.9×0.7	0.6	
	53	"	"	黄褐色	0.7×0.7	0.6	出土No51		10	"	"	"	0.8×0.6	0.5	
	54	"	"	"	0.8×0.7	0.6	出土No32		11	"	"	"	0.7×0.6	0.4	
	55	"	"	"	0.9×0.8	0.6	出土No28 蓮玉(?)		12	"	"	"	0.7×0.6	0.4	
	56	"	"	"	0.8×0.7	0.6			13	"	"	"	0.8×0.6	0.5	
	57	"	"	"	0.8×0.8	0.6			14	"	"	"	0.7×0.7	0.5	
五	58	"	"	"	0.6×0.7	0.6		五	15	"	"	黄褐色	0.7×0.5	0.4	
	59	"	"	"	0.7×0.7	0.5			16	"	"	黒色	0.7×0.6	0.5	
	60	"	"	"	0.8×0.7	0.5	出土No31		17	"	"	"	0.7×0.5	0.3	
	61	"	"	黒色	0.8×0.6	0.5			18	"	"	"	0.8×0.6	0.4	
	62	"	"	"	0.8×0.8	0.5			1	"	ガラス	黄褐色	1.0×0.9	1.2	
	63	"	"	"	0.8×0.6	0.4	出土No30		2	丸玉	土製	黒色	0.8×0.7	0.4	



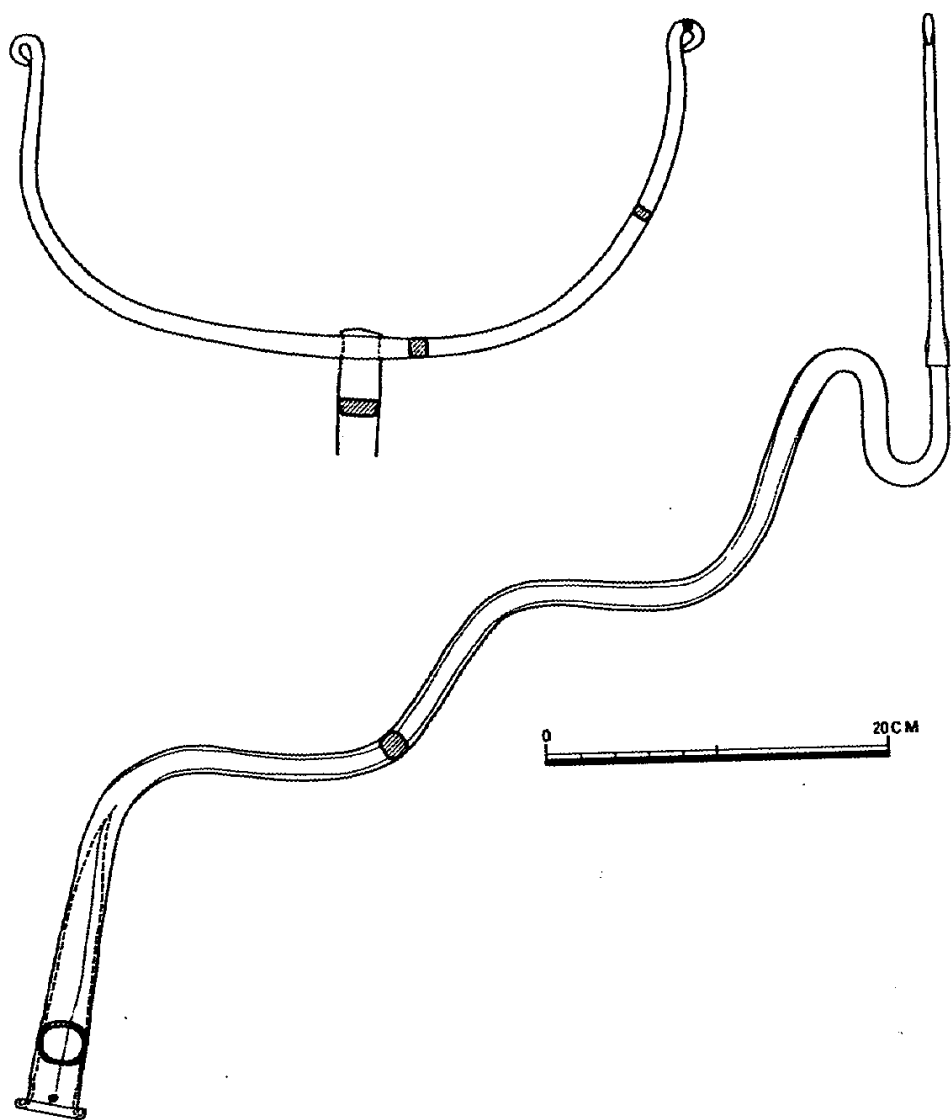
第32図 各古墳出土鉄器実測図(1) (1/3)



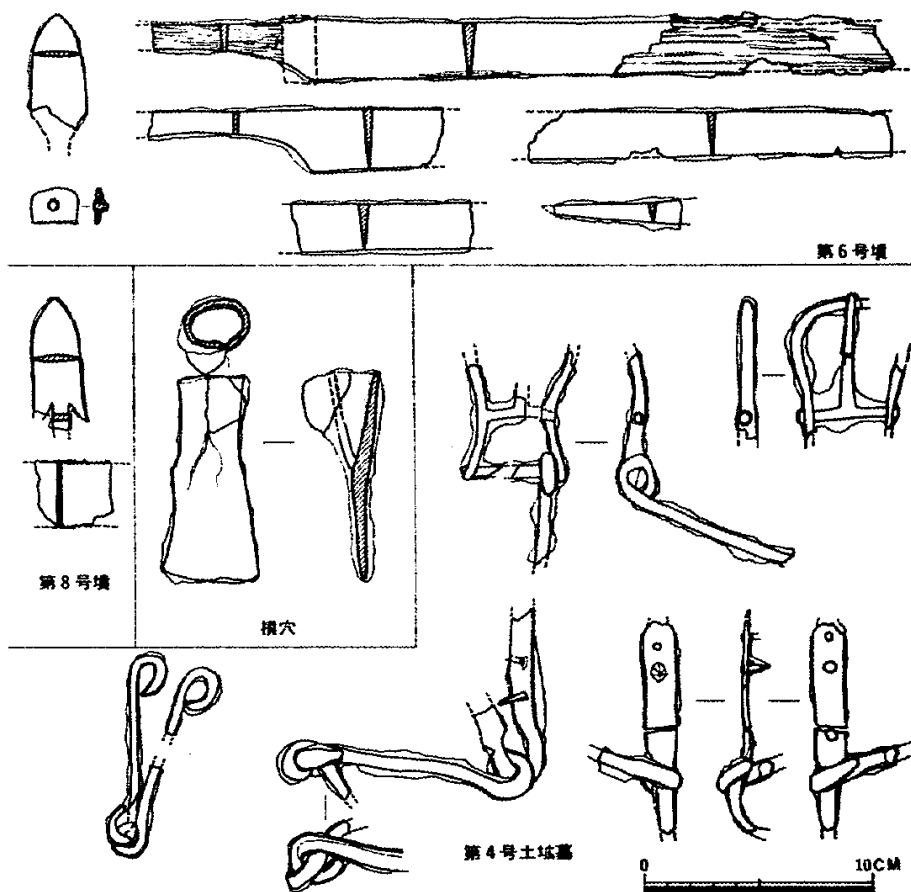
第33图 第4墳填出土馬具実測図 (1/3)



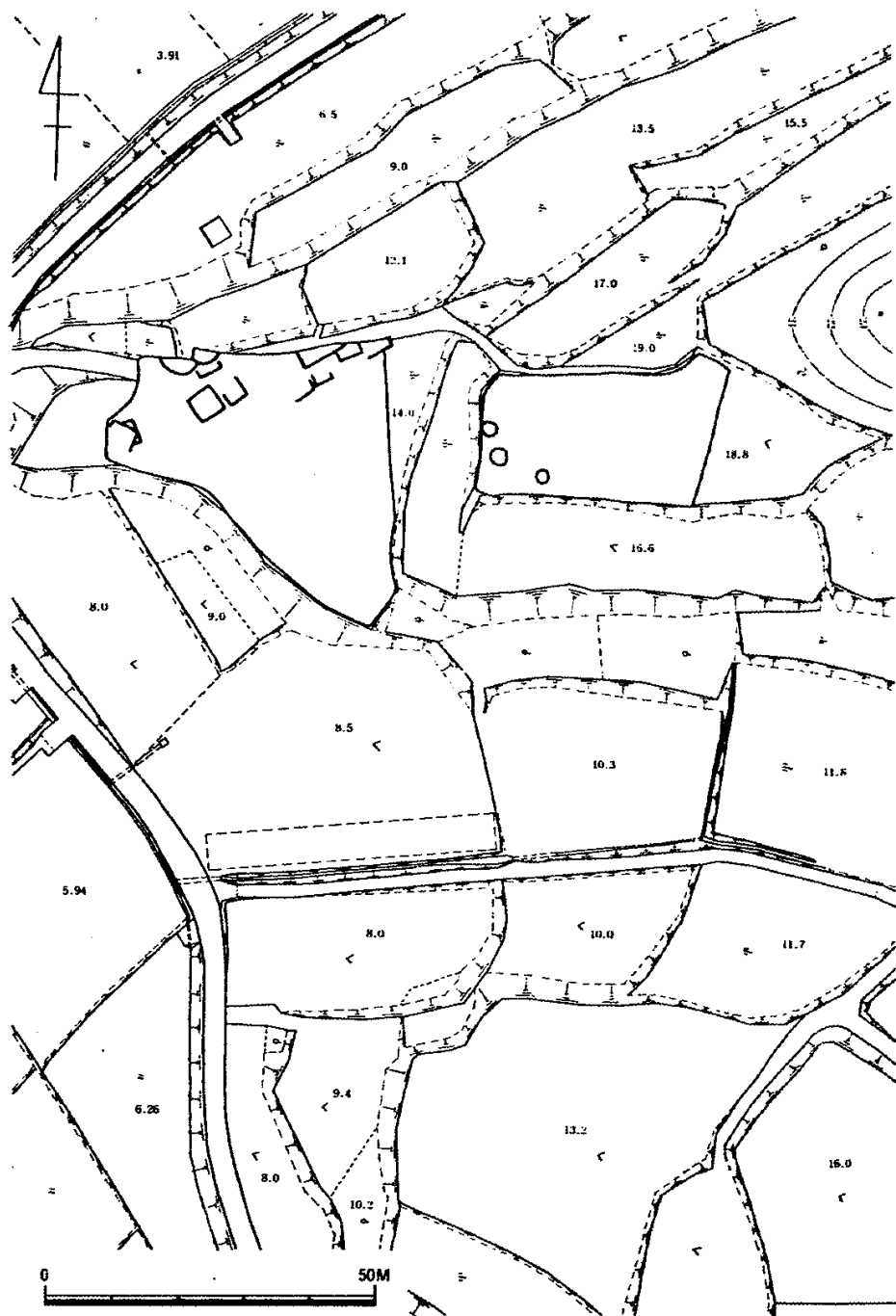
第34图 第5墳填出土鉄器実測図 (1/3) - 49 -



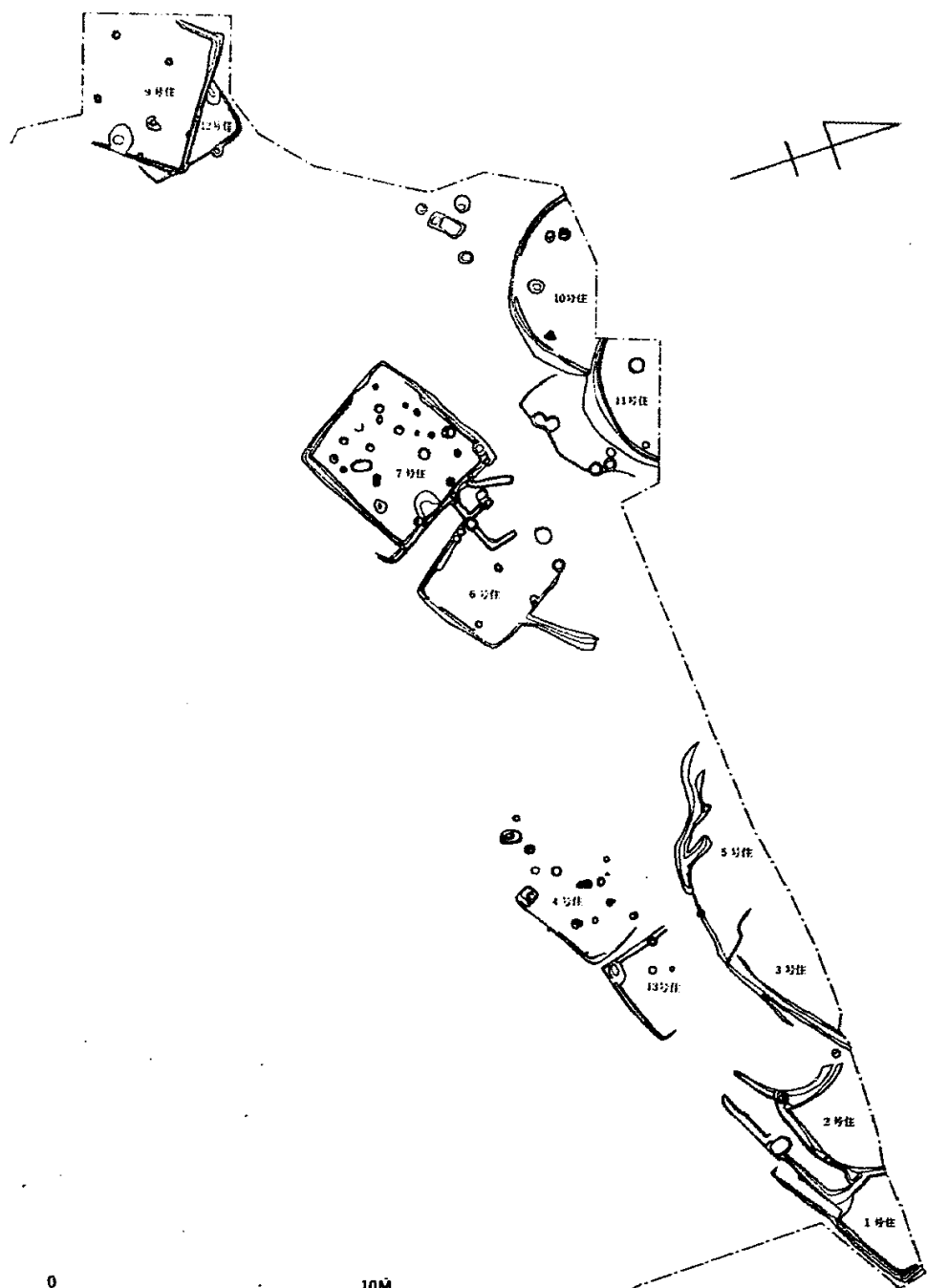
第35图 第5 填填出土蛇行跌器实测图 (1 / 4)



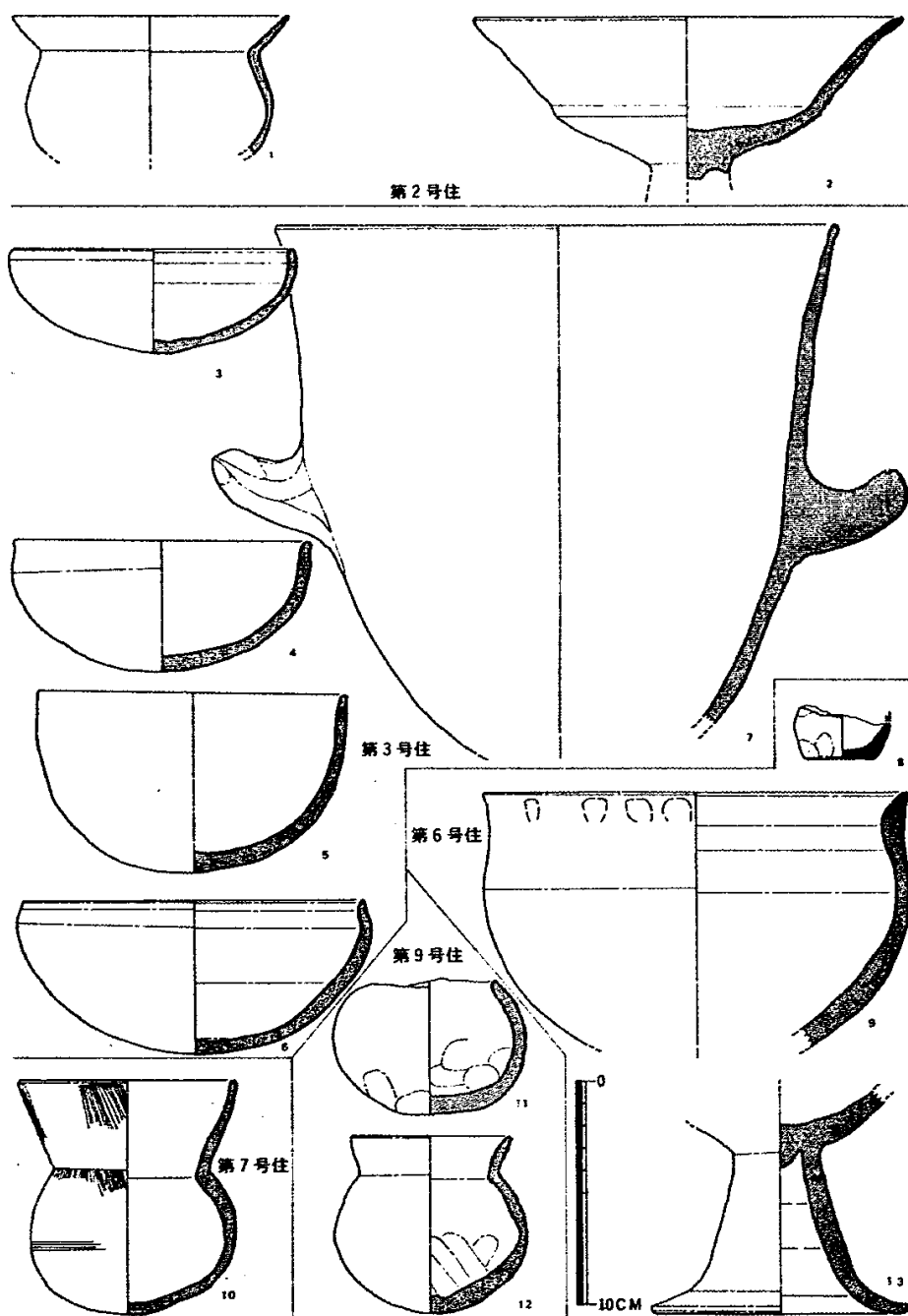
第36図 各遺構出土鉄器実測図（1／3）



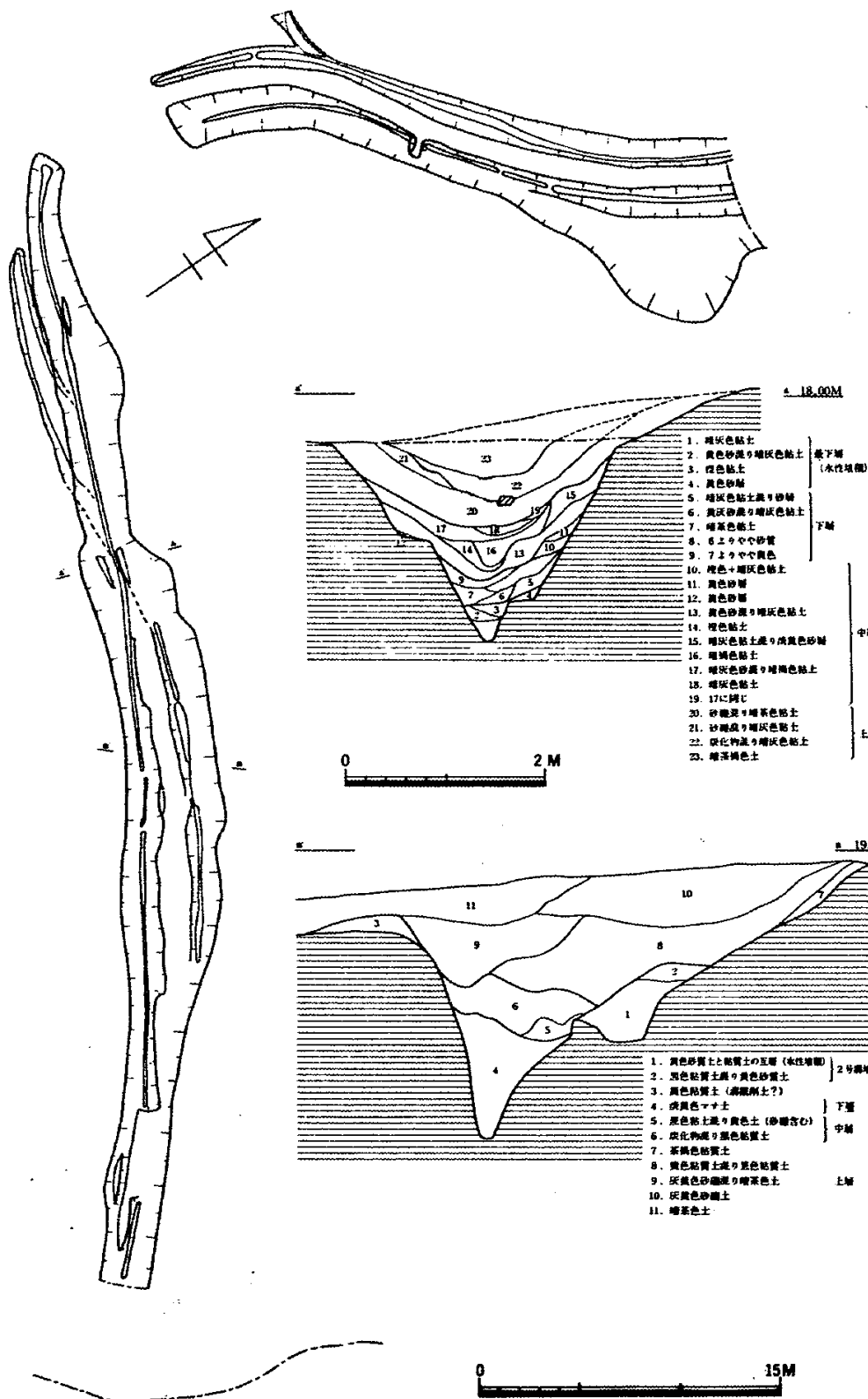
第37图 II-A区地形实测图 (1/1000)



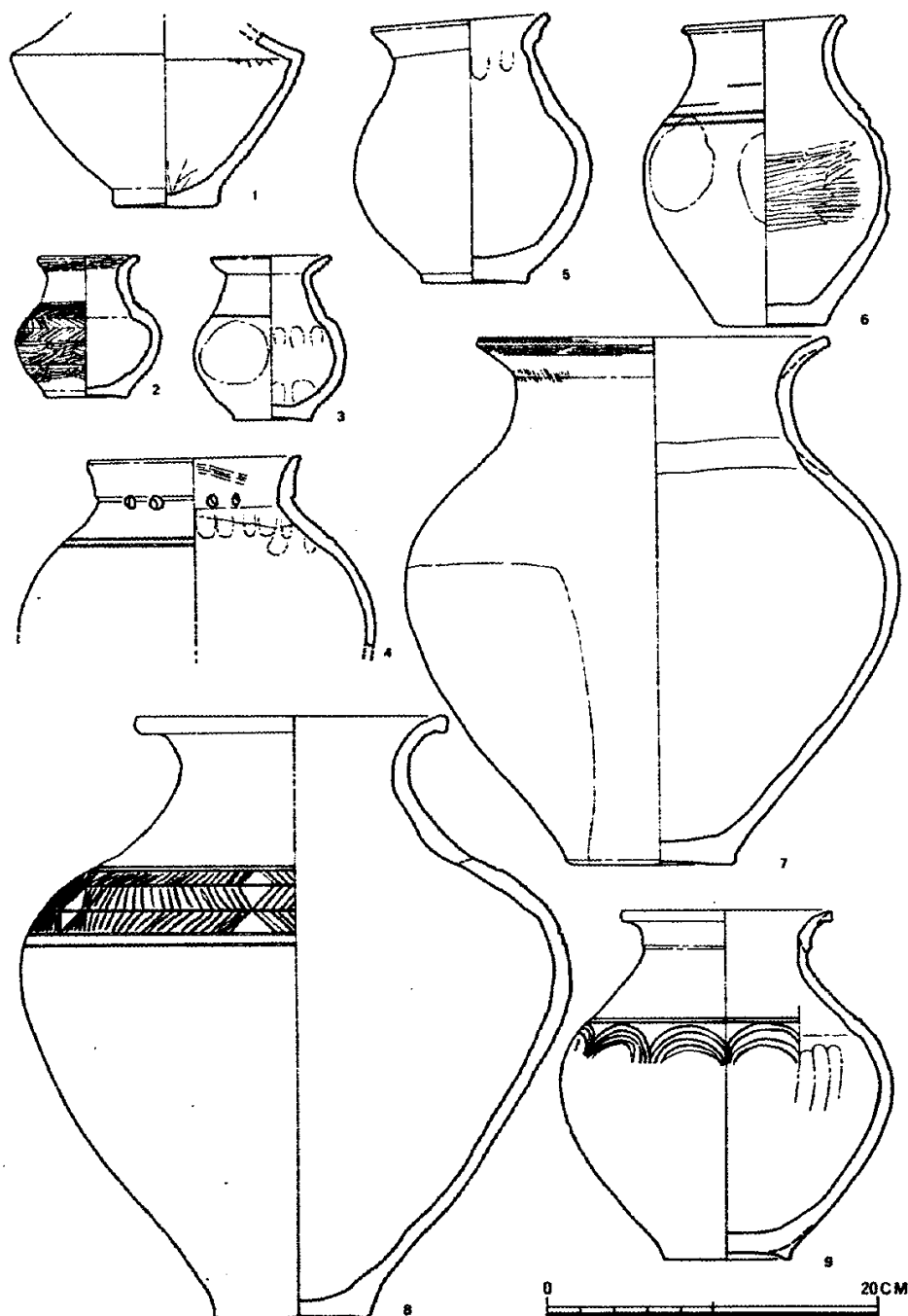
第38图 II-A区遗址配置图 (1/200)



第39図 各住居跡出土土師器実測図 (1 / 3)



第40図 大井三倉遺跡Ⅱ-B区V字溝実測図 (1/300) 及び土層断面図 (1/60)



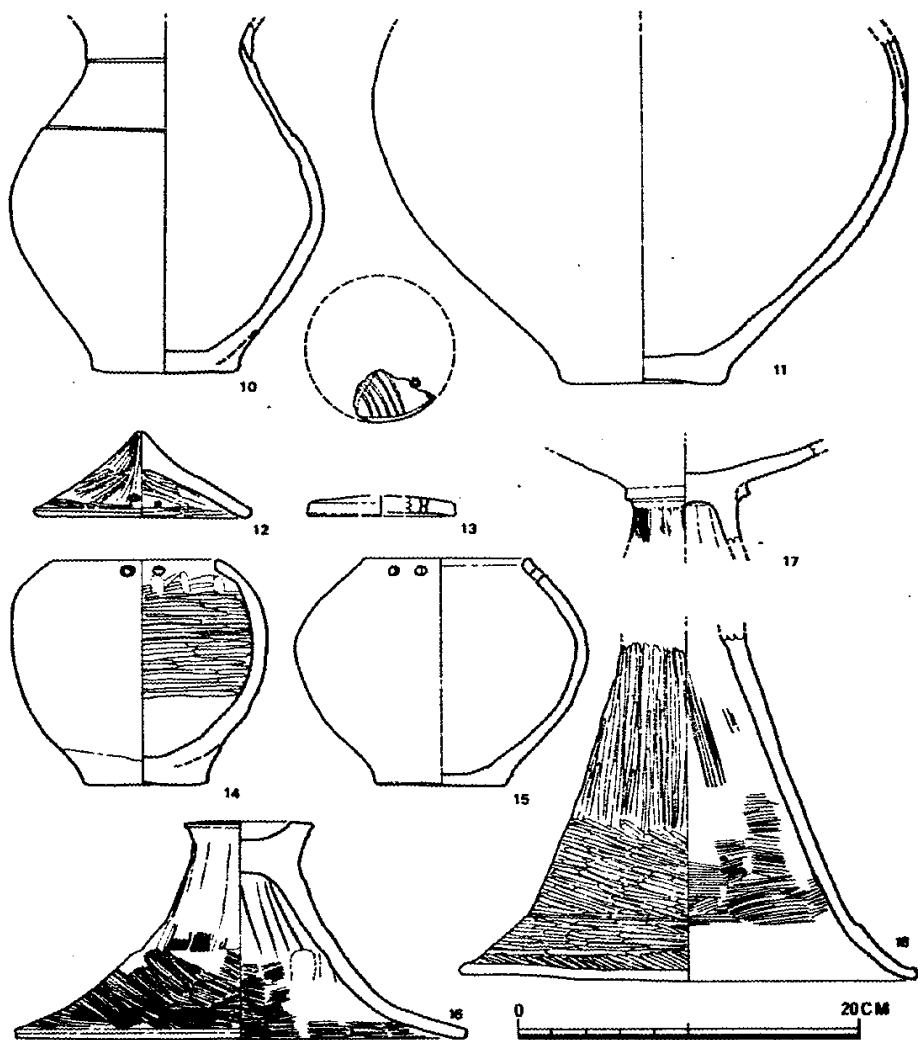
第41图 V字溝出土弥生式土器实测图1) (1/4)

第4表 大井三倉遺跡Ⅱ-B群(区)1号溝出土土器計測表 ()は復原径

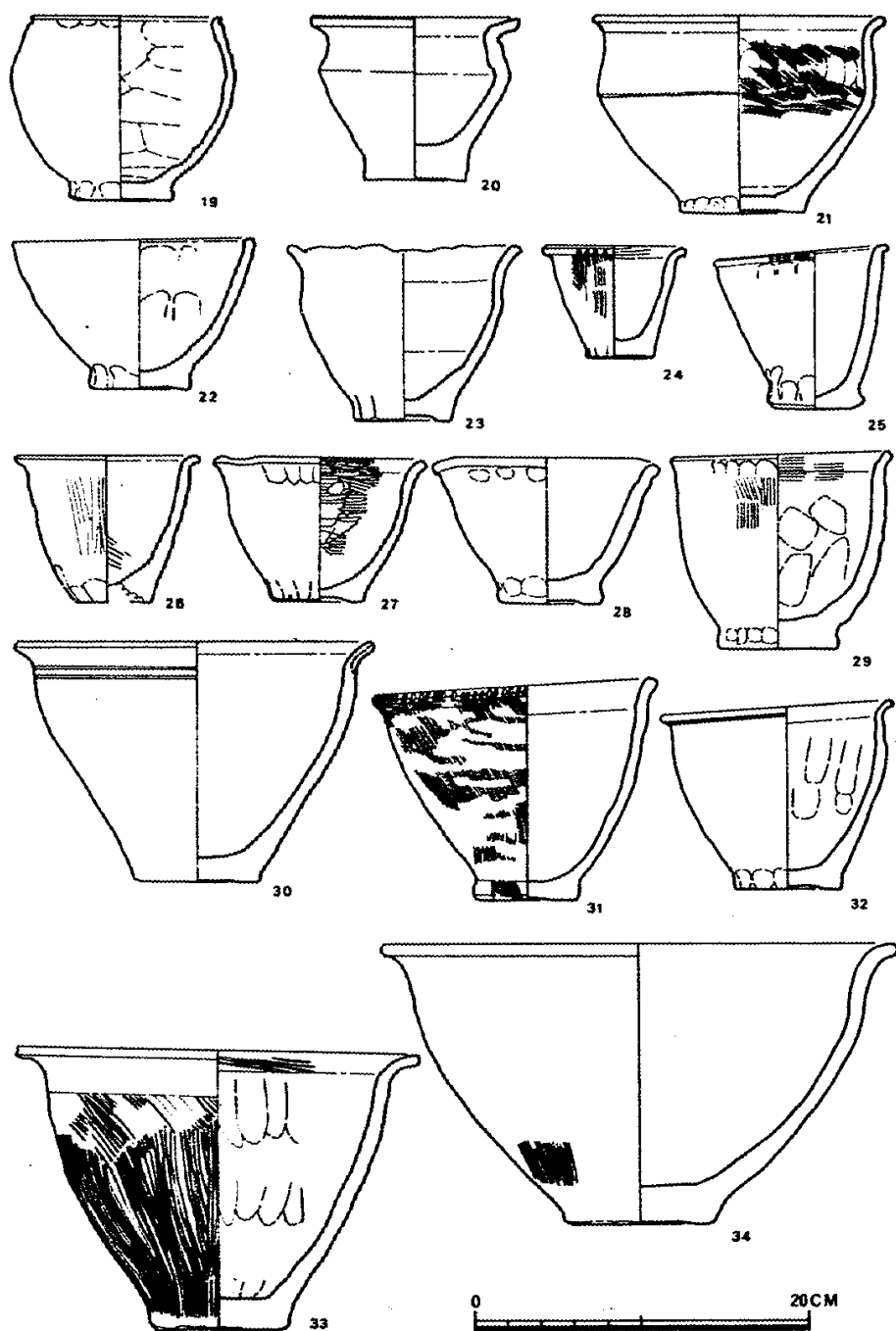
No	出土地点	器種	分類	口径	肩高	底径	体高最大径	胎土	焼成	色	表面	備考	図録掲載
1	1号溝	弥生土器 甕		—	—	6.6	18.0	精良	良好	灰黄褐色	ほぼ全面にへう研磨?		神保41 図録21
2	1号溝	弥生土器 小型甕		5.9	8.8	4.9	8.9	1~2mm程度の砂粒混入多し	良好	黄褐色	体部中央に施文と文様 地はへう磨き		神保41 図録21
3	溝・西半	弥生土器 小型甕		7.4	10.2	4.8	9.3	1mm程度の砂粒混入	良好	淡赤褐色	体部に磨きへう研磨の 痕跡、胴上半部に1条の 文様		神保41 図録21
4	溝・北半	弥生土器 甕		13.0	11.7	—	21.6	砂粒混入多し	良好	淡赤褐色	口縁部に2孔一対の縦孔 がある。胴上半部に2条の 文様		神保41 図録21
5	溝	弥生土器 甕		11.0	16.5	6.5	14.6	精良	良好	黄褐色	体部縦方向のへう研磨		神保41 図録21
6	溝	弥生土器 甕		9.6	19.3	6.8	15.3	5~1mmまでの砂粒混入	良好	黄褐色及び赤褐色	胴上半部に2条の文様一 対		神保41 図録21
7	溝	弥生土器 甕		(21.0)	32.5	10.4	30.0	砂粒混入多し	良好	淡黄褐色	体部へう研磨 一部刷毛目		神保41 図録21
8	—	弥生土器 甕		19.2	36.5	9.2	33.4	1~3mm程度の砂粒混入多し	良好	茶褐色	胴部中央上部に有無不明 文。各2条の文様で区画		神保41 図録21
9	—	弥生土器 甕		12.8	21.4	7.6	20.2	3~1mm程度の砂粒混入多し	良好	赤褐色	胴部中央部にへう磨きの 直線文と文様の模様		神保41 図録21
10	溝	弥生土器 甕		—	21.3	8.6	18.0	砂粒混入多し	やや不良	淡赤褐色	口縁部と胴上半部に各一 条の文様		神保42 図録
11	溝	弥生土器 甕		—	20.8	9.8	31.8	1~3mm程度の砂粒混入多し	良好	灰黄灰色			神保42 図録
12	溝・北半	弥生土器 甕		—	5.1	(復元) 12.8	—	砂粒混入多し	良好	黄褐色及び赤褐色	2孔1対の縦孔が胴部2ヶ所に位置するへう研磨		神保42 図録22
13	溝・西半中部	弥生土器 甕		(8.8)	1.2	—	—	砂粒混入	良好	褐色、最上面に赤褐色を呈す	5本1単位へのう磨き文様とその間に彫り、肩面からの穿孔あり		神保42 図録
14	溝	弥生土器 甕		9.7	13.4	7.2	15.0	砂粒混入多し	良好	黄褐色及び赤褐色	2孔1対の縦孔が胴部2ヶ所に位置するへう研磨		神保42 図録22
15	溝	弥生土器 甕		(9.9)	13.5	長径 8.9 短径 7.6	17.4	8mm~0.5mmの砂粒混入多し	良好	淡黄色~赤褐色	胴部に穿孔(2孔1対が2ヶ所)		神保42 図録22
16	溝・西半中部	弥生土器 甕		—	12.9	26.8	—	2~1mm程度の砂粒混入多し	良好	茶褐色	体部刷毛目		神保42 図録22
17	溝	弥生土器 甕		—	5.5	—	—	精良	良好	黄灰色			神保42 図録
18	溝	弥生土器 甕		—	20.7	27.0	—	精良	良好	灰黄色	器表面はへう研磨、部分的に赤褐色の丹塗あり		神保42 図録22
19	溝	弥生土器 甕		(11.5)	11.2	6.4	13.5	0.5~2mm程度の砂粒含む	良好	黄灰色			神保43 図録22
20	溝	弥生土器 甕		(12.6)	10.0	6.2	—	0.5~5mmの砂含む	良好	灰黄灰色	体部へう磨き		神保43 図録22
21	溝・西半中部	弥生土器 甕		17.8	12.1	7.6	—	1mm程度の砂粒混入多し	良好	淡黄灰色	口縁一部と底面一部にスズメの黒色を呈す		神保43 図録22
22	溝	弥生土器 甕		14.6	9.3	6.15	—	0.5~2mm程度の砂含む	やや甘い	茶褐色			神保43 図録22
23	溝	弥生土器 甕		14.2	10.8	5.9	—	0.5~3.5mm程度の砂含む	甘い	内面、黄褐色 外面、黄赤褐色			神保43 図録22

No	出土地点	層 別	分 類	(I) 値	砂 高	底 径	断面形状	土 質	色 調	備 考	採 集 位置
24	溝・西半中層	弥生土層 砂		(8.6)	6.9	4.0	—	1~3mm程度の砂混入	やや甘い、淡黄褐色	口縁部に割目、体部銅毛目	採143 143a22
25	溝・西半	弥生土層 砂		10.6	10.0	5.9	—	0.5~2mm程度の砂混入	やや甘い、淡黄灰色	口縁部に割目	採143 143a22
26	溝	弥生土層 砂		11.2	8.9	4.6	—	1~4mm程度の砂混入	やや甘い、淡黄褐色		採143 143a23
27	溝	弥生土層 砂		8.8	13.0	5.7	—	0.5~3mm程度の砂混入	甘い、内面、黄灰色 外面、淡黄灰色	体部へう研ぎ	採143 143a23
28	溝・西半上層	弥生土層 砂		(13.8)	8.9	6.2	—	0.5~3mm程度の砂混入	やや甘い、淡黄灰色		採143 143a23
29	溝・西半上層	弥生土層 砂		13.4	12.1	6.2	—	1~3mm程度の砂混入	やや甘い、内面、淡黄褐色 外面、茶褐色		採143 143a23
30	溝・西半	弥生土層 砂		(21.0)	14.6	7.5	—	0.5~2mm程度の砂混入	甘い、淡黄褐色	口縁すく下に2本の浅線	採143
31	溝・北半中層	弥生土層 小型 砂		16.5	13.5	5.9	—	2cm前後の砂粒混入	普通、灰褐色	口縁部に割目、体部銅毛目	採143 143a23
32	溝	弥生土層 砂		14.0	11.5	6.3	—	1~3mm程度の砂混入	甘い、内面、淡黄褐色 外面、淡黄灰色	口縁すく下に浅線あり?	採143 143a23
33	溝	弥生土層 砂		24.5	17.1	8.4	—	0.5~2mm程度の砂混入	やや甘い、淡黄灰色	体部銅毛目	採143 143a23
34	溝	弥生土層 砂		(31.2)	17.0	9.0	—	砂粒混入多	良好、淡黄灰色		採143
35	溝	弥生土層 砂		(20.5)	15.3	7.9	—	細砂粒混入	やや良い、淡黄灰色		採144 143a23
37	溝	弥生土層 砂		26.9	16.2	8.6	—	砂粒混入多し	良好、茶褐色及び灰色	体部へう研ぎあり、銅毛目	採144 143a23
38	溝	弥生土層 砂		18.9	14.4	6.5	—	1~4mm程度の砂混入	甘い、淡黄褐色		採144 143a23
39	溝	弥生土層 砂		24.2	13.7	7.4	—	1~3mm程度の砂混入	良好、淡茶褐色	口縁すく下に2本の浅線めぐる、体部へう研ぎ	採144 143a23
40	溝・西半	弥生土層 砂		27.4	30.0	9.0	—	1~3mm程度の砂粒混入多し	良好、黄茶褐色	口縁に縞を置いて割目のある貼付け痕等2重めぐる、体部銅毛目	採144 143a23
41	溝	弥生土層 砂		(17.8)	21.0	7.6	17.6	3mm~0.5mmの砂粒混入多く	甘い、黄褐色	底部に突孔、胴部中央と口縁部分に割目をほこした貼付けの三尖状痕あり	採144 143a24
42	溝・西半中層	弥生土層 砂		17.4	19.4	7.4	—	1~2mmの砂粒混入	普通、灰褐色	胴部上層部に割目の上下に浅線めぐる以後は銅毛目では、銅毛目	採144 143a24
43	溝・西半	弥生土層 砂		17.6	9.0	—	—	砂粒混入多	良好、内面、淡茶白 外面、暗茶褐色	口縁部に割目、体部銅毛目	採145
44	溝・西半上層	弥生土層 砂		19.6	19.7	7.1	—	砂粒混入多し	良好、茶褐色及び茶褐色	口縁部に割目、体部銅毛目	採145 143a24
45	溝	弥生土層 砂		20.0	19.2	長径 7.2 短径 6.6	—	2~3mmの砂粒混入	普通、茶褐色	口縁部に割目、体部銅毛目	採145 143a24
46	溝	弥生土層 砂		21.3	21.6	8.8	—	2~3mm程度の砂粒混入	良好、茶褐色	口縁部に割目、体部銅毛目	採145 143a24
47	溝	弥生土層 砂		19.8	21.4	8.0	—	細砂粒 (西+に3~5mm程度)	普通、灰黄褐色	口縁部に割目、体部銅毛目	採145 143a24
48	溝・西半中層	弥生土層 砂		(21.7)	24.0	8.0	—	砂粒混入多し	良好、暗茶褐色	口縁部に割目、体部銅毛目	採145 143a24

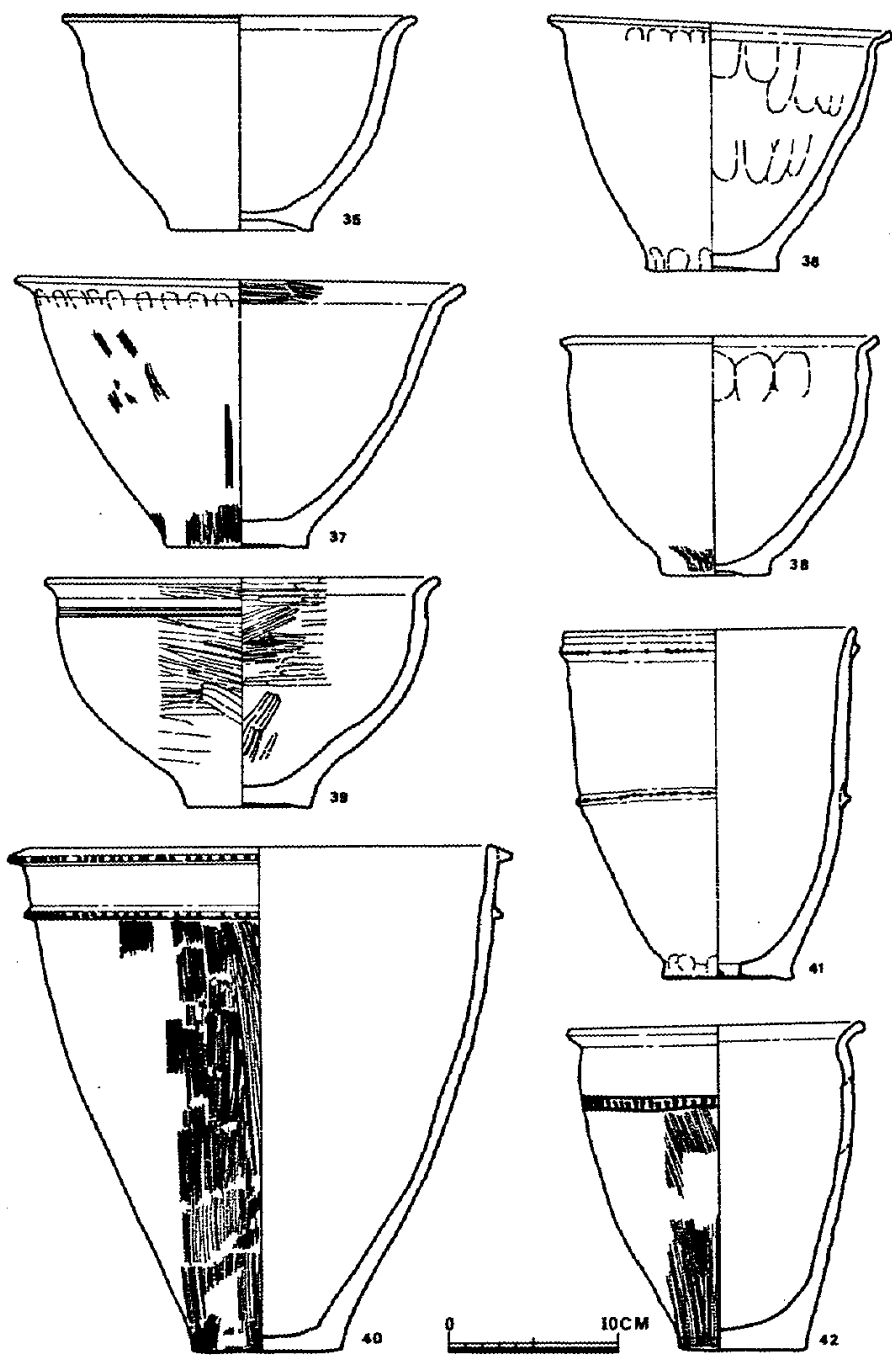
No.	出土地点	部 位	分類	(t) 径	部 高	延 径	体積最大径	貯 土	地 成	色 調	備 考	検 査 日 期
49	溝・南端中層	体生土部		24.8	27.5	9.0	-	砂粒混入多し	良 好	茶 褐 色	口縁に割目。体部刷毛目	検出45 46年24
50	溝	体生土部		(21.6)	24.5	8.8	-	砂粒混入多し	良 好	黄褐色及び茶褐色	底部に穿孔あり。口縁部 に割目。体部刷毛目	検出46 46年25
51	溝	体生土部		24.8	25.3	9.1	-	精 良	良 好	茶 褐 色	口縁部に割目。体部刷毛目	検出46 46年25
52	溝	体生土部		23.2	23.3 ^a	-	-	砂粒混入多	良 好	内面、黄褐色・赤褐色 外面、黄褐色	口縁部に割目。体部刷毛目	検出46
53	溝	体生土部		27.0	27.0	長径 8.5 短径 8.0	-	精 良	良 好	灰 褐 色	口縁部に割目。体部刷毛目	検出46 46年25
54	溝	体生土部		(24.6)	29.8	9.3	-	砂粒混入多	良 好	茶 褐 色	口縁部に割目。体部刷毛目	検出46 46年25
55	溝	体生土部		27.2	31.8	9.0	-	3~1mm程度の砂粒 混入多し	良 好	茶 褐 色	口縁部に割目。胴上平 部に1条の浅溝。体部刷 毛目	検出47 46年25
56	溝	体生土部		(31.6)	27.4	7.8	-	2~4mm程度の混入	やや甘い	灰 黄 褐 色	口縁に割目。体部刷毛目 胴上平部に凹線1条のこ る	検出47
57	溝	体生土部		(29.8)	34.7	7.2	-	砂粒混入多く粗	良 好	茶 褐 色	口縁部に割目。浅溝	検出47 46年25
58	溝	体生土部		26.6	28.6	-	-	2~1mmの砂粒混入多し	良 好	茶 褐 色	体部刷毛目	検出47 46年25
59	溝・西半	体生土部		-	12.3 ^a	8.2	-	1~3mm程度の混入	甘 い	灰 黄 灰 褐 色		検出47
60	溝・西半	体生土部		-	10.9 ^a	8.25	-	1~2mm程度の混入	やや甘い	灰 黄 灰 色	体部刷毛目	検出47
61	溝	体生土部		19.8	19.3	7.2	-	砂粒混入多。粗	良 好	茶 褐 色		検出48 46年25
62	溝	体生土部		22.0	25.6	9.1	-	砂粒混入多。粗	不 良	茶 褐 色		検出48
63	溝・西半上層	体生土部		25.4	28.8	9.6	-	1~2mm程度の砂粒 混入多	良 好	茶 褐 色	底部に穿孔あり	検出48
64	溝	体生土部		21.8	23.8	8.6	-	3~1mmの砂粒混入多し	良 好	茶 褐 色	底部に穿孔あり。体部刷毛目	検出48
65	溝	体生土部		-	20.2 ^a	8.2	-	1~3mm程度の混入	やや良	灰 茶 褐 色		検出48
66	溝・西半	体生土部		-	19.5 ^a	9.3	-	砂粒混入多	良 好	茶 褐 色		検出48



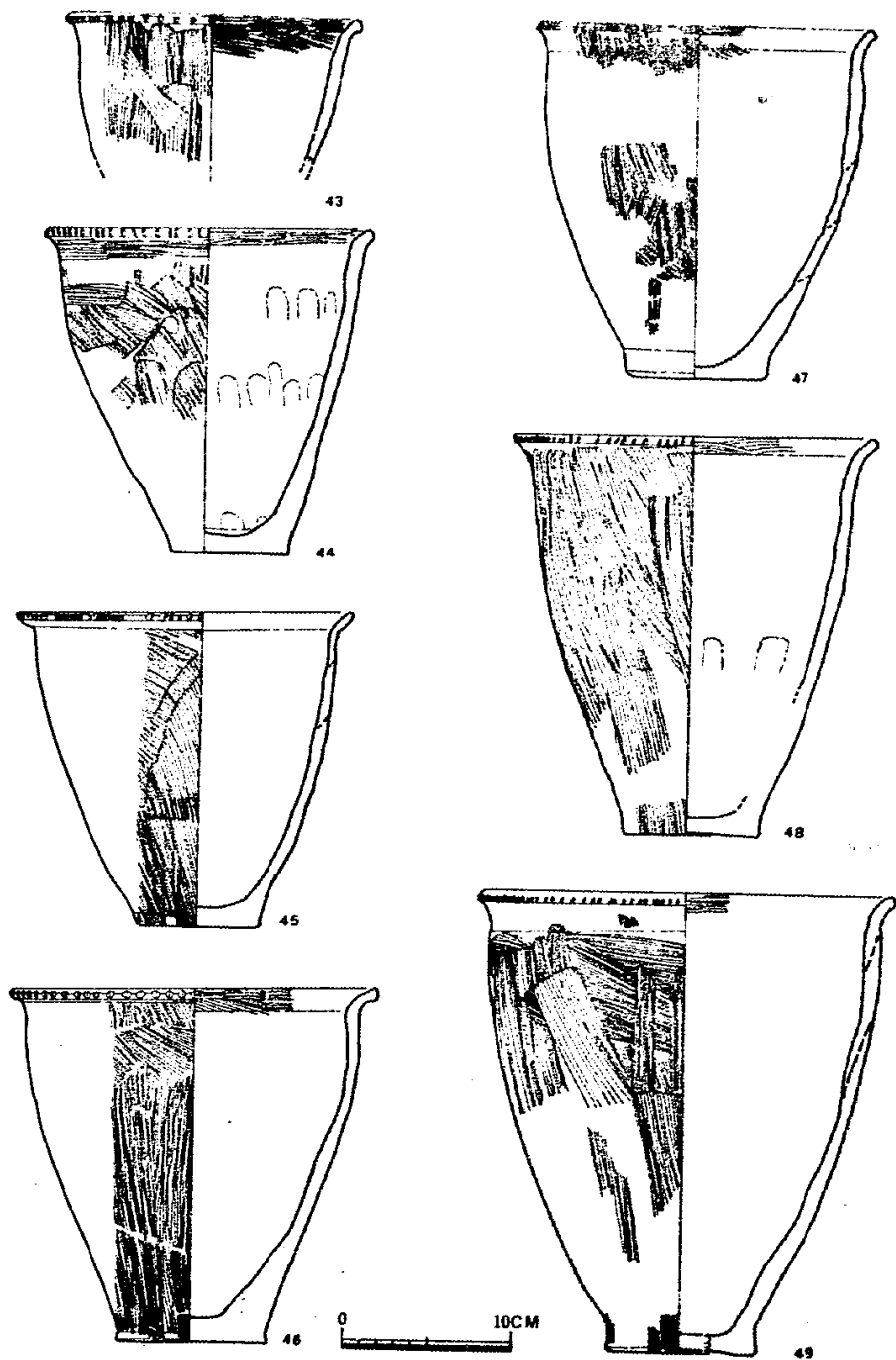
第42図 V字溝出土弥生式土器実測図2) (1 / 4)



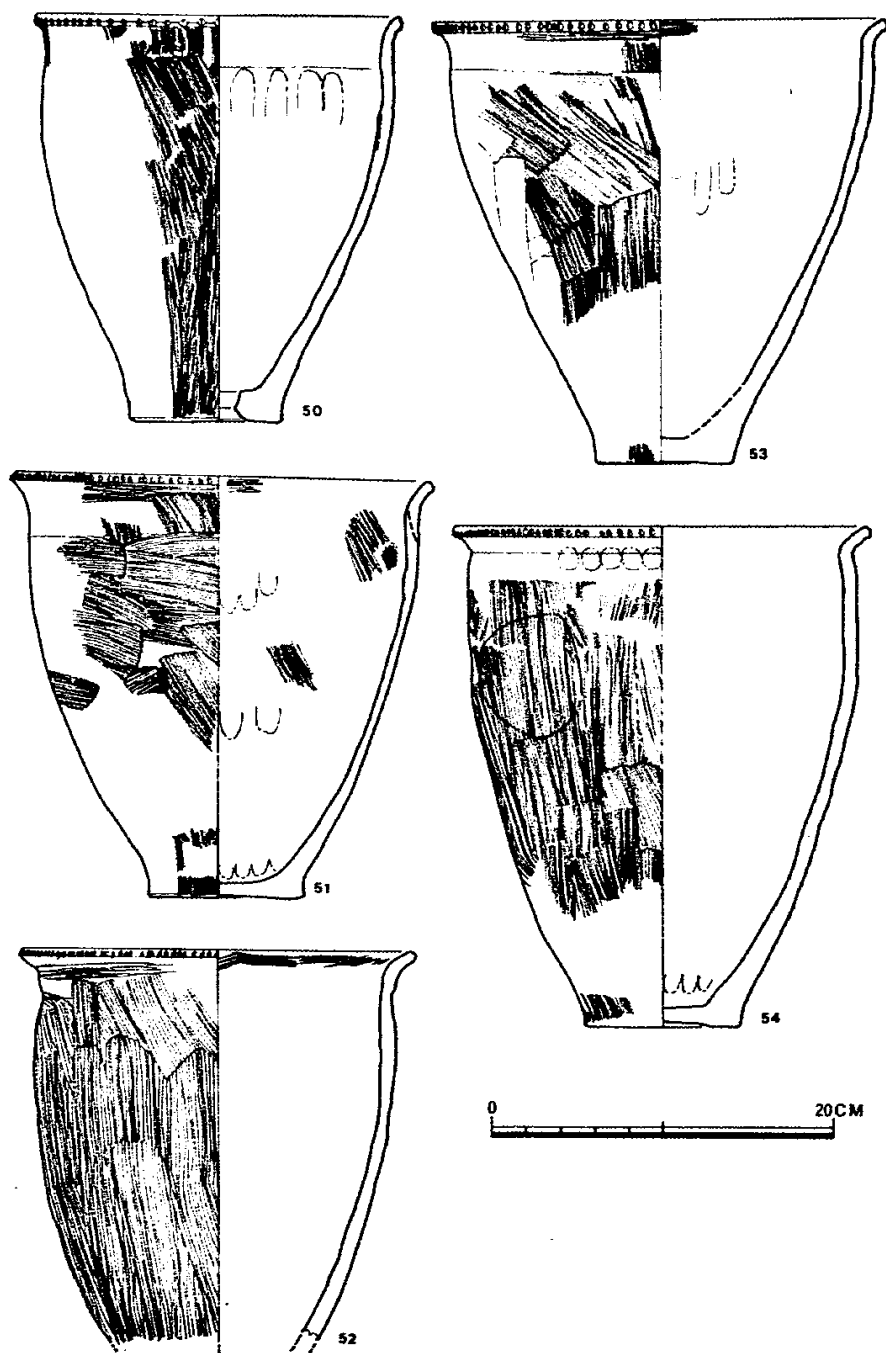
第43図 V字溝出土弥生式土器実測図(3) (1/4)



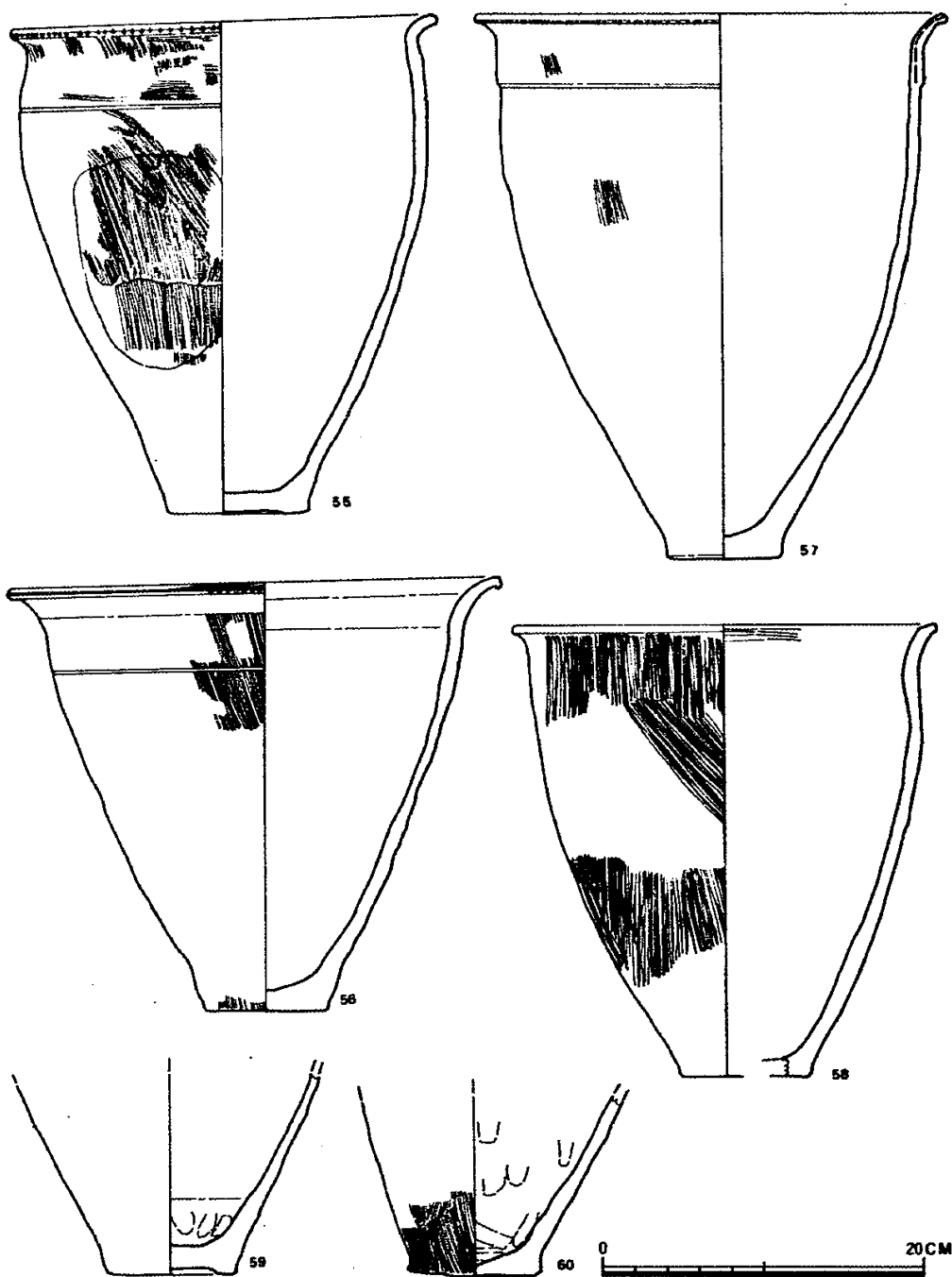
第44図 V字溝出土弥生式土器実測図(4) (1 / 4)



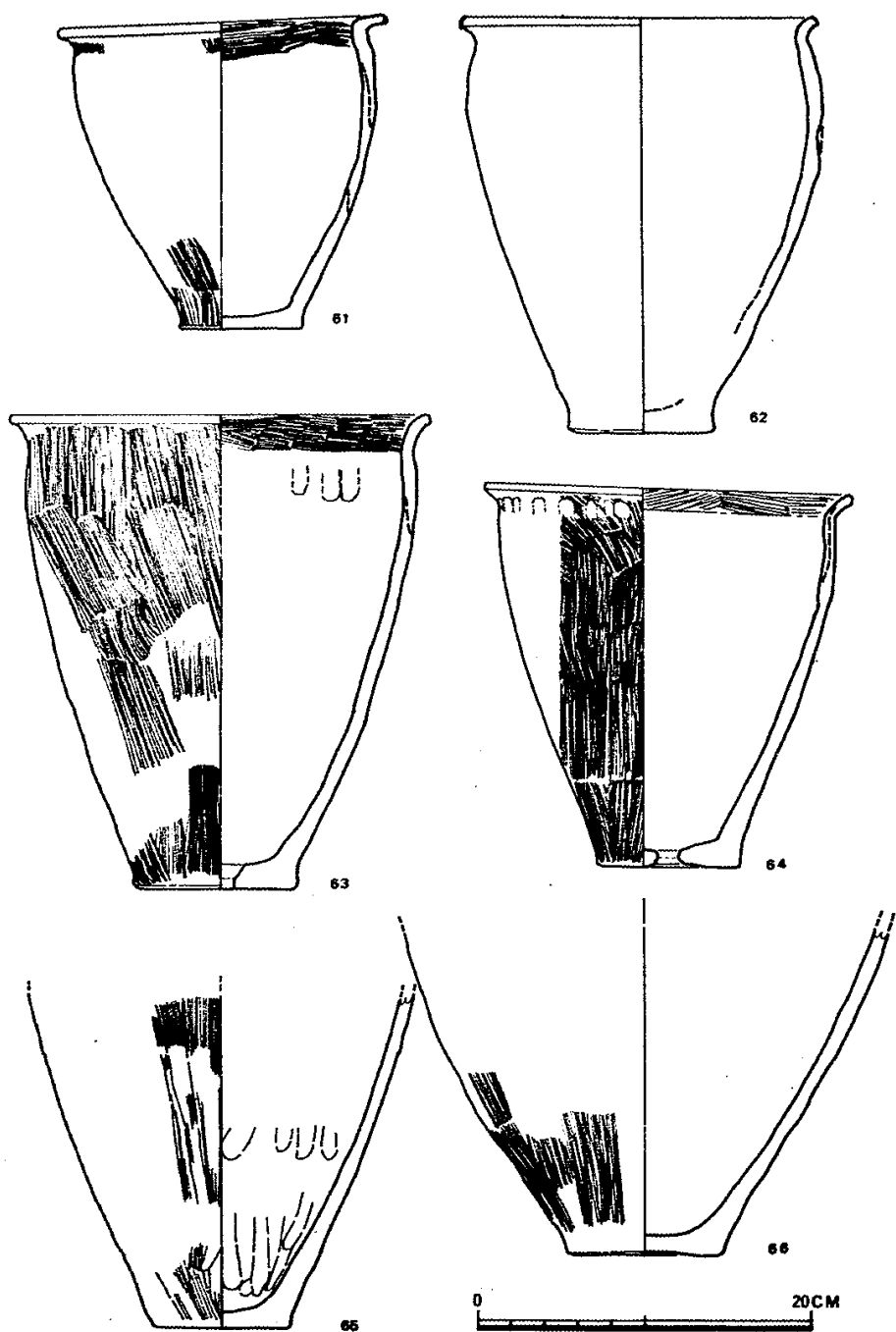
第45图 V字溝出土弥生式土器実測図(5) (1 / 4)



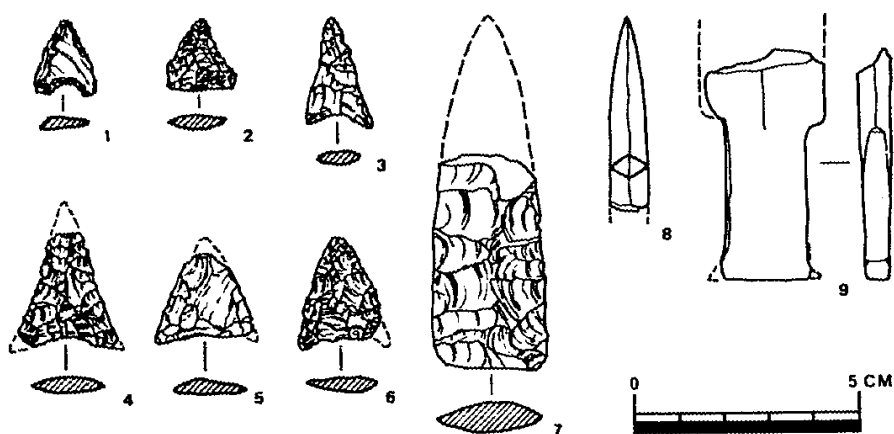
第46図 V字溝出土弥生式土器実測図(6) (1 / 4)



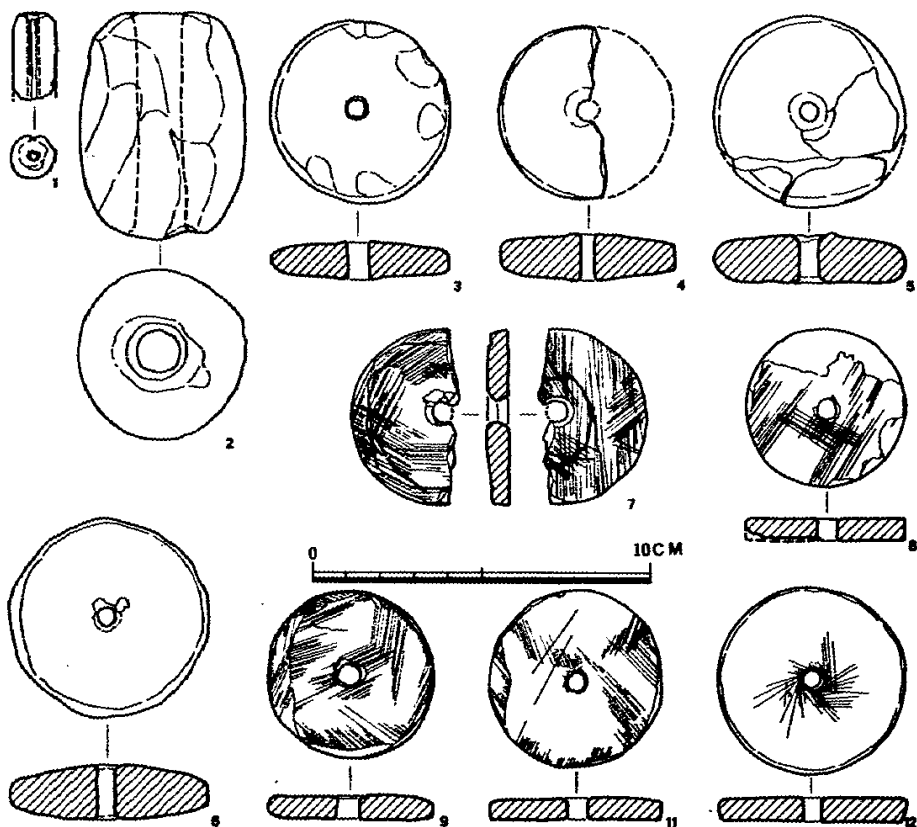
第47図 V字溝出土弥生式土器実測図7) (1 / 4)



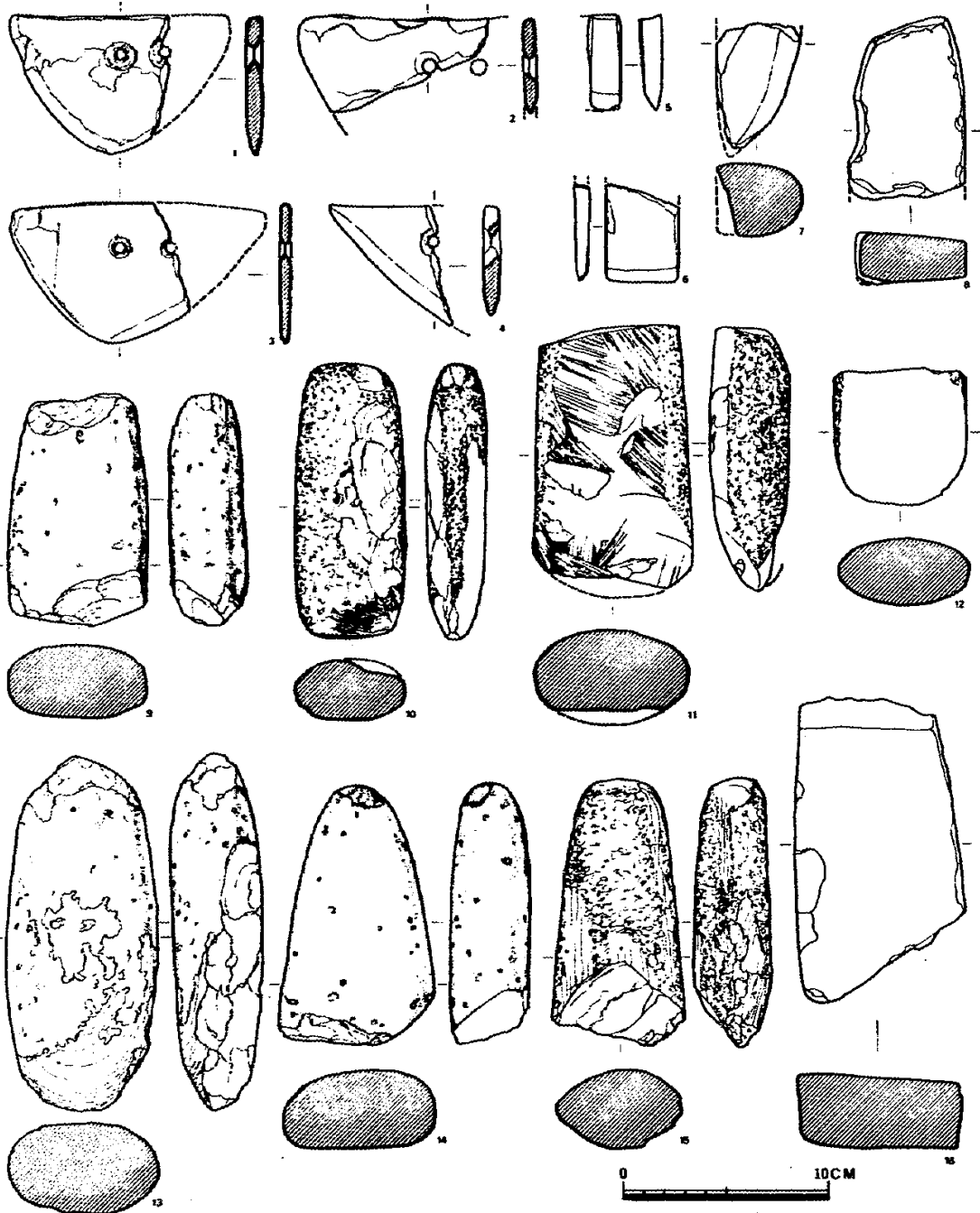
第48図 V字溝出土弥生式土器実測図(8) (1 / 4)



第49図 V字溝出土石器実測図(1) (2/3)



第50図 V字溝出土石器・土製品実測図 (1/2)



第51图 V字溝出土石器实测图(2) (1/3)



1. I区調査前
(東から)



2. I区調査前
(南東から)



3. I区調査後
(南東から)



1. 調査前の
1号墳



2. 1号墳石室



3. 1号墳閉塞石



1. 2号墳石室



2. 2号墳墓道上須恵器出土状況



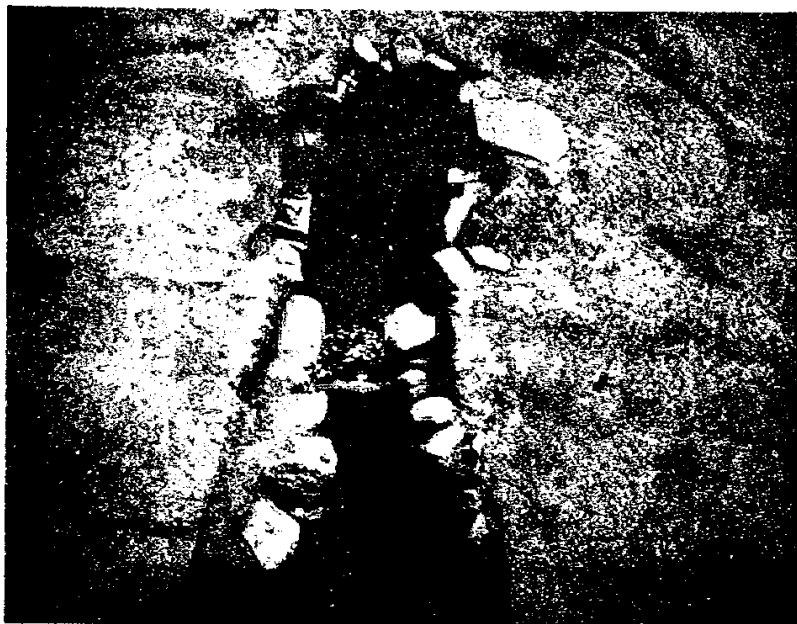
1. 3号填石室



2. 4号填石室



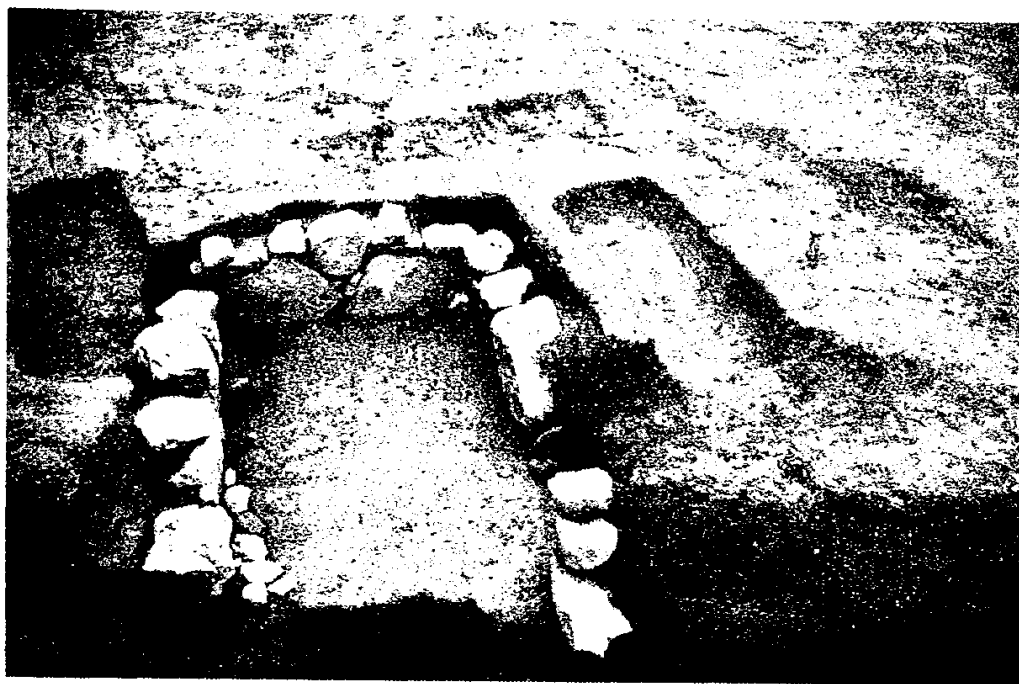
3. 4号填塞石



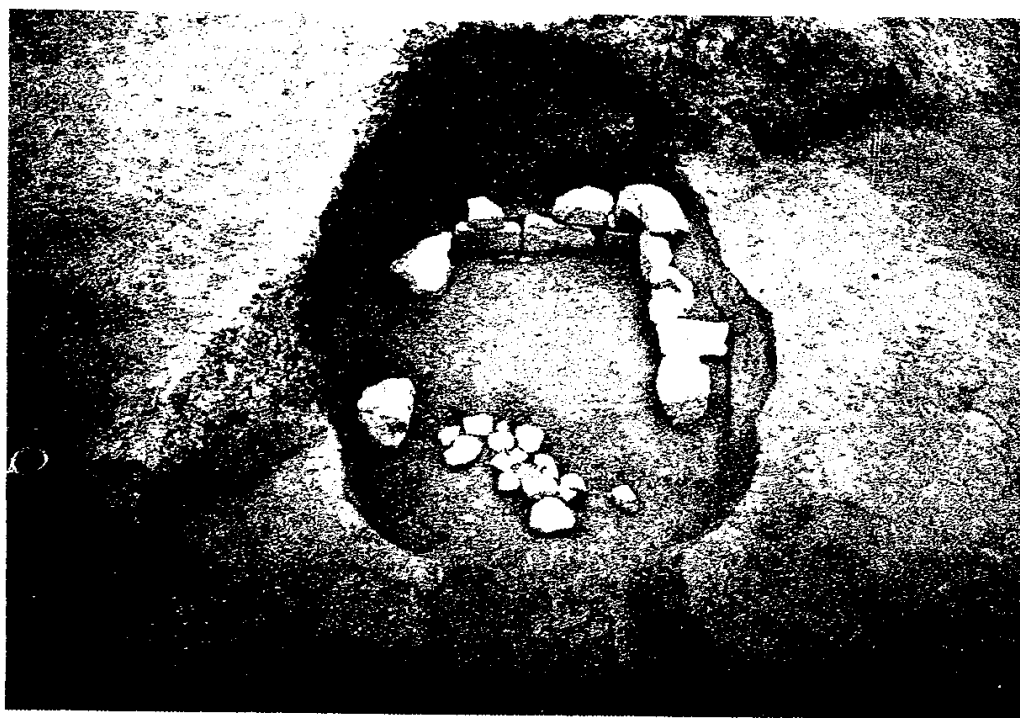
1. 5号填石室



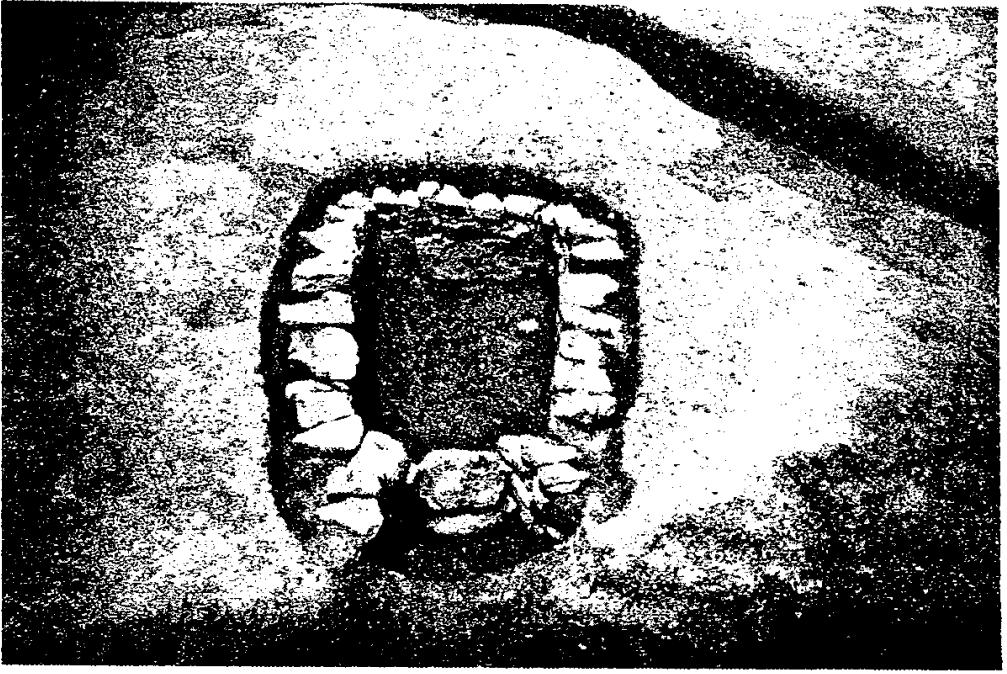
2. 5号填石室内
蛇行铁器出土状况



1. 6号填石室



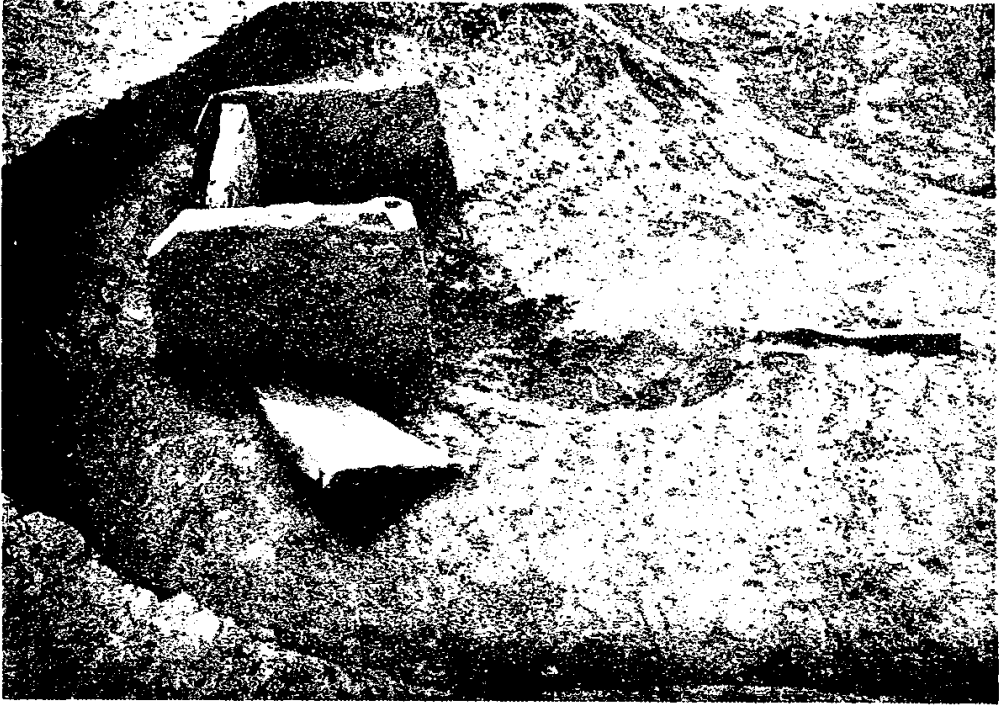
2. 7号填石室



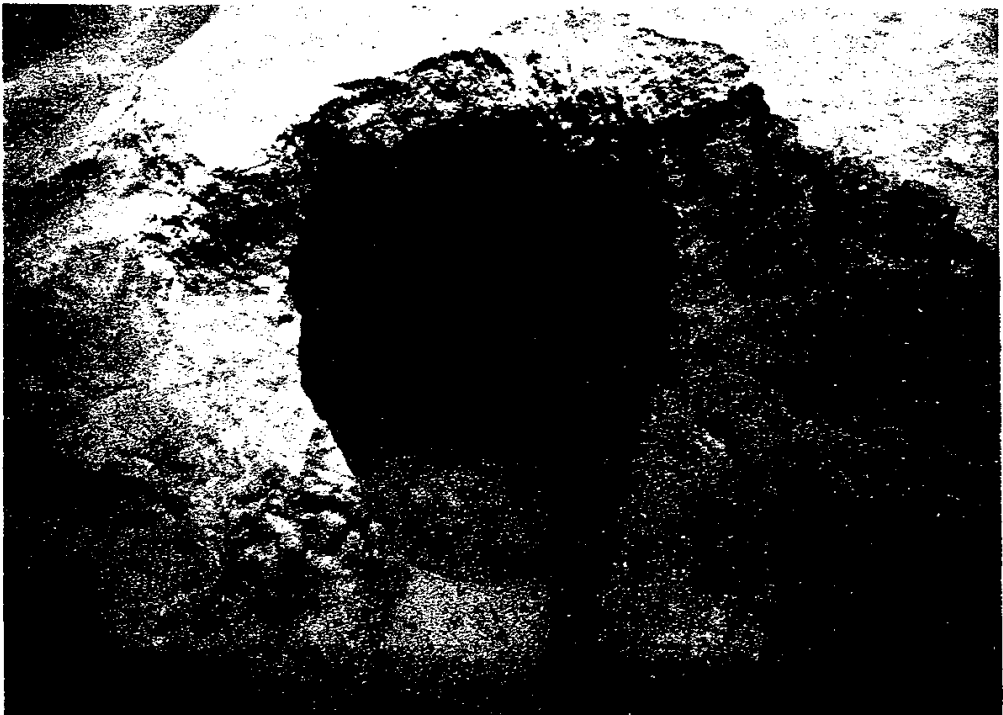
1. 8号填石室



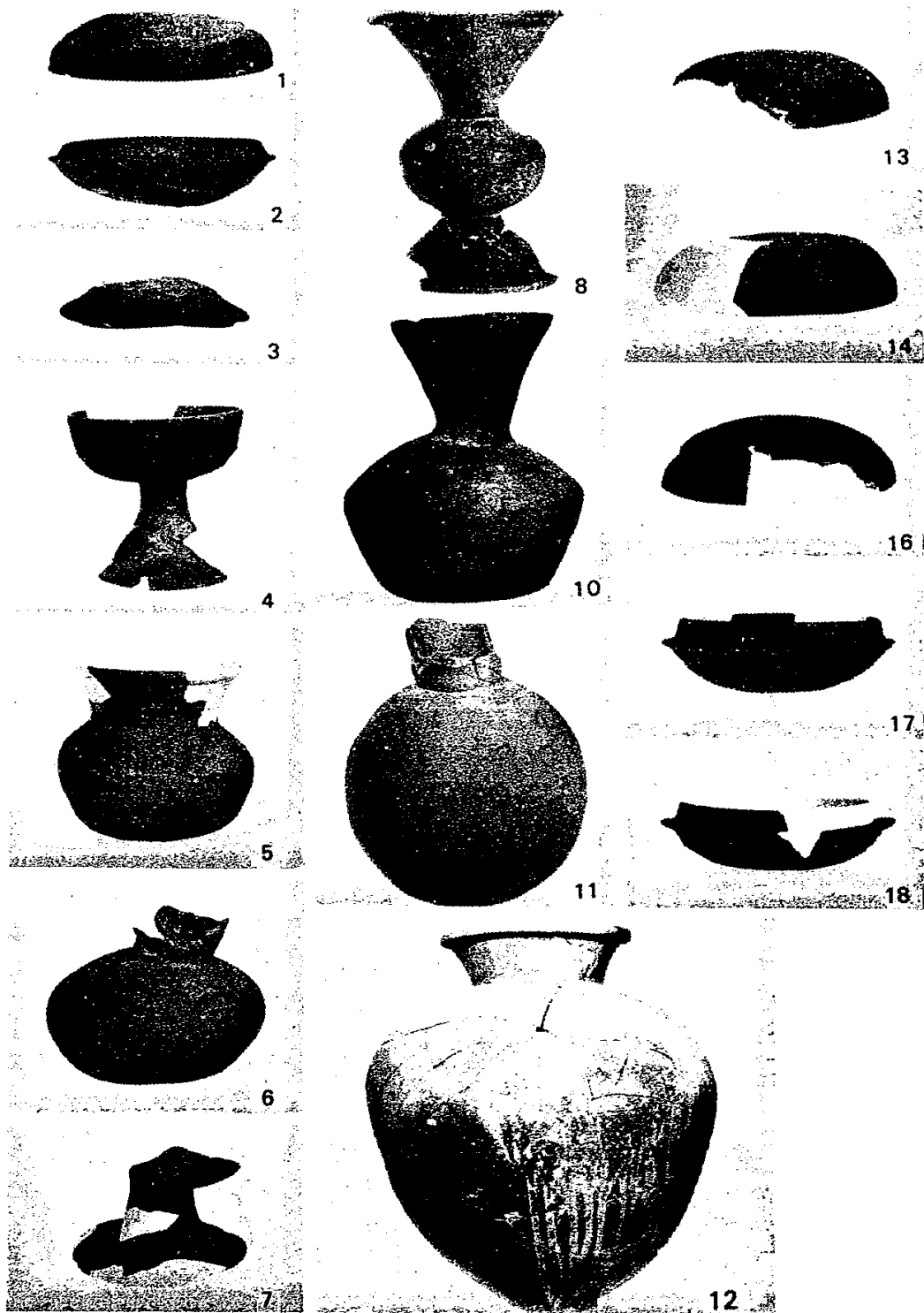
2. 1号小石室



1. 1号石棺



2. 横穴



出土土師器・須恵器

1・2
3~8・12
10・11
13~18

1号墳
2号墳
3号墳
4号墳



19



27



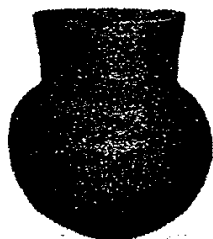
36



20



28



37



21



29



38



22



30



23



31



24



32



39



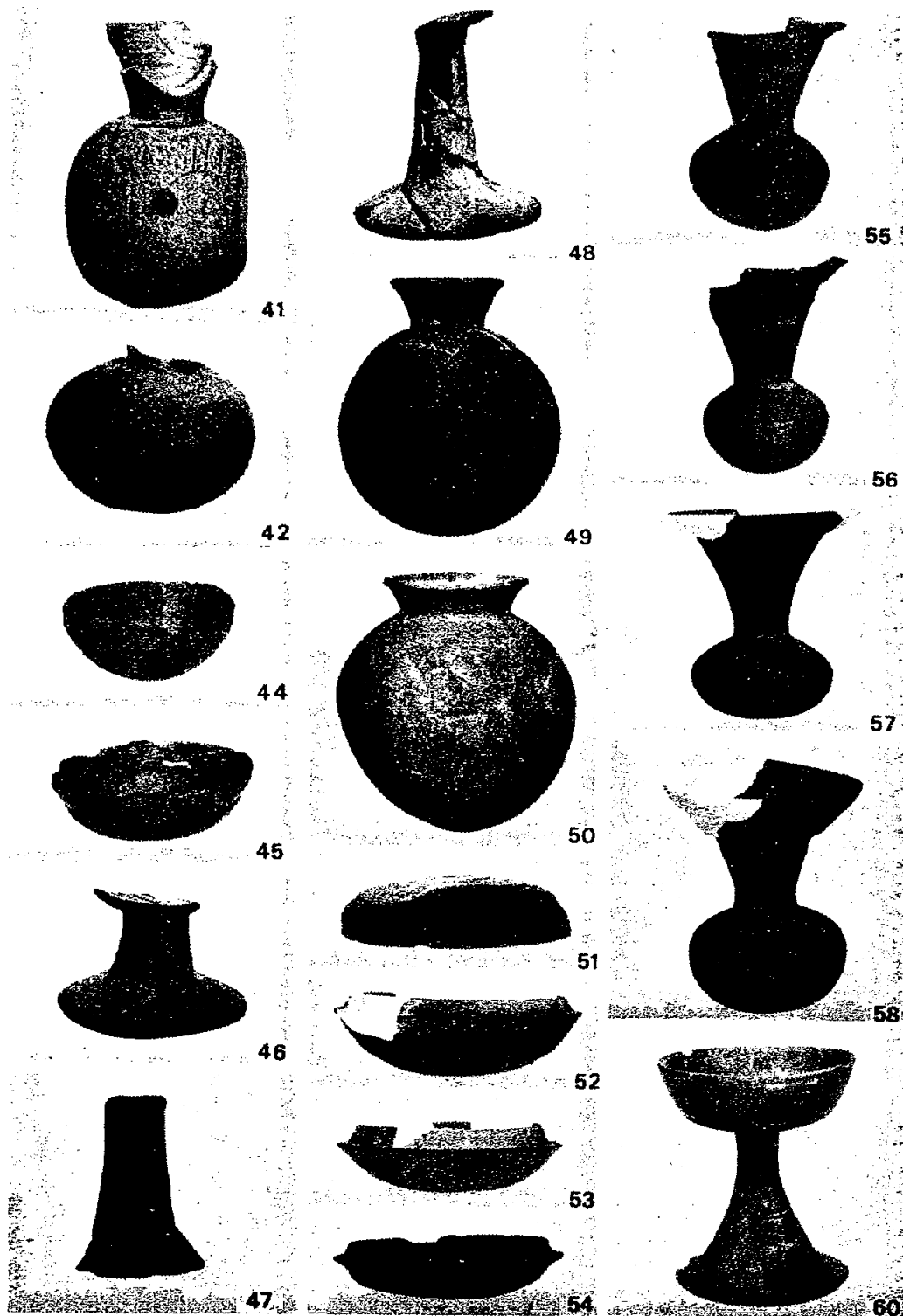
26



34



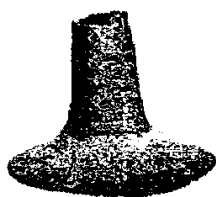
40



出土土師器・須恵器 (41~50 4号墳)
(51~60 5号墳)



61



65



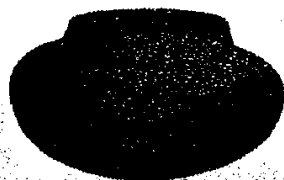
72



62



66



73



67



74



63



68



69



75



64



70



71



76

出土土師器・須恵器 (61~64 5号墳)
(65~67 6号墳)
(68~76 7号墳)



77



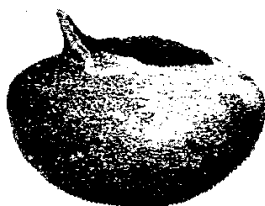
81



85



78



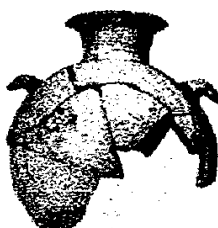
82



86



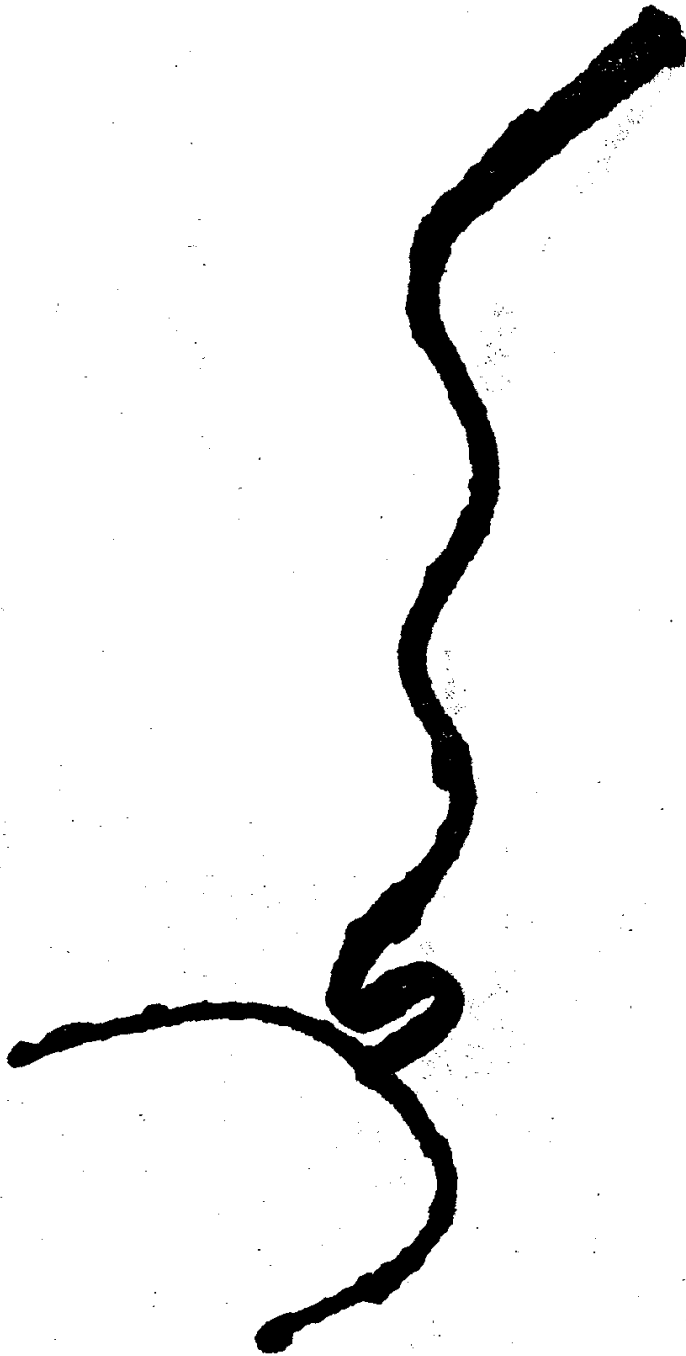
79



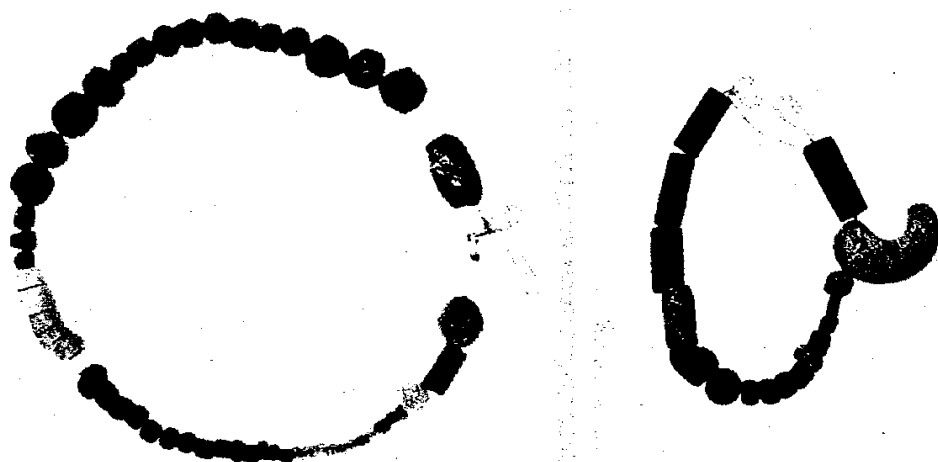
84



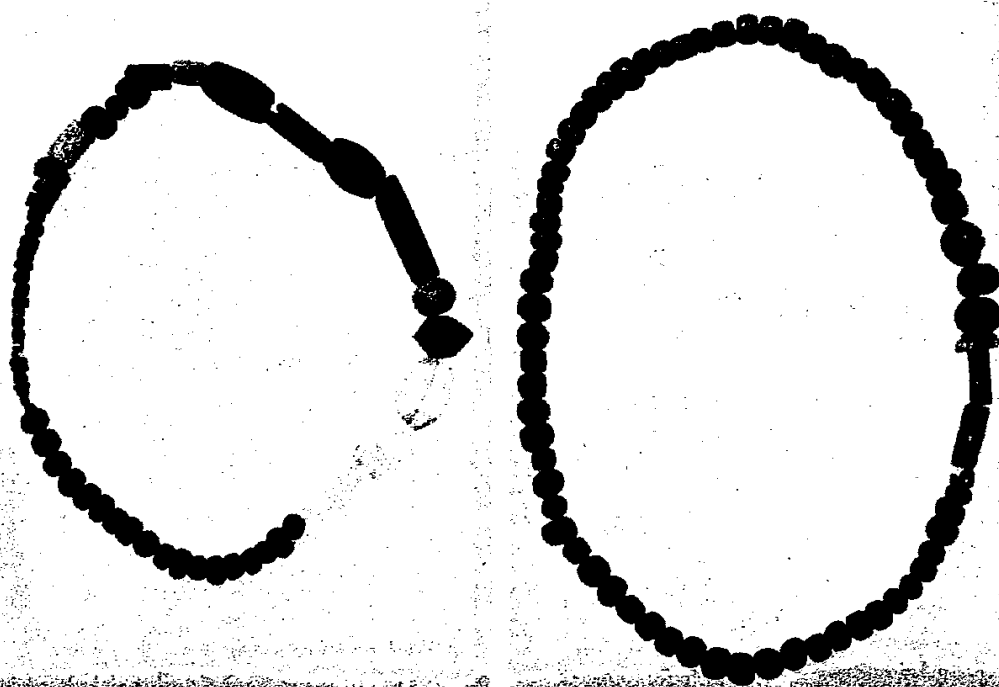
80

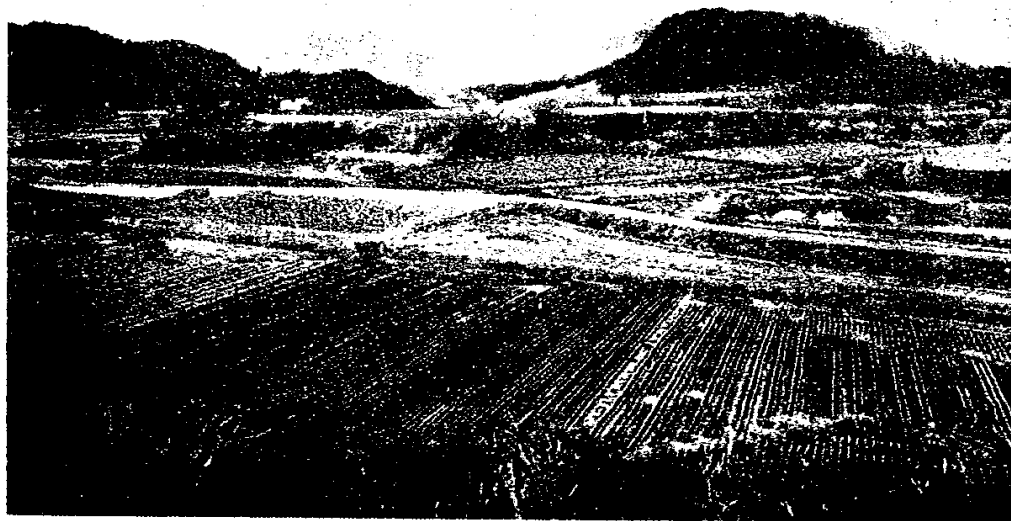


卡 2 号出土玉璜身片
卡 4 号出土玉璜身片



卡 3 号出土玉璜身片
卡 5 号出土玉璜身片





1. II-A区調査前（南から）



2. II-A区貯蔵穴



1. 住居跡群全批



2. 3号住居跡



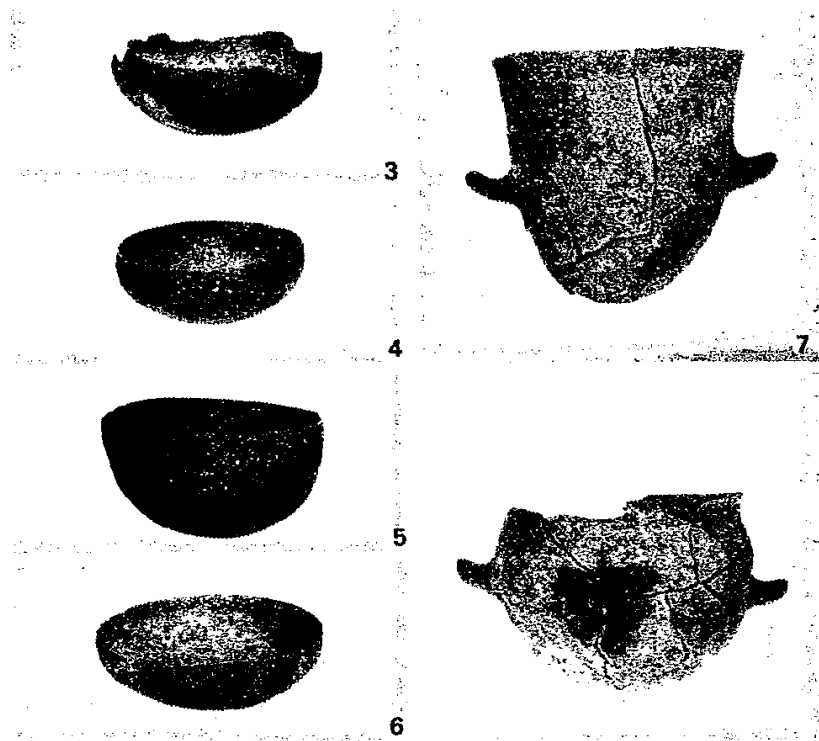
3. 9・12号住居跡



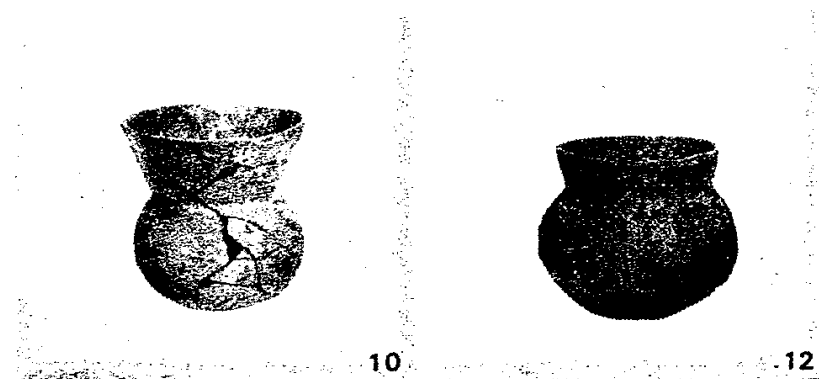
1. 6号住居跡



2. 7・8住居跡



3号住居跡出土土師器



7号住居跡出土土師器

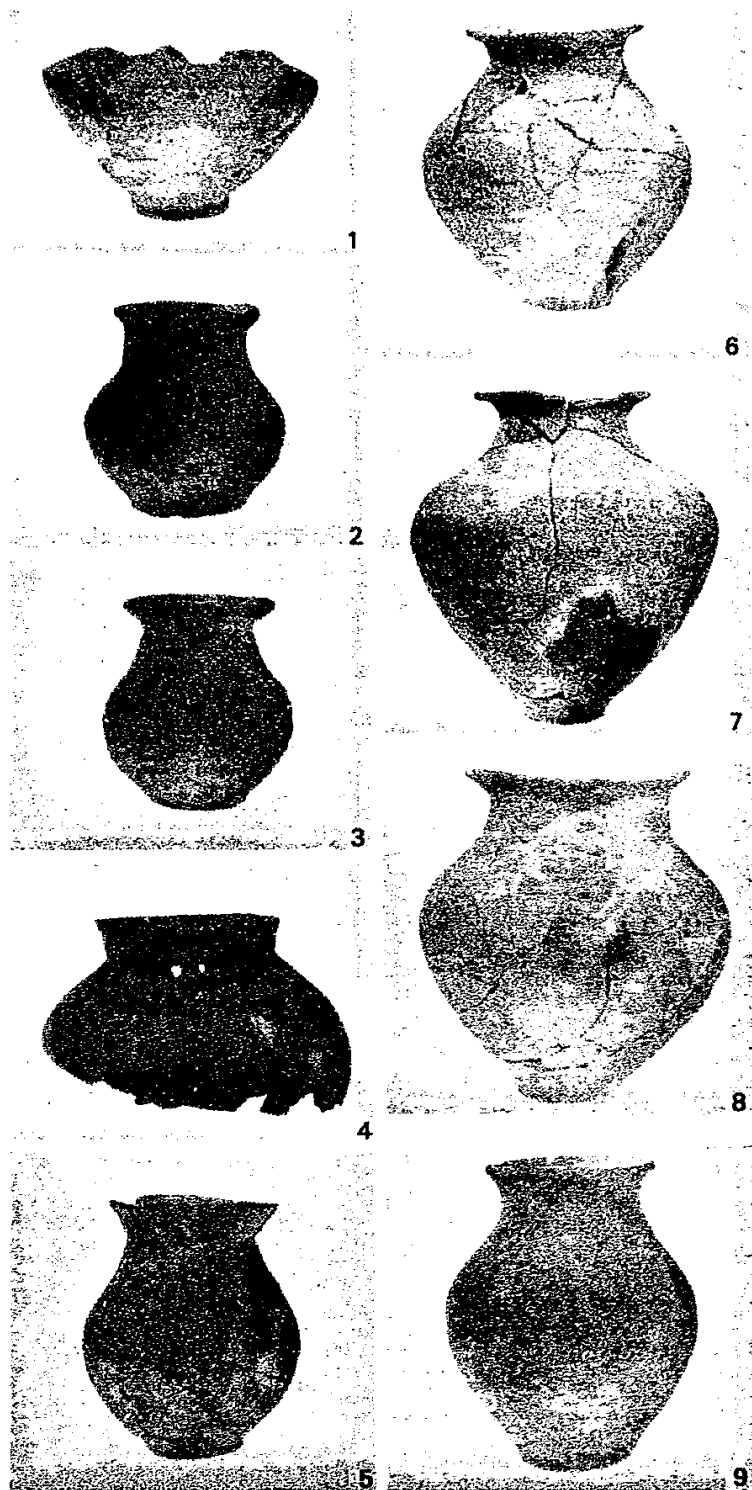
9号住居跡出土土師器



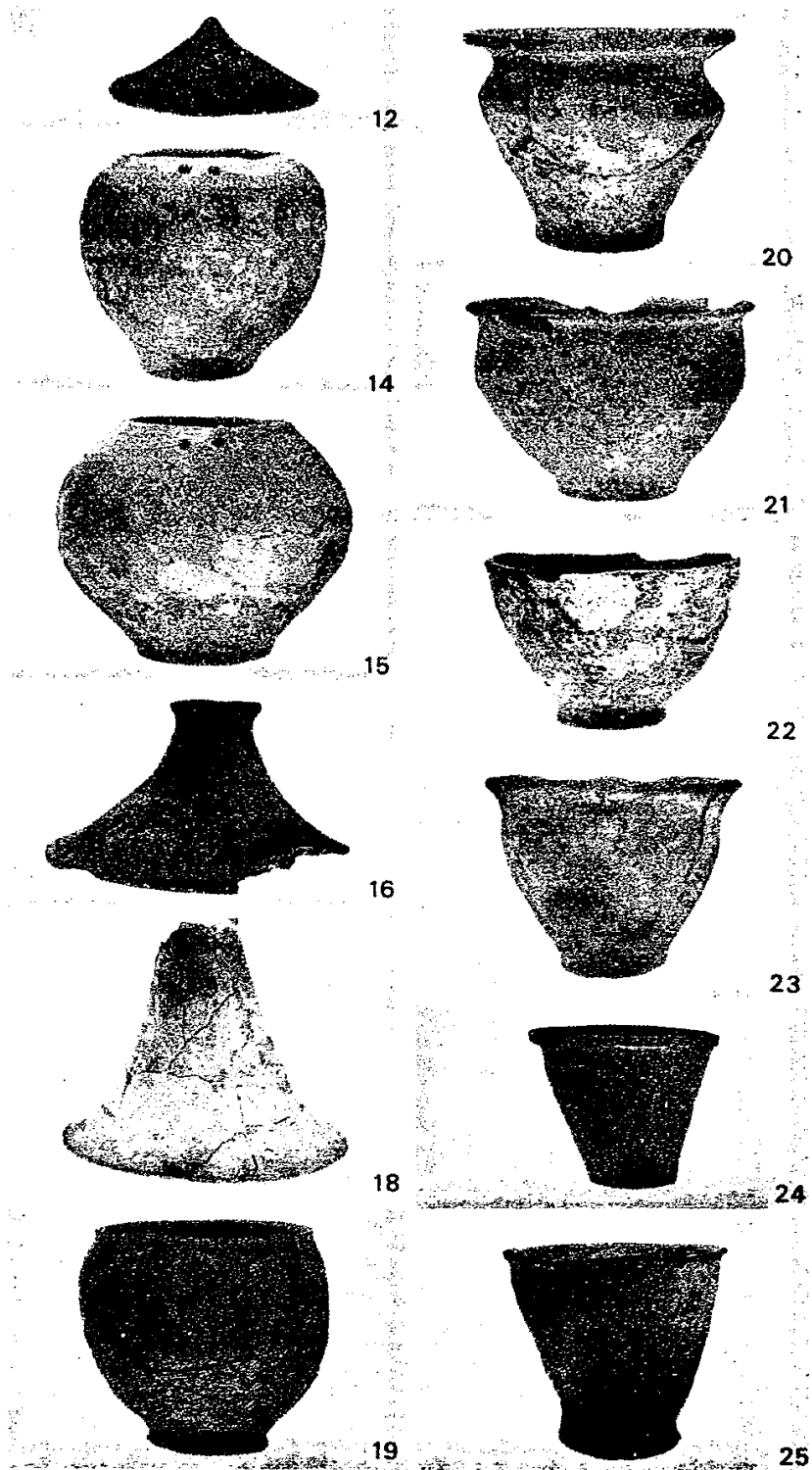
1. II-B区V字溝北半(西から)



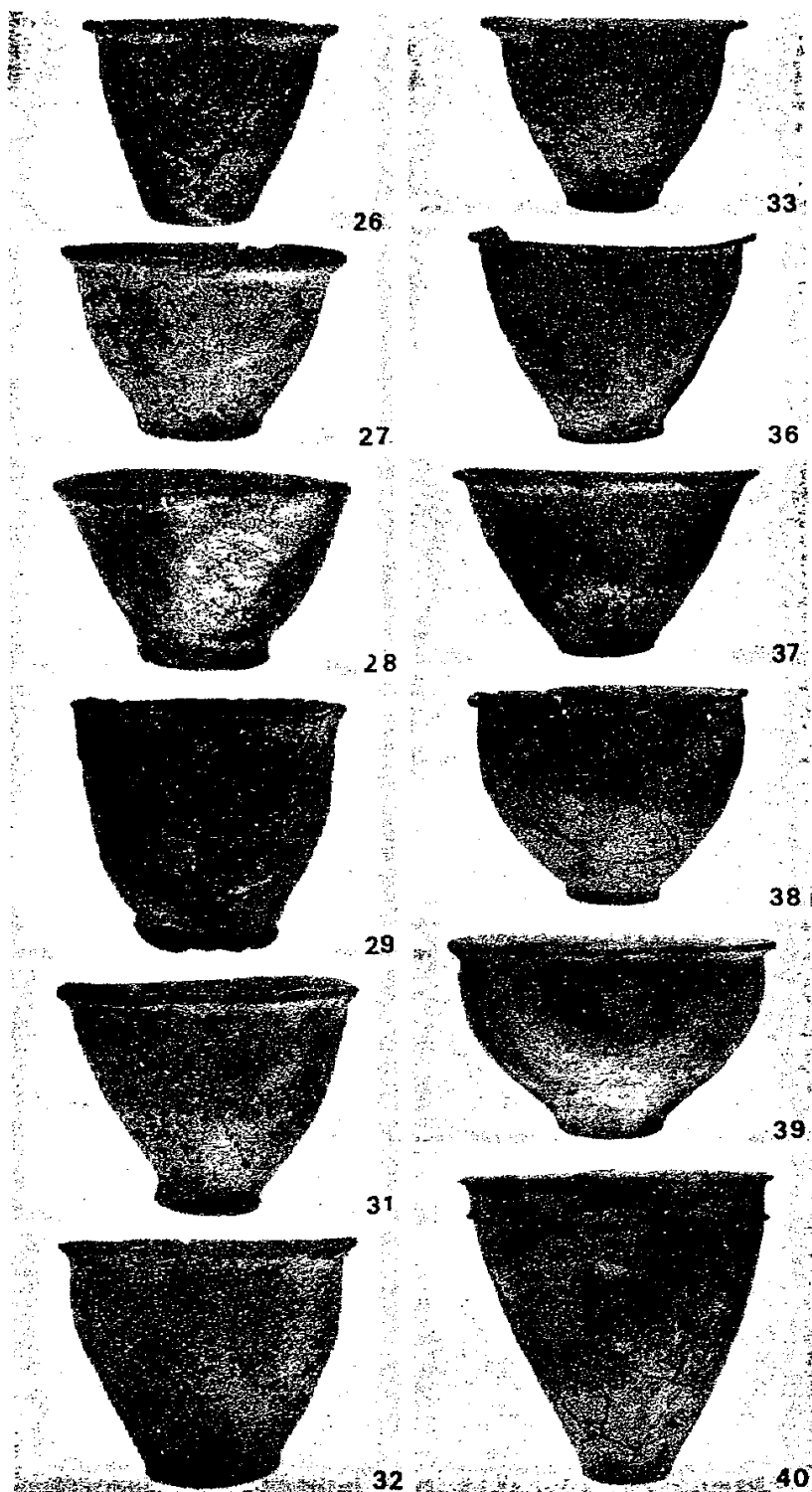
2. II-B区V字溝西半(南から)



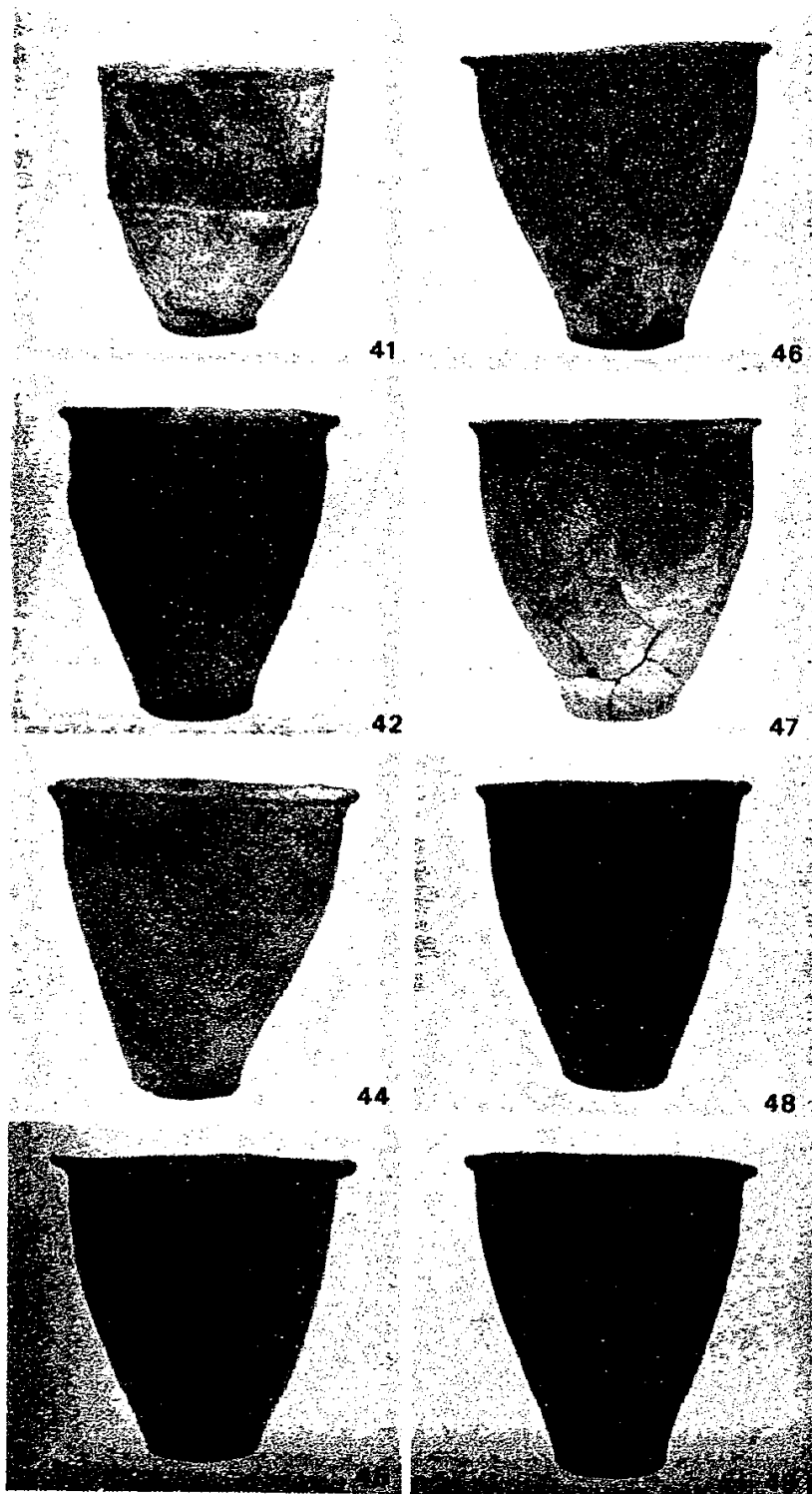
V字溝出土弥生式土器①



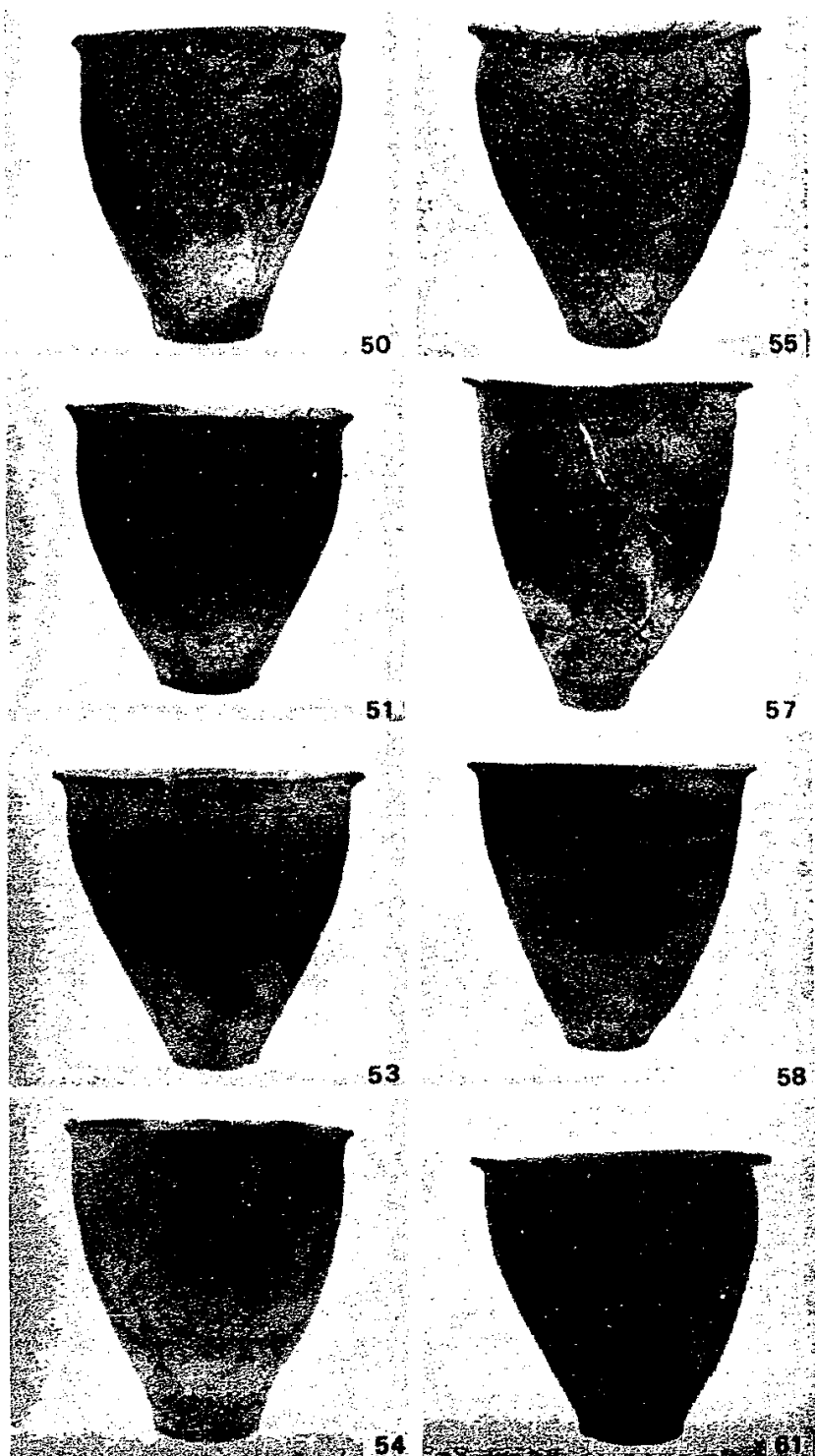
V字溝出土弥生式土器②



V字溝出土弥生式土器③



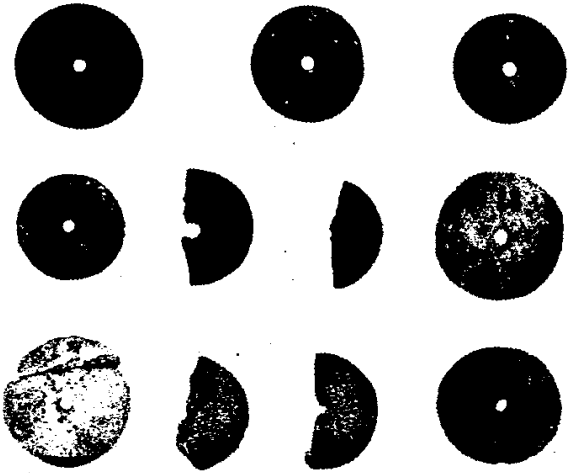
V字溝出土弥生式土器④



V字溝出土弥生式土器⑤



1. 石鏃・石劍



2. 紡錘車



3. 石包丁



1. 片刃石斧



2. 磨製石斧

宗 像
大 井 三 倉 遺 跡

— 1987年度 —

宗像市文化財調査報告書 第 11 集

1987 年 3 月 31 日

発行 宗像市教育委員会
福岡県宗像市大字東郷996番地

印刷 釜 瀬 印 刷
福岡県宗像市河東